

講義科目名称： 生命研究倫理論

授業コード： D2001

英文科目名称： Bioethics

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
峯村 優一			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 イントロダクション 総論 イントロダクション 生命研究倫理総論	峯村優一
	第2回 自身の研究について 博士課程において実施する研究についての発表等	峯村優一
	第3回 医学研究の倫理 I 人を対象とした医学研究の倫理（生命研究倫理の歴史）	峯村優一
	第4回 医学研究の倫理 II 人を対象とした医学研究の倫理	峯村優一
	第5回 インフォームド・コンセント I 研究におけるインフォームド・コンセント	峯村優一
	第6回 インフォームド・コンセント II 研究におけるインフォームド・コンセント	峯村優一
	第7回 安楽死・終末期医療 I 安楽死をめぐる生命倫理	峯村優一
	第8回 安楽死・終末期医療 II 安楽死をめぐる生命倫理	峯村優一
	第9回 脳死・終末期医療 I 脳死をめぐる生命倫理	峯村優一
	第10回 脳死・終末期医療 II 脳死をめぐる生命倫理	峯村優一
	第11回 医学研究の倫理、インフォームド・コンセント、終末期医療のまとめ 医学研究の倫理、インフォームド・コンセント、終末期医療	峯村優一
	第12回 研究倫理の一般的課題（1） 利益相反	峯村優一
	利益相反	
	第13回 研究倫理の一般的課題（2） 研究不正	峯村優一
	第14回 研究倫理の一般的課題（3） 公的研究費の扱い	峯村優一
第15回 医学研究の倫理、インフォームド・コンセント、終末期医療、研究倫理の一般的課題のまとめと確認 医学研究の倫理、インフォームド・コンセント、終末期医療、研究倫理の一般的課題	峯村優一	
科目の目的	医学研究にかかわる倫理的問題について常に意識し、考え方を整理して、問題点を列挙し、議論できる能力を身につける。【研究能力】	
到達目標	1. 医療医学における研究と実践の基礎となる生命倫理・研究倫理上の問題に適切に対応できる。 2. 責任ある研究行為を実施できる。 3. 倫理的な知識また意思決定能力を向上する。	
成績評価方法・基準	毎回の講義への積極的な参加、態度により評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について 時間予習・復習を行い理解しておくこと。	
教科書	パワーポイント講義資料 必要に応じて海外先行研究の文献、資料を配布する。	
参考書	参考書：神里彩子・武藤香織編 2015 『医学・生命科学の研究倫理ハンドブック』 東京大学出版会 必要に応じて英語文献、資料を配布する。	
オフィス・アワー	個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。	
履修条件・履修上の注意	自主的かつ積極的に関連文献を講読すること。	

ナンバリング

KCF-601

講義科目名称： 医療科学研究法（生体分子・病原体遺伝子）

授業コード： D2002

英文科目名称： Methodology of … (Biological Molecules and Pathogen Genomics)

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 博一	松下 誠	亀子 光明	高橋 克典
	木村 鮎子	大熊 博	
授業形態	講義	担当者	
授業計画	第1回	イントロダクション・病原体ゲノム解析研究法 医療科学研究に関するイントロダクションならびに病原体ゲノムに関する先駆的解析・研究法	木村博一
	第2回	ウイルスゲノム・ウイルス抗原蛋白解析研究法 ウイルスゲノム・抗原蛋白構造解析・研究法	木村博一
	第3回	低分子タンパク質研究法 低タンパク質の分子機能解析研究法(1)	亀子光明
	第4回	低分子タンパク質研究法 低タンパク質の分子機能解析研究法(2)	亀子光明
	第5回	培養細胞によるサイトカイン研究法 培養細胞を用いたサイトカイン解析研究法(1)	高橋克典
	第6回	培養細胞によるサイトカイン研究法 培養細胞を用いたサイトカイン解析研究法(2)	高橋克典
	第7回	疾患関連タンパク質の機能解析研究法 疾患関連タンパク質の検出・同定と機能解析研究法	木村鮎子
	第8回	疾患特異的タンパク質リン酸化研究法 疾患特異的タンパク質のリン酸化解析研究法	木村鮎子
	第9回	電気泳動法を用いたアイソザイム解析法(1) 電気泳動法を用いたアイソザイム解析法を概説する。	松下誠
	第10回	アイソザイム解析研究法(2) 電気泳動法を用いたアイソザイム解析法を概説する。	松下誠
	第11回	アイソザイム解析研究法(3) 電気泳動法を用いたアイソザイム解析法を概説する。	松下誠
	第12回	薬剤耐性遺伝子分子進化解析法(1) キノロン系抗菌薬耐性機構について進化的観点を基に講義する。	木村博一
	第13回	薬剤耐性遺伝子分子進化解析法(2) カルバペネム系抗菌薬耐性機構について進化的観点を基に講義する。	木村博一
	第14回	薬剤耐性菌の分子疫学的解析研究法 薬剤耐性菌の分子疫学的解析法を概説する。	大熊博
	第15回	腸内細菌の遺伝子・酵素学的解析研究法 腸内細菌の遺伝子・酵素学的解析法を概説する。	大熊博
科目の目的	生体分子・病原体遺伝子領域で研究を遂行するのに必要な知識、技術ならびに科学的根拠に基づく分析能力を兼ね備え、他領域との研究連携を視野に、自らの研究分野以外の幅広い知識と課題に適した研究方法を選択できる能力を修得することを目的とする。【研究能力】【教育指導能力】【実践能力】【応用能力】		
到達目標	生体分子・病原体遺伝子解析領域における医療科学研究法の特徴及び科学的根拠に基づいた実践の概要を理解するとともに課題に適した研究方法を選択できる。		
成績評価方法・基準	討論内容ならびに理解度から総合的(100%)に評価する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について4時間予習・復習を行い理解しておくこと。		
教科書	特になし。 必要に応じて資料を配布する。		
参考書	特になし。		
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は各担当教員の講義終了後に対応する。 木村博一：h-kimura@paz.ac.jp 松下誠：matsushita@paz.ac.jp 亀子光明：kameko@paz.ac.jp 高橋克典：k-takahashi@paz.ac.jp 木村鮎子：ay-kimura@paz.ac.jp		
履修条件・履修上の注意	自主的かつ積極的に関連文献を講読すること。		
ナンバリング	KSM-601		

講義科目名称： 医療科学研究法（細胞機能・生殖補助技術） 授業コード： D2003

英文科目名称： Methodology of … (Cellular Function and Assisted Reproductive Technology) 対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
荒木 泰行	中島 久美子	岡山 香里	林 由里子
授業形態	講義	担当者	
授業計画	第1回	体外受精を用いた研究手法 不妊治療と体外受精の実際	荒木 泰行
	第2回	顕微授精を用いた研究手法 顕微授精技術の実際	荒木 泰行
	第3回	配偶子凍結を用いた研究手法 精子、卵子、受精胚の凍結保存について	荒木 泰行
	第4回	マニピュレーターを用いた研究手法 マニピュレーターを用いた細胞微細操作に関する研究について	荒木 泰行
	第5回	染色体異常に関する研究手法 染色体の検査法や構造異常的異常について	荒木 泰行
	第6回	発生工学を用いた研究手法 初期発生時の配偶子に人為的な操作を加えて改変する技術について	荒木 泰行
	第7回	不妊治療に関する統計手法	中島 久美子
	第8回	組織学的検査を用いた研究手法 (1)	岡山 香里
	第9回	組織学的検査を用いた研究手法 (2)	岡山 香里
	第10回	組織学的検査を用いた研究手法 (3)	岡山 香里
	第11回	細胞学的検査を用いた研究手法 (4)	岡山 香里
	第12回	血液学的検査法を用いた研究手法 (1)	林 由里子
	第13回	血液学的検査法を用いた研究手法 (2)	林 由里子
	第14回	血液学的検査法を用いた研究手法 (3)	林 由里子
	第15回	血液学的検査法を用いた研究手法 (4)	林 由里子
科目の目的	がん細胞や血液細胞の機能やメカニズム、及び生殖補助技術領域で研究を遂行するのに必要な知識、技術、科学的根拠に基づく分析能力を兼ね備え、他領域との研究連携を視野に、自らの研究分野以外の幅広い知識と課題に適した研究法を選択できる能力を修得する。【研究能力】【教育指導能力】【実践能力】【応用能力】		
到達目標	がん細胞や血液細胞の機能やメカニズム、及び生殖補助技術領域における医療科学研究法の特徴及び科学的根拠に基づいた実践の概要を理解し課題に適した研究法を選択できる。		
成績評価方法・基準	レポート100%により成績を評価する。レポートは100点を基準とし、採点後返却しない。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について、4時間を目途に予習・復習を実施してください。		
教科書	特になし。		
参考書	必要に応じて資料を配布する。		
オフィス・アワー	質問は各講義の終了後に受け付けます。 その他の時間帯はメールにて受け付けます。 荒木 泰行:y-araki@paz.ac.jp 岡山 香里:okayama@paz.ac.jp 林 由里子:hayashi@paz.ac.jp		
履修条件・履修上の注意	自主的かつ積極的に関連文献を講読すること。		
ナンバリング	KSM-602		

講義科目名称： 医療科学研究法（生体機能）

授業コード： D2004

英文科目名称： Methodology of Medical Science Reserch (Biological Function) 対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 朗	佐藤 満	渡邊 浩	湯本 真人
	宗宮 真	花田 三四郎	
授業形態	演習		担当者
授業計画	第1回	循環器・代謝系疾患における生体機能解析に関する技術や方法の教授 糖尿病や脳血管障害などの事例を上げ、血圧脈波伝搬速度と身体活動データの構造など複合要因解析技術について幅広い概念と方法論を教授する。	木村 朗
	第2回	運動障害の身体活動定量化における生体機能解析に関する技術や方法の教授 運動障害の身体活動定量化方法について幅広い概念と方法論を教授する。	木村 朗
	第3回	心臓疾患や心筋障害に関する研究論文の講読及び発表 討論（1） 心電図・心エコー解析などの体内動態解析法、画像解析を取り上げる。	湯本 真人
	第4回	化学物質過敏症に関する研究論文の講読及び発表討論（2） 炎症性サイトカインなどの体内動態解析法、画像解析を取り上げる。	湯本 真人
	第5回	胃癌に関する研究論文の講読及び発表討論（3） 胃癌に関する病態病因に関連する研究を取り上げる。	湯本 真人
	第6回	工学的手法を用いた理学療法に関する研究・評価法について幅広い概念と方法論の教授（1） 工学的手法を用いた理学療法に関する研究に関連する基本的な研究を取り上げる	佐藤 満
	第7回	工学的手法を用いた理学療法に関する研究・評価法について幅広い概念と方法論の教授（2） 工学的手法を用いた理学療法に関する研究に関連する応用的な研究を取り上げる	佐藤 満
	第8回	工学的手法を用いた理学療法に関する研究・評価法について幅広い概念と方法論の教授（3） 工学的手法を用いた理学療法に関する研究に関連する研究のトピックスを取り上げる。	佐藤 満
	第9回	パーキンソン 病発症メカニズムに関する研究・評価法について幅広い概念と方法論の教授（1） パーキンソン病に関する研究・評価法について幅広い概念と方法論を修得する	宗宮 真
	第10回	パーキンソン 病発症メカニズムに関する研究・評価法について幅広い概念と方法論の教授（2） パーキンソン病に関する研究・評価法について幅広い概念と方法論を修得する	宗宮 真
	第11回	先駆的な再生医学理論を用いた、臓器再生・構築に関する研究論文の講読及び発表討論（1） 再生医学と治療に関連する基本的な研究論文の講読及び発表討論	花田 三四郎
	第12回	先駆的な再生医学理論を用いた、臓器再生・構築に関する研究論文の講読及び発表討論（2） 再生医学と治療に関連する応用的な研究論文の講読及び発表討論	花田 三四郎
	第13回	先駆的な再生医学理論を用いた、臓器再生・構築に関する研究論文の講読及び発表討論（3） 再生医学と治療に関連するトピックスとなる研究論文の講読及び発表討論	花田 三四郎
	第14回	医療被曝や核医学検査技術に関する研究・評価法関連研究論文 の講読及び発表討論（1） 医療被曝や核医学検査技術に関する基本的な研究論文の講読及び発表討論	渡邊 浩
	第15回	医療被曝や核医学検査技術に関する研究・評価法研究論文 の講読及び発表討論（2） 医療被曝や核医学検査技術に関する応用的な研究論文の講読及び発表討論	渡邊 浩
科目の目的	生体機能領域の解決すべき課題を広く探求し、課題解決思考を発展させることを目的とする。【研究能力】 【教育指導能力】 【実践能力】 【応用能力】		
到達目標	1. 生体機能領域の英文論文を講読し発表討論ができる。 2. 関連研究論文を読み、討論を通して実践的な研究を進めることができる。		
成績評価方法・基準	関連研究論文の講読理解度（50%）及び発表討論の内容（50%）から総合的に評価する。		

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	本講義1コマに対し、4時間以上の予習復習等自己学習を要する。
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書	特になし 必要に応じて資料を配布する。
オフィス・アワー	各講義終了後休み時間に対応する。木村朗研究室 (a-kimura@paz.ac.jp)、佐藤研究室 (satou@paz.ac.jp)、渡邊研究室(watanabe@paz.ac.jp)、湯本研究室(yumoto@paz.ac.jp)、宗宮研究室(somiya@paz.ac.jp)、花田研究室(hanada@paz.ac.jp) その他個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。
履修条件・履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的かつ積極的に文献収集及び講読を行うこと。</li> <li>・状況に応じて内容が変更される場合がある。</li> </ul>
ナンバリング	KSM-603

講義科目名称： 特講（生体分子・病原体遺伝子）

授業コード： D2005

英文科目名称： Advanced Seminar（Biological Molecules and Pathogen Genomics）

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 博一	松下 誠	亀子 光明	高橋 克典
	木村 鮎子	大熊 博	
授業形態	講義		
授業計画	第1回	医療科学に関する最新知見と最新解析技術論に基づくイントロダクション 医療科学に関する最新知見と最新解析技術論を概説する。	木村博一
	第2回	分子構造解析及び分子機能解析法 異常免疫グロブリン（IgA）の分子構造解析を概説する。	木村博一
	第3回	分子構造解析及び分子機能解析法 微量タンパク質の分子構造解析（1）	亀子 光明
	第4回	分子構造解析及び分子機能解析法 微量タンパク質の分子構造解析（2）	亀子 光明
	第5回	分子構造解析及び分子機能解析法 微量タンパク質の分子機能解析法（1）	高橋 克典
	第6回	分子構造解析及び分子機能解析法 微量タンパク質の分子機能解析法（2）	高橋 克典
	第7回	翻訳後修飾解析法及び機能異常解析法 タンパク質複合体・疾患特異的タンパク質の翻訳後修飾解析法及び機能異常解析法（1）	木村 鮎子
	第8回	翻訳後修飾解析法及び機能異常解析法 タンパク質複合体・疾患特異的タンパク質の翻訳後修飾解析法及び機能異常解析法（2）	木村 鮎子
	第9回	電気泳動法を用いたアイソザイム解析法（1） 電気泳動法を用いたアイソザイム解析法を概説する。	松下 誠
	第10回	電気泳動法を用いたアイソザイム解析法（2） 電気泳動法を用いたアイソザイム解析法を概説する。	松下 誠
	第11回	電気泳動法を用いたアイソザイム解析法（3） 電気泳動法を用いたアイソザイム解析法を概説する。	松下 誠
	第12回	ウイルス感染症の分子疫学ならびに遺伝子型別流行予測プログラムの作成法（1） ノロウイルス感染症の分子疫学ならびにゲノム解析を基盤とする流行予測解析に関する講義を行う。	木村 博一
	第13回	ウイルス感染症の分子疫学ならびに遺伝子型別流行予測プログラムの作成法（2） RSウイルス感染症の分子疫学ならびにゲノム解析を基盤とする流行予測解析に関する講義を行う。	木村 博一
	第14回	薬剤耐性細菌の分子疫学的解析法（1） 薬剤耐性細菌の分子疫学的解析法を概説する。	大熊 博
	第15回	薬剤耐性細菌の分子疫学的解析法（2） 薬剤耐性細菌の分子疫学的解析法を概説する。	大熊 博
科目の目的	生体分子・病原体遺伝子領域における科学的エビデンスを構築するための高度解析技術や最新評価法などを修得することを目的とする。【研究能力】【教育指導能力】【実践能力】【応用能力】		
到達目標	生体分子・病原体遺伝子領域の高度解析技術及び最新評価法を理解し研究に応用できる。		
成績評価方法・基準	レポート（50%）及び討論内容・理解度（50%）から総合的に評価する。レポートは返却しない。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について4時間予習・復習を行い理解しておくこと。		
教科書	教科書：特になし。 必要に応じて資料を配布する。		
参考書	特になし。		
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は各担当教員の講義終了後に対応する。 木村博一：h-kimura@paz.ac.jp 松下誠：matsushita@paz.ac.jp 亀子光明：kameko@paz.ac.jp 高橋克典：k-takahashi@paz.ac.jp 木村鮎子：ay-kimura@paz.ac.jp		
履修条件・履修上	自主的かつ積極的に関連文献を講読すること。		

の注意	
ナンバリング	KSM-604



講義科目名称： 特講（細胞機能・生殖補助技術）

授業コード： D2006

英文科目名称： Advanced Seminar（Cellular Function and Assisted Reproductive Technology）

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
前期	1学年	2単位	選択	
担当教員	担当者			
荒木 泰行	中島 久美子	岡山 香里	林 由里子	
授業形態	講義			担当者
授業計画	第1回	体外受精 不妊治療と体外受精の実際	荒木 泰行	
	第2回	顕微授精 顕微授精技術の実際	荒木 泰行	
	第3回	配偶子凍結 精子、卵子、受精胚の凍結保存について	荒木 泰行	
	第4回	細胞操作技術 マニピュレーターを用いた細胞操作について	荒木 泰行	
	第5回	染色体異常 染色体の検査法や構造異常数的異常について	荒木 泰行	
	第6回	発生工学の基礎 初期発生時の配偶子に人為的な操作を加えて改変する技術について	荒木 泰行	
	第7回	不妊治療の看護 不妊治療への相談支援、夫婦の意思決定について	中島 久美子	
	第8回	組織学的検査法（1）	岡山 香里	
	第9回	組織学的検査法（2）	岡山 香里	
	第10回	組織学的検査法（3）	岡山 香里	
	第11回	細胞学的検査法（4）	岡山 香里	
	第12回	血液検査法（1）	林 由里子	
	第13回	血液検査法（2）	林 由里子	
	第14回	血液検査法（3）	林 由里子	
	第15回	血液検査法（4）	林 由里子	
科目の目的	がん細胞や血液細胞の領域、及び生殖補助技術領域で研究を遂行するのに必要な知識、技術、科学的根拠に基づく分析能力を兼ね備え、他領域との研究連携を視野に、自らの研究分野以外の幅広い知識と課題に適した研究方法を選択できる能力を修得する。【研究能力】【教育指導能力】【実践能力】【応用能力】			
到達目標	がん細胞や血液細胞の機能やメカニズム、及び生殖補助技術領域における医療科学研究法の特徴及び科学的根拠を把握すること。			
成績評価方法・基準	レポート100%により成績を評価する。レポートは100点を基準とし、採点後返却しない。			
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について、4時間を目途に予習・復習を実施してください。			
教科書	特になし。			
参考書	必要に応じて資料を配布する。			
オフィス・アワー	質問は各講義の終了後に受け付けます。 その他の時間帯はメールにて受け付けます。 荒木 泰行:y-araki@paz.ac.jp 中島 久美子:nakajima@paz.ac.jp 岡山 香里:okayama@paz.ac.jp 林 由里子:hayashi@paz.ac.jp			
履修条件・履修上の注意	自主的かつ積極的に関連文献を講読すること。			
ナンバリング	KSM-605			

講義科目名称： 特講（生体機能）

授業コード： D2007

英文科目名称： Advanced Seminar（Biological Function）

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 朗	佐藤 満	渡邊 浩	湯本 真人
	宗宮 真	花田 三四郎	

授業形態	講義（討論・文献購読）		担当者
授業計画	第1回	血圧脈波伝搬速度データと生体制御機能の複合要因分析、解析技術を教授する 血圧脈波伝搬速度データと生体制御機能の複合要因分析に関する技術・方法について講義する	木村 朗
	第2回	身体活動定量化技術と生体制御機能の複合要因分析、解析技術を教授する 身体活動定量化技術と生体制御機能の複合要因分析に関する技術・方法について講義する	木村 朗
	第3回	神経補綴性電気刺激技術と生体制御機能の複合要因分析、解析技術を教授する 神経補綴性電気刺激技術に関連する技術・方法について講義する	木村 朗
	第4回	心臓疾患や心筋障害における心電図・心エコー解析などの多角的体内動態解析法、分析技術を教授する 心電図・心エコー解析などの体内動態解析法や複合要因分析、画像解析法などの技術・方法について講義する	湯本 真人
	第5回	化学物質過敏症、胃癌における炎症性サイトカインや受容体、甲状腺ホルモンなどの多角的体内動態解析法、分析技術を教授する 炎症性サイトカインや受容体、甲状腺ホルモンなどの多角的体内動態解析法、分析技術に関連する最新研究について講義する	湯本 真人
	第6回	工学的手法を用いた理学療法の検査測定に関する検査測定に関する技術・方法を教授する（1） 工学的手法を用いた理学療法の検査測定に関する古典的技術・方法を取り上げる	佐藤 満
	第7回	工学的手法を用いた理学療法の検査測定に関する検査測定に関する技術・方法を教授する（2） 工学的手法を用いた理学療法の検査測定に関する応用的・臨床的技術・方法を取り上げる	佐藤 満
	第8回	工学的手法を用いた理学療法の検査測定に関する検査測定に関する技術・方法を教授する（3） 工学的手法を用いた理学療法の検査測定に関するトピックスを扱った技術・方法を取り上げる	佐藤 満
	第9回	パーキンソン 病研究・評価法などの技術・方法を教授する（1） パーキンソン病に関する研究・評価法などの技術・方法を修得する。	宗宮 真
	第10回	パーキンソン 病研究・評価法などの技術・方法を教授する（2） パーキンソン病に関する研究・評価法などの技術・方法を修得する。	宗宮 真
	第11回	先駆的な再生医学理論を用いた、臓器再生・構築に関する研究・評価法などの技術・方法を教授する（1） 再生医学のメカニズムと臓器再生・構築に関する古典的研究論文の講読及び発表討論	花田 三四郎
	第12回	先駆的な再生医学理論を用いた、臓器再生・構築に関する研究・評価法などの技術・方法を教授する（2） 再生医学の発症メカニズムと臓器再生・構築に関する究代表的研究論文の講読及び発表討論	花田 三四郎
	第13回	先駆的な再生医学理論を用いた、臓器再生・構築に関する研究・評価法などの技術・方法を教授する（3） 再生医学の発症メカニズムと臓器再生・構築に関するトピックスを扱った研究論文の講読及び発表討論	花田 三四郎
	第14回	医療被曝や核医学検査技術に関する研究・評価法などの技術・方法を教授する（1） 医療被曝や核医学検査技術に関する研究・評価法に関する古典的研究論文の講読及び発表討論	渡邊 浩
	第15回	医療被曝や核医学検査技術に関する研究・評価法などの技術・方法を教授する（2） 医療被曝や核医学検査技術に関する研究・評価法に関する最新研究論文の講読及び発表討論	渡邊 浩

科目の目的	生体機能領域の解決すべき課題を広く探求し、課題解決思考を発展させることを目的とする。【研究能力】【教育指導能力】【実践能力】【応用能力】
到達目標	1. 生体機能領域の英文論文を講読し発表討論ができる。 2. 関連研究論文を読み、討論を通して実践的な研究を進めることができる。
成績評価方法・基準	関連研究論文の講読理解度（50%）及び発表討論の内容（50%）から総合的に評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	本講義1コマに対し、4時間以上の予習復習等自己学習を要する。
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書	特になし 必要に応じて資料を配布する。
オフィス・アワー	各講義終了後休み時間に対応する。木村朗研究室 (a-kimura@paz.ac.jp)、佐藤研究室 (satou@paz.ac.jp)、渡邊研究室 (watanabe@paz.ac.jp)、湯本研究室 (yumoto@paz.ac.jp)、宗宮研究室 (somiya@paz.ac.jp)、花田研究室 (hanada@paz.ac.jp) その他個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。
履修条件・履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的かつ積極的に文献収集及び講読を行うこと。</li> <li>・状況に応じて内容が変更される場合がある。</li> </ul>
ナンバリング	KSM-606

講義科目名称： 演習（生体分子・病原体遺伝子）

授業コード： D2008

英文科目名称： Advanced Practice (Biological Molecules and Pathogen Genomics)

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 博一	松下 誠	亀子 光明	高橋 克典
	木村 鮎子	大熊 博	
授業形態	演習		担当者
授業計画	第1回	本科目のイントロダクション 異常免疫グロブリン・微量タンパク質の解析技術に関連する研究論文の講読及び発表討論会 (2)	木村博一
	第2回	病原体ゲノム解析関連研究論文の講読及び発表討論会	木村博一
	第3回	微量タンパク質関連研究論文の講読及び発表討論会 (1)	亀子光明
	第4回	微量タンパク質関連研究論文の講読及び発表討論会 (2)	亀子光明
	第5回	微量タンパク質関連研究論文の講読及び発表討論会 (3)	高橋克典
	第6回	微量タンパク質関連研究論文の講読及び発表討論会 (4)	高橋克典
	第7回	タンパク質複合体・疾患特異的タンパク質関連研究論文の講読及び発表討論会 (1)	木村 鮎子
	第8回	タンパク質複合体・疾患特異的タンパク質関連研究論文の講読及び発表討論会 (2)	木村鮎子
	第9回	アイソザイム関連研究論文の講読及び発表討論会 (1)	松下誠
	第10回	アイソザイム関連研究論文の講読及び発表討論会 (2)	松下誠
	第11回	アイソザイム関連研究論文の講読及び発表討論会 (3)	松下誠
	第12回	病原体ゲノム関連研究論文の講読及び発表討論会 (1)	木村博一
	第13回	病原体ゲノム関連研究論文の講読及び発表討論会 (2)	木村博一
	第14回	耐性因子解析技術関連研究論文の講読及び発表討論会 (1)	大熊博
	第15回	耐性因子解析技術関連研究論文の講読及び発表討論会 (2)	大熊博
科目の目的	生体分子・病原体遺伝子領域の解決すべき研究課題を広く探求し、課題解決思考能力を発展させることを目的とする。		
到達目標	1. 生体分子・病原体遺伝子領域の英文論文を講読し発表討論ができる。 2. 関連研究論文を読み、討論を通して実践的な研究を進めることができる。		
成績評価方法・基準	関連研究論文の講読理解度 (50%) 及び発表討論の内容 (50%) から総合的に評価する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	関連研究論文について積極的に情報収集を行うとともに、発表討論の練習を1～2 時間行うこと。なお、1コマあたり4時間程度の予習・復習が必要。		
教科書	教科書：特になし。 必要に応じて資料を配布する。		
参考書	特になし。		
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は各担当教員の演習終了後に対応する。 木村博一：h-kimura@paz.ac.jp 松下誠：matsushita@paz.ac.jp 亀子光明：kameko@paz.ac.jp 高橋克典：k-takahashi@paz.ac.jp 木村鮎子：ay-kimura@paz.ac.jp		
履修条件・履修上の注意	自主的かつ積極的に文献収集及び講読を行うこと。		
ナンバリング	KSM-607		

講義科目名称： 演習（細胞機能・生殖補助技術）

授業コード： D2009

英文科目名称： Advanced Practice（Cellular Function and Assisted Reproductive Technology）

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
荒木 泰行	中島 久美子	岡山 香里	林 由里子
授業形態	討論		担当者
授業計画	第1回	生殖医療技術関連研究論文の講読及び発表討論会（1）	荒木 泰行
	第2回	生殖医療技術関連研究論文の講読及び発表討論会（2）	荒木 泰行
	第3回	生殖医療技術関連研究論文の講読及び発表討論会（3）	荒木 泰行
	第4回	生殖医療技術関連研究論文の講読及び発表討論会（4）	荒木 泰行
	第5回	生殖医療技術関連研究論文の講読及び発表討論会（5）	荒木 泰行
	第6回	生殖医療技術関連研究論文の講読及び発表討論会（6）	荒木 泰行
	第7回	生殖医療技術関連研究論文の講読及び発表討論会（7）	中島 久美子
	第8回	病理組織細胞学関連研究論文の講読及び発表討論会（1）	岡山 香里
	第9回	病理組織細胞学関連研究論文の講読及び発表討論会（2）	岡山 香里
	第10回	病理組織細胞学関連研究論文の講読及び発表討論会（3）	岡山 香里
	第11回	病理組織細胞学関連研究論文の講読及び発表討論会（4）	岡山 香里
	第12回	血液細胞解析技術関連研究論文の講読及び発表討論会（1）	林 由里子
	第13回	血液細胞解析技術関連研究論文の講読及び発表討論会（2）	林 由里子
	第14回	血液細胞解析技術関連研究論文の講読及び発表討論会（3）	林 由里子
	第15回	血液細胞解析技術関連研究論文の講読及び発表討論会（4）	林 由里子
科目の目的	細胞機能・生殖補助技術領域の解決すべき研究課題を広く探求し、課題解決思考を発展させることを目的とする。【研究能力】【教育指導能力】【実践能力】【応用能力】		
到達目標	1. 細胞機能・生殖補助技術領域の英文論文を講読し発表討論ができる。 2. 関連研究論文を読み、討論を通して実践的な研究を進めることができる。		
成績評価方法・基準	関連研究論文の講読理解度50%、発表討論の内容50%にて評価する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	関連研究論文について積極的に情報収集を行うとともに、各講義の予習復習を4時間を目途に実施してください。		
教科書	特になし。		
参考書	必要に応じて資料を配布する。		
オフィス・アワー	質問は各講義の終了後に受け付けます。 その他の時間帯はメールにて受け付けます。 荒木 泰行:y-araki@paz.ac.jp 中島 久美子:nakajima@paz.ac.jp 岡山 香里:okayama@paz.ac.jp 林 由里子:hayashi@paz.ac.jp		
履修条件・履修上の注意	自主的かつ積極的に関連文献を講読すること。		
ナンバリング	KSM-608		

講義科目名称： 演習（生体機能）

授業コード： D2010

英文科目名称： Advanced Practice（Biological Function）

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 朗	佐藤 満	渡邊 浩	湯本 真人
	宗宮 真	花田 三四郎	

授業形態	演習（討論を含む）		担当者
授業計画	第1回	糖尿病や脳血管障害者における血圧脈波伝搬速度データと生体制御機能の複合要因分析、解析技術を教授する（1） 糖尿病や脳血管障害者の血圧脈波伝搬速度データと生体制御機能の複合要因分析に関する研究の購読と討論 心疾患、心筋障害の体内動態解析・画像解析に関連する研究論文の講読及び発表討論会（1）	木村 朗
	第2回	糖尿病や脳血管障害者における血圧脈波伝搬速度データと生体制御機能の複合要因分析、解析技術を教授する（2） 身体活動定量化技術と生体制御機能の複合要因分析に関する研究の購読と討論	木村 朗
	第3回	糖尿病や脳血管障害者における血圧脈波伝搬速度データと生体制御機能の複合要因分析、解析技術を教授する（3） 神経補綴性電気刺激技術に関連する研究の購読と討論	木村 朗
	第4回	心臓疾患や心筋障害における心電図・心エコー解析などの多角的体内動態解析法を教授する 心電図・心エコー解析などの多角的体内動態解析法に関連する最新研究を取り上げる。	湯本 真人
	第5回	化学物質過敏症、胃癌における炎症性サイトカインや受容体、甲状腺ホルモンなどの多角的体内動態解析法を教授する 炎症性サイトカインや受容体、甲状腺ホルモンなどの多角的体内動態解析法に関連する最新研究を取り上げる。	湯本 真人
	第6回	工学的手法を用いた理学療法の検査測定に関する研究・評価法に関連する文献等研究の講読及び発表討論（1） 工学的手法を用いた理学療法の検査測定に関する古典的研究を取り上げる	佐藤 満
	第7回	工学的手法を用いた理学療法の検査測定に関する研究・評価法に関連する文献等研究の講読及び発表討論（2） 工学的手法を用いた理学療法の検査測定に関する応用的・臨床的研究を取り上げる	佐藤 満
	第8回	工学的手法を用いた理学療法の検査測定に関する研究・評価法に関連する文献等の講読及び発表討論（3） 工学的手法を用いた理学療法の検査測定に関するトピックス的研究を取り上げる	佐藤 満
	第9回	パーキンソン 病発症メカニズム関連研究論文の講読及び発表討論会（1） パーキンソン病に関する研究・評価法に関連する文献等を収集し、これらの購読と教員との討論により、研究を進めるための具体的な計画・実験方法・データ解析・考察の仕方などの評価・応用能力を養い、英文論文として情報発信する能力を修得する。	宗宮 真
	第10回	パーキンソン 病発症メカニズム関連研究論文の講読及び発表討論（2） パーキンソン病に関する研究・評価法に関連する文献等を収集し、これらの購読と教員との討論により、研究を進めるための具体的な計画・実験方法・データ解析・考察の仕方などの評価・応用能力を養い、英文論文として情報発信する能力を修得する。	宗宮 真
	第11回	先駆的な再生医学理論を用いた、臓器再生・構築に関する研究・評価法に関連する研究論文の講読及び発表討論（1） 再生医学のメカニズムと治療に関連する古典的研究論文の講読及び発表討論	花田 三四郎
	第12回	先駆的な再生医学理論を用いた、臓器再生・構築に関する研究・評価法に関連する研究論文の講読及び発表討論会（2） 再生医学の発症メカニズムと治療に関連する代表的研究論文の講読及び発表討論	花田 三四郎
	第13回	先駆的な再生医学理論を用いた、臓器再生・構築に関する研究・評価法に関連する研究論文の講読及び発表討論会（3） 先駆的な再生医学理論を用いた、臓器再生・構築に関するトピックス的研究論文の講読及び発表討論	花田 三四郎

	第14回 医療被曝や核医学検査技術に関する研究・評価法に関連する研究論文の講読及び発表討論（1） 医療被曝や核医学検査技術に関する研究・評価法に関連する古典的研究論文の講読及び発表討論	渡邊 浩
	第15回 医療被曝や核医学検査技術に関する研究・評価法に関連する臨床医学関連研究論文の講読及び発表討論（2） 医療被曝や核医学検査技術に関する研究・評価法に関連する最新研究論文の講読及び発表討論	渡邊 浩
科目の目的	生体機能領域の解決すべき課題を広く探求し、学習者と教授者の対話によって課題解決思考を発展させる思考方法を身に付けることを目的とする。【研究能力】【教育指導能力】【実践能力】【応用能力】	
到達目標	1. 生体機能領域の英文論文を講読し発表討論ができる。 2. 関連研究論文を読み、討論を通して実践的な研究を進めることができる。	
成績評価方法・基準	生多機能解析に基づく保健医療における研究課題発見能力および課題解決のための研究立案能力について関連研究論文の講読理解度(50%)及び発表討論の内容(50%)から総合的に評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	本講義1コマに対し、4時間以上の予習復習等自己学習を要する。	
教科書	必要に応じて資料を配布する。	
参考書	特になし 必要に応じて資料を配布する。	
オフィス・アワー	各講義終了後休み時間に対応する。木村朗研究室 (a-kimura@paz.ac.jp)、佐藤研究室 (satou@paz.ac.jp)、渡邊研究室(watanabe@paz.ac.jp)、湯本研究室(yumoto@paz.ac.jp)、宗宮研究室(somiya@paz.ac.jp)、花田研究室(hanada@paz.ac.jp) その他個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。	
履修条件・履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的かつ積極的に文献収集及び講読を行うこと。</li> <li>・状況に応じて内容が変更される場合がある。</li> </ul>	
ナンバリング	KSM-609	

講義科目名称： 医療科学特別研究

授業コード： D2011

英文科目名称： Advenced Seminar in the Medical Science Research

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～3学年	6単位	必修
担当教員	担当者		
木村博・松下・亀子・高橋 克・木村鮎・中島・岡山・荒 木・木村朗・佐藤満・渡邊 浩・湯本・宗宮・花田			
授業形態	演習・実験		担当者
授業計画	1年次 4月 研究指導教員・副研究指導教員の決定 1年次 5～6月 個別指導、審査指導 個別指導により、先行研究の整理、研究課題の焦点化、研究計画書の作成指導・研究倫理 審査委員会（臨床研究・疫学研究倫理審査・遺伝子解析倫理審査）への審査指導 1年次 9月 研究計画書提出、倫理審査書類提出 研究計画書提出・研究倫理審査委員会（臨床研究・疫学研究倫理審査・遺伝子解析 倫理審査）への審査申請書類提出 1年次 9月～ 研究活動の展開指導 2年次 4月 研究活動の進捗状況の確認と展開指導 2年次 5月・8月 研究情報交換会 2年次 10月～ 学会発表、学術雑誌への論文等に関する指導 2年次 12月 研究情報交換会 3年次 4月 研究活動の進捗状況の確認と展開指導 3年次 10月 博士論文（英文）の草稿に関する指導 3年次 11月 博士論文（英文）概要の提出指導 3年次 12月 博士論文（英文）概要の結果から、審査員候補の選出 3年次 1月 博士論文（英文）及び学位論文申請書類の提出、論文試問 3年次 2月 公開審査、研究科委員会にて学位論文の可否審査、学位授与の判定 3年次 3月 博士後期課程修了		
科目の目的	各領域の特講科目及び演習科目と密接に関連した高度な専門性を応用して、医療科学における新たな知見を得るための研究を行うことを目的とする。【研究能力】【教育指導能力】【実践能力】【応用能力】		
到達目標	1. 研究テーマを設定し、研究の意義・目的を理解することができる。 2. 研究目的を実現するために、自立して研究方法を組み立て、実施することができる。 3. 研究情報交換会、各種関連学会などでプレゼンテーションをすることができる。 4. 研究成果を博士論文（英文）としてまとめることができる。		
成績評価方法・基準	研究情報交換会（3回）及び公聴会での発表内容、質疑応答の状況から総合的に評価する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	研究テーマについて積極的に情報収集を行うとともに、定期的に研究の進捗状況の報告と討論を1～2時間行うこと。		
教科書	教科書 特になし。 必要に応じて資料を配付する。		
参考書	特になし。		
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。 木村博一：h-kimura@paz.ac.jp 松下誠：matsushita@paz.ac.jp 亀子光明：kameko@paz.ac.jp 高橋克典：k-takahashi@paz.ac.jp		



	木村鮎子 : ay-kimura@paz. ac. jp 中島久美子 : nakajima@paz. ac. jp 岡山香里 : okayama@paz. ac. jp 荒木泰行 : y-araki@paz. ac. jp 木村朗 : a-kimura@paz. ac. jp 佐藤満 : mit-sato@paz. ac. jp 渡邊浩 : h-watanabe@paz. ac. jp 湯本真人 : yumoto@paz. ac. jp 宗宮真 : soumiya@paz. ac. jp 花田三四郎 : hanada@paz. ac. jp
履修条件・履修上の注意	自主的かつ責任を持った実験・研究を進めること。
ナンバリング	KAM-601

講義科目名称： 医療倫理学特論

授業コード： M7001

英文科目名称： Advanced Healthcare Ethics

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
峯村 優一			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 イントロダクション 総論 倫理・医療倫理とは	峯村優一
	第2回 医療倫理学 倫理の基礎と理論 (1) 倫理の基礎、倫理原則、倫理理論	峯村優一
	第3回 医療倫理学 倫理の基礎と理論 (2) 倫理の基礎、倫理原則、倫理理論	峯村優一
	第4回 医療倫理学 倫理の基礎と理論 (3) 倫理の基礎、倫理原則、倫理理論	峯村優一
	第5回 人工中絶 (1) Judith Thomson 人工中絶肯定派	峯村優一
	第6回 人工中絶 (2) Judith Thomson 人工中絶肯定派	峯村優一
	第7回 人工中絶 (3) Don Marquis 人工中絶否定派	峯村優一
	第8回 人工中絶 (4) Don Marquis 人工中絶否定派	峯村優一
	第9回 医療倫理の基礎と人工中絶のまとめ 既出の重要事項を整理して理解する	峯村優一
	第10回 インフォームド・コンセント (1) Tom Beauchamp and James Childress インフォームド・コンセント肯定派	峯村優一
	第11回 インフォームド・コンセント (2) Robert Veatch インフォームド・コンセント否定派	峯村優一
	第12回 安楽死 (1) F.M. Kamm 安楽死肯定派	峯村優一
	第13回 安楽死 (2) David Velleman 安楽死否定派	峯村優一
	第14回 脳死 James Bernat 脳死肯定派	峯村優一
	第15回 インフォームド・コンセント、安楽死、脳死のまとめ 既出の重要事項を整理して理解する	峯村優一
科目の目的	現在の医療においては、医療の中心は患者であり、医療従事者は、患者との関係を築きながら医療行為をする必要がある。医療上の問題である、人工中絶、インフォームド・コンセント、脳死、安楽死に関する問題において、患者の意思を尊重しながら様々な対応が求められる。医療現場における倫理的問題について、具体例を提示しながら分析し、対処していくための知識、また研究者として必要な判断能力を習得する。【実践能力】 【研究能力】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学・医療の歴史的な流れとその意味を概説できる。</li> <li>・医療倫理や生と死に関わる倫理的問題を概説できる。</li> <li>・医療倫理上の諸問題に関する肯定派と反対派の見解を、海外先行研究を参照して比較考量できる。</li> <li>・医療倫理上の諸問題について、自らの見解を明確に述べることができる。</li> </ul>	
成績評価方法・基準	中間確認問題 (50%)、期末確認問題 (50%) による総合評価。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について時間予習・復習 (各1時間程度) を行い、理解しておくこと。	
教科書	パワーポイント講義資料 必要に応じて海外先行研究の文献、資料を配布する。	
参考書	必要に応じて海外先行研究の資料を配布する。	
オフィス・アワー	個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。メールアドレス：minemura@paz.ac.jp	
履修条件・履修上の注意	自主的かつ積極的に関連文献を講読すること。	
ナンバリング	ZCF-501	

講義科目名称： 教育学特論

授業コード： M7002

英文科目名称： Advanced Education

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
高山 有紀			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 はじめに 「教育学」を学ぶ目的 「教育」とは何なのか、履修者個々の教育観を見つめ直し、大学院で教育学を学ぶ意味を確認する。授業のすすめ方についてガイダンスを行う。	高山有紀
	第2回 教育学の対象 子どもとは、人間とは 世界および日本の歴史のなかで、子どもがどのように捉えられてきたのかを学ぶ。人の育ちについて共通の認識を得た上で「子ども観」の変遷について確認する。	高山有紀
	第3回 教育研究のあゆみ (1) 教育制度 主として日本の家庭で行われた教育から教育機関で行われる教育への転換を通し、教育の社会的意義について考える。	高山有紀
	第4回 教育研究のあゆみ (2) 理念と思想 新教育運動と近代的な教育理念・実践の事例を取り上げ、よい教育や教育方法とはどのような営みなのかをともに考える。	高山有紀
	第5回 教育研究のあゆみ (3) 社会構造 地域社会や学校以外の機関はどのような教育役割を果たしていける可能性があるのか。教育と社会的環境について考える。	高山有紀
	第6回 教育政策と教育学 社会教育、学校教育、家庭教育に関わる近年の教育政策を取り上げ、現代的な教育課題を整理する。	高山有紀
	第7回 資料講読 (1) 歴史、思想、哲学 担当者が提示する資料の中から履修者の関心の高い資料を選び、共に読み意見交換を行う。	高山有紀
	第8回 資料講読 (2) 教育政策、教育制度 担当者が提示する資料の中から履修者の関心の高い資料を選び、共に読み意見交換を行う。	高山有紀
	第9回 資料講読 (3) 教育方法、教育実践 担当者が提示する資料の中から履修者の関心の高い資料を選び、共に読み意見交換を行う。	高山有紀
	第10回 資料講読 (4) 教師、教育者、専門職 担当者が提示する資料の中から履修者の関心の高い資料を選び、共に読み意見交換を行う。	高山有紀
	第11回 資料講読 (5) 現代的教育課題 (成人教育) 担当者が提示する資料の中から履修者の関心の高い資料を選び、共に読み意見交換を行う。	高山有紀
	第12回 資料講読 (6) 現代的教育課題 (性教育、IT教育) 担当者が提示する資料の中から履修者の関心の高い資料を選び、共に読み意見交換を行う。	高山有紀
	第13回 資料講読 (7) 現代的教育課題 (教育支援、教育評価) 担当者が提示する資料の中から履修者の関心の高い資料を選び、共に読み意見交換を行う。	高山有紀
	第14回 資料講読 (8) 現代的教育課題 (多職種連携) 担当者が提示する資料の中から履修者の関心の高い資料を選び、共に読み意見交換を行う。	高山有紀
	第15回 おわりに 今後の実践課題を考える 本講の総括を行う。その上で履修者それぞれがどのような実践課題を持ったのか、について整理する。	高山有紀
科目の目的	教育に関わる様々な課題や問題点について知った上で、保健医療福祉分野において人々がよりよい「生」を求める営みを如何に支援するのか、について共に考える。【教育能力】	

到達目標	教育の課題や問題点について、その背景を含めて構造的に理解する。対人援助者として、自分なりの支援のあり方について見識を持つ。
成績評価方法・基準	最終テストまたはレポート（50%）、授業への参加度合い、授業内で求めるリアクションペーパーや課題の提出（50%）を総合して行う。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義各時間あたり2時間の予習復習の学習が必要となる。あらかじめ配布した資料の下読みや下調べを行い、授業後はリアクションペーパーや課題を提出する。
教科書	教科書は使用しない。
参考書	参考書は適宜提示する。 黒柳徹子『窓際のトットちゃん』（講談社文庫）
オフィス・アワー	講義の前後（場所：非常勤講師室）
履修条件・履修上の注意	特になし
ナンバリング	ZCF-502

講義科目名称： 社会学特論

授業コード： M7003

英文科目名称： Advanced Sociology

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
内藤 和美			

授業形態	講義と討論	担当者
授業計画	第1回 家族社会学1 科目のガイダンス、戦後日本社会のジェンダー構造と家族	内藤 和美
	第2回 家族社会学2 基本構造 - 社会的労働と家事労働の性別分業	内藤 和美
	第3回 家族社会学3 基本構造 - 基幹労働と周辺労働の性別分業、 性別分業の帰結 - 社会資源の男性偏在 基本構造 - 基幹労働と周辺労働の性別分業、 性別分業の帰結 - 社会資源の男性偏在	内藤 和美
	第4回 家族社会学4 社会資源の男性偏在の帰結 - 女性問題：女性に対する暴力を例に	内藤 和美
	第5回 家族社会学5 被害者の保護、回復・問題解決支援	内藤 和美
	第6回 家族社会学6 ケアとジェンダー	内藤 和美
	第7回 家族社会学7 ジェンダー平等社会のすがた - 条件の平等の保障、実質的な機会の平等の実現、結果の平等	内藤 和美
	第8回 家族社会学8 ジェンダー平等社会を志向する法的根拠 - 女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約、男女共同参画社会基本法	内藤 和美
	第9回 家族社会学9 ワークライフバランス	内藤 和美
	第10回 家族社会学 家事労働のゆくえ	内藤 和美
	第11回 地域社会学1 地域社会の構造、地域資源 - 自然資源、人的・知的資源、経済資源、社会資源	内藤 和美
	第12回 地域社会学2 人的資源（アクター）としてのコミュニティ - 公共団体、公的団体、地縁団体、市民団体、インターネットコミュニティ	内藤 和美
	第13回 地域社会学3 資源の活用とアクター間協働 - 「暴力被害女性の保護と問題解決・自立支援」を事例に	内藤 和美
	第14回 地域社会学4 資源の活用とアクター間協働 - 「仕事と生活と治療の三立」を事例に	内藤 和美
	第15回 振り返りとまとめ 個人の変化 - 変化と変化の繋がり・共鳴 - 社会の変化	内藤 和美
科目の目的	保健・医療・福祉サービスとは、すなわち当事者が暮らす地域社会がもつ物質的・情動的・人的資源の組み合わせとその活動である。また、保健・医療・福祉のサービス提供にあたっては、当事者ととも家族や家族関係をも対象としなければならないことが多い。この科目では、地域と家族に関する社会学の主要な概念を踏まえ、保健・医療・福祉サービスをめぐる地域社会と家族と個人の関係と課題について考察する。【指導能力及び調整能力】	
到達目標	1 家族社会学として、家族、労働、ケア、暴力に係るジェンダー構造を論理的に理解し、説明することができる 2 地域社会学として、コミュニティの構造（資源、アクター、それらの関係）を理解し、それらを用いて、保健・医療の対人援助活動を分析することができる 3 1, 2の理解を、自身の修士論文研究や業務に活用できる	
成績評価方法・基準	課題レポートの精緻さと考察の深さ60%、授業への取組の積極性40%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業時に提供する教材および下記参考書の講読 1回あたり120分	
教科書	使用しない。授業プリントによる。	
参考書	岩間暁子・大和礼子・田間泰子：問いからはじめる家族社会学：多様化する家族の包摂に向けて	

	<p>・有斐閣 2022  高橋美恵子編：ワーク・ファミリー・バランス：これからの家族と共働き社会を考える．慶応義塾大学出版会、2021  山本努：よくわかる地域社会学．ミネルヴァ書房、2022</p>
オフィス・アワー	授業の前後（場所：非常勤講師室）
履修条件・履修上の注意	真摯な取組みを期待します。
ナンバリング	ZCF-503

講義科目名称： 国際保健政策特論

授業コード： M7004

英文科目名称： Advanced Global Health Policy

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
堀込 由紀	早川 有子	森 淑江	木村 博一

授業形態	講義10回 演習5回		担当者
授業計画	第1回	グローバルヘルスとは(講義) グローバルヘルスの定義、概念について学ぶ。	堀込由紀
	第2回	健康の決定要因と測定指標、動向(講義) 多方面から捉えた健康への影響について学ぶ。	堀込由紀
	第3回	保健医療システム(講義) 保健医療システムの機能や各国の特徴、課題について学ぶ。	堀込由紀
	第4回	非感染症疾患(講義) 世界における非感染症疾患(NCD)の現状について学ぶ。	堀込由紀
	第5回	国際感染症(講義) 国際的に問題となっている感染症の概要(特にCOVID-19)を講義する。	木村博一
	第6回	文化と健康(講義) 文化が健康に与える影響や行動変容に関わる政策について学ぶ。	堀込由紀
	第7回	女性と健康(講義) 女性の健康問題や課題、政策について学ぶ。	早川有子
	第8回	グローバルヘルスにおける組織的活動(講義) 発展途上国における健康支援の現状と課題についてJICAの活動の実際から学ぶ。	森 淑江
	第9回	グローバル社会と国際看護(講義) グローバル社会における国際看護の現在と未来の視座について学ぶ。	森 淑江
	第10回	異文化コミュニケーション(講義) トラブル事例を題材にして、異文化コミュニケーションについて学ぶ。	堀込由紀
	第11～15回	グローバルヘルスにおける諸課題に対する現状分析と提言(演習) これまでの学習内容を踏まえたグローバルヘルスに関する現状分析と提言について討議する。	堀込由紀
科目の目的	グローバルヘルスに関する主なテーマを基軸に、国際保健政策の現状を学び、社会情勢の変化の展望を見据えて考察することを目的とする。【指導能力及び調整能力】		
到達目標	1. グローバルヘルスの概要を理解し、その現状や課題について説明することができる。 2. 国内外の医療福祉システムを知り、課題や提言について説明することができる。 3. 日本における国際協力(健康支援)のシステムや実際を知り、グローバルヘルス推進の組織活動を理解し、課題や提言について説明することができる。		
成績評価方法・基準	プレゼンテーション及び討議30%、レポート70%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習やプレゼンテーション準備等で2時間程度の準備学習が必要である。		
教科書	【教科書】なし		
参考書	【参考書】木原正博(翻訳)、木原雅子(翻訳)：グローバルヘルス世界の健康と対処戦略の最新動向、メディカルサイエンスインターナショナル、2017。他適宜紹介する。 ISBN-13：978-4895928977		
オフィス・アワー	堀込由紀：講義日の17:30～19:45 木村博一：講義日の前後に口頭で質問を受け付ける。 早川有子：講義日の前後に口頭で質問を受け付ける。 森淑江：講義日の前後に口頭で質問を受け付ける。	horigome@paz.ac.jp h-kimura@paz.ac.jp hayakawa@paz.ac.jp myoshie@gunma-u.ac.jp	
履修条件・履修上の注意	主体的に参加してください。 やむを得ず欠席する場合にはあらかじめ堀込にお申し出ください。		
ナンバリング	ZCF-504		

講義科目名称： 公衆衛生学総論

授業コード： M7005

英文科目名称： General Public Health

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 博一	伊藤 一人		

授業形態	講義・討論	担当者
授業計画	<p>第1回 公衆衛生学総論 文献を基に諸外国を含めた公衆衛生学の歴史や対策の現状について講義を行う。</p> <p>第2回 感染症学総論 文献を基に細菌・ウイルス感染症の概要を講義する。</p> <p>第3回 新興・再興感染症総論 文献を基にエボラウイルス感染症や新型コロナウイルス感染症を主体とした新興再興感染症について講義する。</p> <p>第4回 結核の疫学 文献を基に諸外国を含めた結核の現状、疫学について講義する。</p> <p>第5回 インフルエンザの疫学 文献を基に新型インフルエンザの出現機構や疫学を概説する。</p> <p>第6回 新型コロナウイルス感染症の疫学 最新の文献を基に新型コロナウイルス感染症の疫学を概説する。</p> <p>第7回 発熱発疹性疾患の疫学 文献を基にヘルパンギーナなどの発熱発疹性疾患の疫学を概説する。</p> <p>第8-10回 公衆衛生学上問題になるアレルギー疾患（喘息） 文献を基に喘息の病態、呼吸器ウイルス感染症との関わりならびに疫学を概説する。</p> <p>第11回 尿路性器感染症の疫学・概要 代表的な尿路性器感染症の基礎、疫学、対策について講義する。</p> <p>第12回 泌尿器悪性腫瘍の疫学・概要 代表的な泌尿器腫瘍の疫学と診断・治療について概説する。</p> <p>第13回 前立腺がん検診論争の歴史と真実 PSA検診を巡る論争を通して、真実を見極める力を身に付けるための姿勢について講義する。</p> <p>第14回 個人情報保護法下・臨床研究法制定後の疫学研究の進め方 疫学に関する臨床研究実施に必要な遵守する法律と疫学・臨床研究計画の実例・研究実績について講義する。</p> <p>第15回 前立腺癌新規腫瘍マーカー：研究体制づくりから保険収載までの道程 前立腺癌新規腫瘍マーカー（phi）保険収載の根拠（研究基盤）と保険診療承認までに至る道程を学ぶ。</p>	<p>木村博一</p> <p>木村博一</p> <p>木村博一</p> <p>木村博一</p> <p>木村博一</p> <p>木村博一</p> <p>木村博一</p> <p>木村博一</p> <p>木村博一</p> <p>伊藤一人</p> <p>伊藤一人</p> <p>伊藤一人</p> <p>伊藤一人</p> <p>伊藤一人</p>
科目の目的	公衆衛生的対策の基盤である感染症ならびに悪性腫瘍疾患（特に泌尿器系悪性腫瘍疾患）の疫学を学ぶ。【実践能力】	
到達目標	感染症ならびに悪性腫瘍疾患（特に泌尿器系悪性腫瘍）に関し、当該疾患の疫学の概要を理解する。	
成績評価方法・基準	討論・演習内容(50%)ならびに当該科目の理解度(50%)から総合的に評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前配布資料等を予習すること。必要学習時間は4時間程度。	
教科書	配布資料（文献）を基に講義・討論を行う。	
参考書	社会・環境と健康 公衆衛生学2023年版、柳川洋・尾島俊之編 医歯薬出版社 Evidence-Based Public Health, Oxford University Press	
オフィス・アワー	各講義終了後に担当教員が口頭にて質問を受け付ける（木村博一：h-kimura@paz.ac.jp;伊藤一人：kzito@gunma-u.ac.jp）	
履修条件・履修上の注意	授業中、携帯電話使用不可	
ナンバリング	ZCF-505	



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
栗田 昌裕			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 加齢過程で生じる現象Ⅰ ■「人の一生の発達と加齢過程と老化の機序」。■「加齢を3つのレベルでとらえる」。■「英文購読（テロメア関連）」。■「付録（AIによるテロメアの理解）」。	栗田昌裕
	第2回 加齢過程で生じる現象Ⅱ ■「加齢の統御のメカニズム（細胞/細胞小体/神経/心循環系）」。■「英文購読（癌にならない象）」。■「付録（AIによる老化改善・寿命延長の整理）」。	栗田昌裕
	第3回 アンチエイジング医学の仮説 ■「1)アンチエイジング医学とは（カロリー制限仮説と酸化ストレス学説）」。■「2)抗加齢を理解するための老化・加齢のメカニズム（寿命を規定する遺伝・環境要因/テロメアと老化/活性酸素と加齢）」。■「英文購読（地球を席卷するキラアメリカンドアエット）」。	栗田昌裕
	第4回 抗加齢医学の潮流 ■「3)抗加齢医学の考え方」。■「4)抗加齢医学の世界的潮流」。■「5)加齢と抗加齢の疫学」。■「6)抗加齢診断学（抗加齢ドック/5種の老化度/血管年齢/神経年齢/GH/IGH-1/DHEA-S/性ホルモン/メラトニン/骨密度/筋年齢/5種の老化危険因子/免疫、酸化ストレス/心身ストレス/生活習慣/代謝）」。■「英文購読（抗酸化サプリメントの無作為化試験における死亡率：系統的レビューとメタ分析）」。	栗田昌裕
	第5回 加齢・長寿と遺伝子 ■「7)ゲノムの理解」。■「8)長寿関連遺伝子（モデル動物での解明/Sir2遺伝子と長寿関連遺伝子/ミトコンドリア機能とカロリー制限/酸化ストレス耐性と寿命）」。■「9)老化遺伝子（早老症の老化制御遺伝子/老化モデル動物と老化遺伝子/活性酸素と老化）」。■「10)メタボリックドミノ（臨床的意義と加齢との関係）」。■「11)英文購読（母系のミトコンドリアが子孫の一般的病気リスクに影響する）」。	栗田昌裕
	第6回 動脈硬化の危険因子と抗加齢運動 ■「11)動脈硬化の危険因子（脂質代謝異常症/糖尿病/高血圧/喫煙/冠動脈疾患の家族歴）」。■「12)有酸素運動とアンチエイジング（酸化的リン酸化/加齢に伴うエネルギー産生機構/酸素摂取量と老化/加齢と酸素活性の変化/有酸素運動とエネルギー産生装置）」。■「13)レジスタンストレーニングとアンチエイジング（加齢と骨格筋機能/加齢と骨格筋細胞/高齢者のレジスタンストレーニング/レジスタンス運動の生活習慣病に対する効用/運動におけるAMP仮説）」。■「付録（ミトコンドリアの活性と長寿との関係）」。	栗田昌裕
	第7回 酸化ストレスと代謝と抗加齢Ⅰ ■「14)酸化ストレスの理解（酸化ストレスとは？/活性酸素の生体内での合成/酸化ストレスとレドックス制御/ミトコンドリアと酸化ストレス）」。■「15)酸化とエイジング（酸化ストレスとエイジング/エイジングの酸化ストレス仮説/線虫研究と酸化ストレス仮説/カロリー制限と酸化ストレス）」。■「16)抗酸化とアンチエイジング（抗酸化防御機構とは/抗酸化ネットワークとは/エイジング、疾患との関係/抗酸化物質の摂り方）」。	栗田昌裕
	第8回 酸化ストレスと代謝と抗加齢Ⅱ ■「17)代謝とアンチエイジング（エネルギー代謝の理解---糖質、蛋白質、脂質---/糖質の合成と代謝/タンパク質の合成と代謝/脂質の合成と代謝/中性脂肪の合成と代謝/コレステロールの合成と代謝）」。■「18)エネルギーバランスとアンチエイジング医学（寿命を規定するもの/必要なエネルギー源と栄養素バランス/Protein energy malnutrition PEM/テイラーメイド・ニュートリションの必要性）」。■「付録 糖質の代謝の詳細」。	栗田昌裕
	第9回 抗糖化と抗加齢 ■「19)抗糖化とアンチエイジング医学（AGEs生成経路/AGEs生成阻害剤について）」。■「20)糖シグナルとアンチエイジング（Klothoタンパクとは/Klothoタンパクの機能/Klothoタンパクの新知見）」。■「21)アンチエイジングの重要なキーワードの付加と整理（ニコチンモノヌクレオチドNMN/サーチュイン遺伝子/老化細胞とGLS1阻害剤/老化細胞除去ワクチン/ヒストン脱アセチル化酵素）」。	栗田昌裕

第10回	<p>オートファジーと抗加齢          ■「22)オートファジーと抗加齢医学 (老化制御とオートファジー/ 細胞を新品に保つ/ 免疫力アップで健康寿命延伸/ 様々な病気の発症や進行との関係/ AIとのやりとり)」。■「23)スポーツと寿命 (長生きできるスポーツ)」。■「24)免疫の理解 (生体防御としての免疫/ 自己免疫と獲得免疫/ 抗原と抗体/ Tリンパ球とBリンパ球/ 液性免疫と細胞性免疫)」。■「25)免疫とアンチエイジング (免疫系の加齢変化/ 自然免疫系の加齢/ 獲得免疫系の加齢)」。■「英語購読 (長寿のハダカデバネズミの蛋白質)」。</p>	栗田昌裕
第11回	<p>老化細胞除去と山中因子 (iPS因子)          ■26)老化細胞の除去と抗加齢医学 (「老化細胞」が蓄積する仕組み解明/ 老化細胞の除去が癌免疫療法でも成功/ 「オブジーボ」投与で老化細胞が減少、身体機能改善)」。■「27)山中因子の抗加齢効果/ 老化の「促進と逆転」の両方の制御にマウスで成功!/ iPS細胞作製技術の応用で「老化」を巻き戻し若返らせる/ 早老症マウスの延命成功)」。■「28)復習整理: 遺伝子と抗加齢・カロリー制限(CR)を主体に」。</p>	栗田昌裕
第12回	<p>脳神経系と抗加齢          ■「29)脳とアンチエイジング医学 (加齢性脳神経疾患/ アルツハイマー病/ 脳血管性認知症/ レビー小体型認知症/ 前頭側頭型認知症/ 超高齢者の認知症)」。■「30)聴覚の加齢性変化 (文明社会での加齢性変化/ 半世紀前の報告の問題点) (聴覚神経系の加齢による障害/ 加齢性難聴の予防)」。■「31)視覚の加齢性変化 (40歳以上の視覚障害の原因疾患/ 水晶体の加齢性変化/ 老視/ 白内障のアンチ・エイジング/ 網膜の加齢性変化/ 網膜に対するアンチ・エイジング)」。■「英文購読 (アルツハイマー病の治療薬としてのヒト■「29)脳と抗加齢医学 (アルツハイマー病/ 脳血管性認知症/ レビー小体型認知症/ 前頭側頭型認知症/ 超高齢者の認知症)」。■「30)聴覚加齢性変化 (文明社会での加齢性変化/ 過去の報告の問題点) (神経系の加齢障害/ 加齢性難聴予防)」。■「31)視覚加齢性変化 (中高年の視覚障害原因疾患/ 水晶体加齢性変化/ 老視/ 白内障の抗加齢/ 網膜の加齢性変化/ 網膜に対する抗加齢)」。■「英文購読 (アルツハイマー病治療薬ヒトIgG1モノクローナル抗体)」。</p>	栗田昌裕
第13回	<p>抗加齢を実現する薬剤群          ■「32)代謝: NAD+を増やして長寿と繁栄を (Natureの参考記事)」。■「33)チャットGPTの開発者が次に狙う、人間に寿命200年をもたらす新薬」。■「34)老化は『治癒』できる (研究者たちの相次ぐ挑戦)」。■「35)薬での老化治療によって、予防医学に革命が起きる (特集『THE WORLD IN 2023』)」。■「36)メトホルミンとラパマイシンの抗加齢効果」。■「37)「老化抑制効果で注目」企業が仕掛ける不老長寿への第一歩」。■「38)「NMN、ブームへの警鐘」、今井眞一郎教授、老化・寿命研究の最前線を語る」。■「39)急■「32)代謝: NAD+で長寿と繁栄 (Nature記事)」。■「33)チャットGPT開発者が狙う、寿命200年をもたらす新薬」。■「34)老化は『治癒』できる (研究者たちの挑戦)」。■「35)薬での老化治療で予防医学に革命が起きる (特集『THE WORLD IN 2023』)」。■「36)メトホルミンとラパマイシンの抗加齢効果」。■「37)企業が仕掛ける老化抑制不老長寿への第一歩」。■「38)「NMN、ブームへの警鐘」、I教授、老化・寿命研究の最前線を語る」。■「39)急落持続の米国平均寿命、原因はコロナだけではない」。</p>	栗田昌裕
第14回	<p>知能の老化と「ぼけ」と「認知症」          ■「0. 簡易生命表より」。■「1. 知能の老化の横断法と縦断法」。■「2. 知能老化の特徴」。■「3. 知能老化の要因---性差/ 教育歴/ 身体条件」。■「4. 知能の病的老化---認知症」。■「5. 認知症の診断---認知症類似の病的状態/ 知能評価 長谷川式 HDS-R(1991年)/ 原因疾患診断」。■「6. 認知症老人の特性」。■「7. 認知症の心理と行動---心理状態/ 妄想/ 徘徊/ 夜間異常行動/ 問題行動」。■「8. アプローチ---観察/ 環境変化/ ペース/ 面接距離/ 適切な情報/ 非言語的働きかけ/ 受け入れ 規則的生活・環境一定」。■「9. 認知症の予防---脳血管障害予防/ 身体病予防/ うつ病予防と治療/ 心理状態・環境条件安定化/ 社会とのつながりを保つ」。■「追記1 自己同一性完成---老年期の生理と精神/ 人の成長と精神活動/ 老人への誤解と見直し/ 老年期を充実して生きる」。■「追記2 記憶の加齢変化 1. 記憶の仕組み/ 2. エピソード記憶と意味記憶」。■「追記3 高齢者の動向」。「追記4 加齢に伴う精神心理機能の変化/ A 知能の障害発達(知能研究の進歩/ 結晶性地方と流動性知能)/ B 人格 (人格の障害発達---老年期特有の人格特徴)」。■「追記5 ミニメンタルステート検査」。■「追記6 長谷川式認知症スケール」。■「英文購読 脳は自己修復可能か」。</p>	栗田昌裕
第15回	<p>21世紀の心身の潜在能力開発法          ■「理論とデータ/ 0. 序論/ 1. 系統性/ 2. 向上性/ 3. 定量性/ 4. 普遍性/ 5. 合理性/ 6. 潜在性/ 7. 新規性/ 8. 総合性/ 9. 簡易性/ 10. 速効性/ 11/集合性/ 12. 制御性」。■「訓練実践/ 指回し健康法と能力開発法/ ~知的能力を高める秘訣~/ 訓練の概略」。■「参考1/ 10日間の速読講習による1550人の心身機能の変化/ 1. 迷路抜け速度/ 2. 計算速度/ 3. 読書速度と読書倍率の推移/ 4. 読書の最終倍率の分布/ 5. 六つのシステムの元気度・好調度」。■「参考2 栗田式心身鍛練法の基本データ/ 指回し/ 眼球/ 眼球手動/ 四肢抹消/ 閉眼片脚立ち/ 12脳神経訓練 (舌/ 嚙下等) / 言語的知性/ 心象的知性/ 敏捷性」</p>	栗田昌裕
科目の目的	<p>出生から死亡に至るまでの加齢過程で生じる現象、加齢と生活の蓄積に伴って生じる生活習慣病や知的機能の変化、およびその予防や健康改善の理解・知識を、より精緻に発展させ、抗加齢医学の成果を知り、研究と臨床の実践に役立つようにする。折々に、情報取得を容易にするためのAIの活用法や、英文購読に慣れるための課題にも触れてもらう。【実践能力】</p>	
到達目標	<p>1. 加齢過程で生じる現象を理解し、臨床実践を発展させる知識を深める。2. 生活習慣病とその予防、改善について理解し、抗加齢医学を考慮する姿勢を養う。3. 加齢に伴う知的機能の変化と改善について理解し、臨床実践に役立てる発想を得る。4. 特に近年注目を浴びたり、期待された</p>	

	りしている抗加齢（または抗老化）の方法の概略を学ぶ。5. 最新の抗加齢医学を理解する基礎となる諸概念を明確にする。6. 慣れるべきキーワードとしては、酸化ストレス、カロリー制限、長寿遺伝子、抗糖化、オートファジー、老化細胞除去、山中因子、エビジェネティクス、NAD <sup>+</sup> 、NMNなど。
成績評価方法・基準	出席状況、課題レポートを以て評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回で学んだ内容を1時間程度復習。
教科書	教科書：使用しない。
参考書	参考書： 「アンチエイジング医学の基礎と臨床」（メジカルビュー社）日本抗加齢医学会 専門医・指導医認定委員会編。 「アンチエイジング医学-その理論と実践-」（診断と治療社）吉川敏一著。
オフィス・アワー	講義の前後（場所：非常勤講師室）
履修条件・履修上の注意	（枚数が多いので）資料は事前配布せず、毎回の講義の場で、印刷したものを各人に渡します。
ナンバリング	ZCF-506

講義科目名称： 生殖補助医療技術学特論

授業コード： M7007

英文科目名称： Advanced Assisted Reproductive Technology

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
荒木 泰行			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 生殖医療概論 現在行われている生殖医療、とりわけ不妊症治療の国内、国外の様子を含めた広範囲の概論。	荒木泰行
	第2回 体外受精 国内外における体外受精の概要と治療原理。	荒木泰行
	第3回 配偶子の発生（精子） 原始生殖細胞から成熟精子完成までの発生・分化学を学ぶ。	荒木泰行
	第4回 配偶子の発生（卵子） 原始生殖細胞から成熟卵子までの発生・分化学を学ぶ。	荒木泰行
	第5回 内分泌（1） 精子の生殖に関する中枢一下垂体一性腺のホルモン関係を学ぶ。	荒木泰行
	第6回 内分泌（2） 卵子の生殖に関する中枢一下垂体一性腺のホルモン関係を学ぶ。	荒木泰行
	第7回 胚発生 受精後の分割卵の発生、着床メカニズムを学ぶ。	荒木泰行
	第8回 凍結技術学（1） 精子に関する凍結の理論と実際を学ぶ。	荒木泰行
	第9回 凍結技術学（2） 卵子に関する凍結の理論と実際を学ぶ。	荒木泰行
	第10回 凍結技術学（3） 受精卵（胚）に関する凍結の理論と実際を学ぶ。	荒木泰行
	第11回 培養技術（1） 未成熟配偶子（精子）の培養に対する概論を学ぶ。	荒木泰行
	第12回 培養技術（2） 未成熟配偶子（卵子）の培養に対する概論を学ぶ。	荒木泰行
	第13回 染色体異常 （精子）染色体の構造、異常、分化過程の概念を学ぶ。	荒木泰行
	第14回 （卵子）染色体の構造、異常、分化 卵子の染色体の構造、異常、分化の概念を学ぶ。	荒木泰行
	第15回 総合討論 全般の概念から学んだ点を整理して生殖医療の問題点と将来を展望する。	荒木泰行
科目の目的	学部で学んだ生殖医療の概念を構築できることを目的とする。 学部で生殖技術学を学んでこない学生も含まれると考えられるので、他学科からの進学大学院生にも理解できることを目的に生殖医学の一般論が分かることを目的とする。 ディプロマポリシーとの関連： 1) 生殖医療分野の諸課題に関する科学的な手続きと洞察に基づく的確な判断能力 2) 先進・高度化する専門分野の基本的技術を提供する実践能力【実践能力】	
到達目標	体外受精を中心とした生殖補助医療の広範囲の関連学問を修得することを目標とする。	
成績評価方法・基準	講義参加時の積極的なDiscussionの内容にて評価する（100％）。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義資料をもとに授業該当箇所の予習と復習を4時間を目途に実施してください。	
教科書	なし	
参考書	「生殖補助医療テキスト」 荒木康久著（医歯薬出版）	
オフィス・アワー	質問は各講義の終了後に受け付けます。 その他の時間帯はメールにて受け付けます（y-araki@paz.ac.jp）	
履修条件・履修上の注意		
ナンバリング	ZCF-507	

講義科目名称： 医療情報科学特論

授業コード： M7008

英文科目名称： Medical Information Science

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
星野 修平			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回-7回 保健医療福祉における情報伝達、医療情報管理について	星野修平
	8回-14回 保健医療福祉における研究デザイン・研究方法について	星野修平
	第15回 総論	星野修平
科目の目的	保健医療分野における意思決定は、診療情報、検査情報、健康情報、医学的知識などからなる医療情報とその伝達によって形成される。現代では、コンピュータ技術の躍進と情報通信技術の開発・普及によって、情報伝達と情報共有が重要な役割を担っている。この講義では、医療情報の基礎として情報通信処理技術（ネットワーク、ハードウェア・ソフトウェア）を学び、保健医療における実践的活用方法について技術・制度などの側面から医療情報の電子化・標準化、保健医療制度、医療情報管理、医療評価、医療の質管理、意思決定支援、情報セキュリティ、プライバシー、個人情報保護をについて具体的事例をもとに学ぶ。【実践能力】	
到達目標	1 保健医療分野における情報通信処理技術の意義が説明できる。 2 保健医療における実践的活用方法として、（1）医療情報の電子化・標準化、（2）保健医療制度、（3）医療情報管理、（4）医療評価、医療の質管理、（5）意思決定支援、（6）情報セキュリティ、プライバシー、個人情報保護をについて説明できる。	
成績評価方法・基準	講義・演習への取り組みと学習状況（50%）、レポート提出課題（50%）の総合点による評価	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習 90分、事後学習90分	
教科書	特に指定しない	
参考書	特に指定しない	
オフィス・アワー	授業開始前、授業後を基本とするが、E-mailでの相談を受け付ける。 面談を希望する場合は、予め担当教員にE-mailにて、予約を行うことが望ましい。	
履修条件・履修上の注意		
ナンバリング	ZCF-508	

講義科目名称： データ分析特論

授業コード： M7009

英文科目名称： Advanced Data Analytics

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 朗	加茂 智彦		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 ベイズ統計の基礎知識 確率、ベイズの定理、ベイズ因子	木村 朗
	第2回 1サンプルの正規分布 ベイズ因子の推定	木村 朗
	第3回 1サンプルの2項分布 Null点を利用する場合のベイズ因子の推定	木村 朗
	第4回 1サンプルのポアソン分布 Null点を利用しない場合のベイズ因子の推定	木村 朗
	第5回 対応サンプルの正規分布 事後分布の評価	木村 朗
	第6回 独立サンプルの正規分布 事前情報がない場合の事後分布の評価	木村 朗
	第7回 ピアソンの相関 ベイズ因子の推定	木村 朗
	第8回 線形回帰 検定モデル対零モデル	木村 朗
	第9回 一元配置分散分析 ベイズ因子の推定	加茂 智彦
	第10回 対数線形モデル 一元配置反復分散分析 ベイズ因子の推定	加茂 智彦
	第11回 データを用いた頻度論統計基礎 1 重回帰分析	加茂 智彦
	第12回 データを用いた頻度論統計基礎 2 ロジスティック回帰分析	加茂 智彦
	第13回 データを用いた頻度論統計基礎 3 因子分析	加茂 智彦
	第14回 データを用いた頻度論統計基礎 4 メタ分析論文を用いて、基本的な分析方法をトレースする	加茂 智彦
	第15回 データを用いた頻度論統計基礎 5 システムティックレビュー分析論文を用いて、分析方法をトレースする 2	加茂 智彦
科目の目的	研究におけるデータの正しい取り扱いを基礎的な段階より上のレベルでできるようになることで、より正しい研究の解釈ができるようになること【実践能力】	
到達目標	1 研究論文において扱われているデータ分析の目的、意義が理解できるようになること 2 自ら立案する研究計画においてデータ取得から処理、分析までの一連の手続きができるようになること 3 頻度論とベイズ統計の相違点を理解し、機械学習から人工知能を用いたデータ処理のあらましが理解できるようになること	
成績評価方法・基準	最終課題のプレゼンテーション（50%） 中間筆記試験（50%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	本講義1コマに対し、基礎知識がある場合、予習2時間および復習2時間の自己学習を要する。基礎知識が不十分な場合、その補充を必要とする。頻度論に関する部分として統計検定2級程度の知識を前提とする。	
教科書	SPSSによるベイズ統計の手順 石村光資郎ら 東京図書 新版 統計学のセンス 丹後俊郎 朝倉書店	
参考書	松原望の確率過程超！入門 東京図書	
オフィス・アワー	時間：各講義終了時間の休み時間 場所：木村朗研究室 加茂研究室 （ともに1号館6階）	
履修条件・履修上の注意	PCを持参すること	
ナンバリング	ZCF-509	

講義科目名称： 医療安全管理学特論

授業コード： M7010

英文科目名称： Advanced Medical Safety Management

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 博一	亀子 光明	渡邊 浩	田村 遵一
	大瀨 和也		

授業形態	講義（一部、討論・演習を含む）	担当者
授業計画	第1回 医療機関における医療安全管理体制 医療安全を担保するための関係法令ならびに医療機関における医療安全管理体制を概説する。	渡邊 浩
	第2回 医療安全管理理論 医療安全を担保するための理論と取り組みを講義する。	渡邊 浩
	第3回 放射線安全管理Ⅰ 放射線安全管理の概要を講義する。	渡邊 浩
	第4回 放射線安全管理Ⅱ 放射線安全管理の実践例を講義する。	渡邊 浩
	第5回 リスクコミュニケーション リスクコミュニケーションの考え方と実践例を講義する。	渡邊 浩
	第6回 病院における安全管理システム 病院における医療安全を遂行するシステムについて講義する。	田村 遵一
	第7回 安全管理の盲点と対策 安全管理システムの弱点と対策について講義する。	田村 遵一
	第8回 院内感染対策におけるチーム医療 感染対策チーム（ICT）の役割について解説する。	亀子 光明
	第9回 検査結果に影響を及ぼす薬剤 治療目的で使用される薬剤が検査結果に及ぼす影響や造影剤が及ぼす事例を解説する。	亀子 光明
	第10回 臨床工学領域における医療安全1 医療現場における臨床工学技士の医療安全に関する役割に関する講義を行う。	大瀨 和也
	第11回 臨床工学領域における医療安全2 医療現場における臨床工学技士の医療安全の重要性に関する講義を行う。	大瀨 和也
	第12回 バイオセーフティ概論1 バイオセーフティの基礎・技術について概説する。	木村 博一
	第13回 バイオセーフティ概論2 バイオセーフティレベル（BSL）と実験室内感染に対する安全確保策について概説する。	木村 博一
	第14-15回 バイオセーフティと医療安全 バイオセーフティと医療安全について概説する。	木村 博一
科目の目的	医療安全を担保するためのリスクアセスメントならびにリスクマネジメントを理解する。【指導能力及び調整能	
到達目標	医療の各分野における放射線安全管理学、医療過誤防止のための安全管理学、医療機器安全管理学ならびに感染対策管理学などにおける医療安全管理体制と諸課題解決のための広範囲な研究手法を習得する。	
成績評価方法・基準	討論・演習内容（50%）ならびに当該科目の理解度（50%）から総合的に評価する（合計100%）。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前配布資料等を予習すること。必要学習時間は4時間程度。	
教科書	配布資料等	
参考書	特になし。	
オフィス・アワー	各講義終了後に担当教員が口頭にて質問を受け付ける。（木村博一：h-kimura@paz.ac.jp；渡邊浩：h-watanabe@paz.ac.jp；亀子光明：kameko@paz.ac.jp；大瀨和也：oohama@paz.ac.jp；田村遵一：tamura@paz.ac.jp）。	
履修条件・履修上の注意	授業中、携帯電話使用不可	
ナンバリング	ZCF-510	

講義科目名称： 情報アクセシビリティ学特論

授業コード： M7011

英文科目名称： Advanced Information Accessibility Technology

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 朗	加茂 智彦		

授業形態	講義・演習	担当者
授業計画	1回 情報アクセシビリティのあらまし1 情報アクセシビリティの概念 1990年代以前と以降 障害者基本法誕生以前と以後の視点	木村 朗
	2回 情報アクセシビリティのあらまし2 ユーザビリティとユニバーサルデザイン 貨幣の価値と情報の価値 技術的アプローチ 人間中心設計	木村 朗
	3回 アシステッドテクノロジーと情報アクセシビリティ 1990年代以前と以降のアシステッドテクノロジーと情報アクセシビリティ 支援技術の変遷と技術革新	木村 朗
	4回 視覚障害者の情報アクセシビリティ研究論文を基にディスカッション1 1990年以前の国内の文献抄読	木村 朗
	5回 視覚障害者の情報アクセシビリティ研究論文を基にディスカッション2 1990年代以降の国内の文献抄読	木村 朗
	6回 聴覚障害者の情報アクセシビリティ研究論文を基にディスカッション1 1990年以前の国内の文献抄読	木村 朗
	7回 聴覚障害者の情報アクセシビリティ研究論文を基にディスカッション2 1990年代以降の国内の文献抄読	木村 朗
	8回 盲聾者の情報アクセシビリティ研究論文を基にディスカッション1 1990年以前の国内の文献抄読	木村 朗
	9回 盲聾者の情報アクセシビリティ研究論文を基にディスカッション2 1990年代以降の国内の文献抄読	木村 朗
	10回 肢体不自由者の情報アクセシビリティ研究論文を基にディスカッション1 1990年以前および以降の国内の文献抄読	木村 朗
	11回 前庭障害者の情報アクセシビリティ研究論文を基にディスカッション2 1990年以前の国内の文献抄読	加茂 智彦
	12回 加齢による能力低下と情報アクセシビリティ基礎研究論文を基にディスカッション1 1990年代以降の国内の文献抄読	加茂 智彦
	13回 加齢による能力低下と情報アクセシビリティ研究論文を基にディスカッション2 1990年以前および以降の国内の文献抄読	加茂 智彦
	14回 学生が収集した情報アクセシビリティに関する報告 講義ならびに演習	加茂 智彦
	15回 使いやすさの追求と「ユーザービリティ」や「バリアフリー」との違い 講義ならびに演習	加茂 智彦
科目の目的	視覚、聴覚、触覚、手の動きなどにハンディが先天的、後天的にある人のみならず、加齢によって能力が低下している人のことも考慮し、使いやすい製品やサービスを設計することで彼らの健康を支援するための技術と理論を理解すること。【指導能力及び調整能力】	
到達目標	アクセシビリティの歴史、概要について、学生は情報アクセシビリティの定義およびあらましを説明できるようになること。使いやすさの追求と「ユーザービリティ」や「バリアフリー」との違いが説明できるようになること。	
成績評価方法・基準	講義の中で作成する資料（50%）を用いて発表の質（50%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義1時間に対し、予習復習2時間程度を想定している。	
教科書	講義前に資料を提示する。	
参考書	特になし 必要時紹介する	
オフィス・アワー	講義日の授業終了後15分 木村 朗研究室 (a-kimura@paz. ac. jp) 加茂研究室 (kamo@paz. ac. jp)	
履修条件・履修上の注意		
ナンバリング	ZCF-511	





講義科目名称： 応用英語

授業コード： M7012

英文科目名称： Applied English

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
杉田 雅子	David Andrews		

授業形態	杉田：8回 講義中心だが、一部演習も含む          Andrews：7回 講義と演習		担当者
授業計画	第1回	文献精読 Changes in Sleep Patterns in COPDについての文献を読む。副詞節、動名詞の用法を学ぶ。	杉田
	第2回	文献精読 Confusionについての文献を読む。itの用法、理由原因を表す接続詞を学ぶ。	杉田
	第3回	文献精読 A Battered-Child Syndromeについての文献を読む。過去完了、appear、seemの文型を学ぶ。	杉田
	第4回	文献精読 Communicating with Infantsについての文献を読む。報告動詞、無生物主語の文型を学ぶ。	杉田
	第5回	文献精読 The Unique Function of Nursingについての文献を読む。否定表現、asの用法を学ぶ。	杉田
	第6回	文献精読 How to Read Abstracts #1を読んで、英語のabstractの読み方、書き方を学ぶ。	杉田
	第7回	文献精読 How to Read Abstracts #2を読んで、英語のabstractの読み方、書き方を学ぶ。	杉田
	第8回	文献精読 受講者各自の分野のabstractを読んで、内容を要約し、発表する。	杉田
	第9回	プレゼンテーション 良いプレゼンテーションとは何かを学ぶ。	Andrews
	第10回	プレゼンテーション 効果的な視覚資料の作成の仕方を学ぶ。	Andrews
	第11回	プレゼンテーション 受講者各自の分野の文献を読んで、内容を要約し、発表する。	Andrews
	第12回	プレゼンテーション 受講者各自の分野の文献を読んで、内容を要約し、発表する。	Andrews
	第13回	プレゼンテーション 受講者各自の分野の文献を読んで、内容を要約し、発表する。	Andrews
	第14回	プレゼンテーション 受講者各自の分野の文献を読んで、内容を要約し、発表する。	Andrews
	第15回	プレゼンテーション 受講者各自の分野の文献を読んで、内容を要約し、発表する。	Andrews
科目の目的	研究に必要な情報・知識を得るための英文読解力と、各自の研究分野の論文の要旨をつかむ読解力の養成。 学会発表時等で必要なプレゼンテーションの方法を学び、パブリックスピーキングスキルを身につける。【実践能力】		
到達目標	1) 基礎的英文法を確認しながら構文を分析し、英語文献を正しく読み取ることができる 2) 読み取った内容から論旨を把握し、要約することができる 3) 良いプレゼンテーションの構成要素を理解し、効果的な視覚資料を作成することができるようになる 4) パブリックスピーキングに慣れ、英語でプレゼンテーションができるようになる		
成績評価方法・基準	授業での発表(100%)		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	わからない単語は調べ、構文を確かめながら英文を読んで大意をつかんでおく。わからない部分があるようにわからないのかを明確にしておく。約4時間		
教科書	プリントを使用(杉田)。 プリントやパワーポイントのスライドを使用(アンドリュース)。		
参考書	参考書：「看護英語読解15のポイント」園城寺康子他(Medical View)		
オフィス・アワー	杉田：授業の前後(教室)または非常勤講師室 アンドリュース：授業の前後(教室)または非常勤講師室		

履修条件・履修上の注意	特になし。
ナンバリング	ZCF-512

講義科目名称： 研究方法特論

授業コード： M7013

英文科目名称： Advanced Methodology in Medical and Health Care Research

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
木村 博一	矢島 正栄	峯村 優一	
授業形態	講義・討論		担当者
授業計画	第1回	保健科学研究の基礎・歴史 保健科学研究の基礎と歴史に関する講義を行う。	木村博一
	第2回	保健科学研究手法論 (1) 演繹的な保健科学研究手法論を講義する。	木村博一
	第3回	保健科学研究手法論 (2) 帰納的な保健科学研究手法論を講義する。	矢島正栄
	第4回	保健科学研究手法論 (3) 社会調査の種類と方法を概説する。	矢島正栄
	第5回	保健科学研究手法論 (4) 質的研究の種類と方法を概説する。	矢島正栄
	第6回	文献検討 文献検討の意義と方法を講義する。	峯村優一
	第7回	研究倫理 (1) 科学研究における利益相反問題を講義する。	峯村優一
	第8回	研究倫理 (2) 科学研究における研究不正を講義する。	峯村優一
科目の目的	保健科学研究の意義および研究を遂行する上で習得すべき基本的な事項を学修する。【研究能力】		
到達目標	研究を行う意義を説明できる。 保健科学研究の歴史について説明できる。 研究倫理について説明できる。 各領域における研究の概要と特質について説明できる。		
成績評価方法・基準	討論による評価 (100%)		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	復習を中心に4時間程度振り返り整理する。		
教科書	特に指定しない (必要に応じて資料別途配布)。		
参考書	特になし。		
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は各担当教員の講義終了後に対応する(木村:h-kimura@paz.ac.jp; 矢島:yajima@paz.ac.jp; 峯村:minemura@paz.ac.jp)。		
履修条件・履修上の注意	必要事項があれば事前に連絡する		
ナンバリング	ZCF-513		

講義科目名称： 保健科学特別セミナー

授業コード： M7014

英文科目名称： Special Lectures on Medical Science

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
矢島 正栄	藤田・齋藤基 木村博	佐藤満・松下	渡邊浩・大濱

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 臨床データの謎解き	藤田清貴
	第2-3回 公衆衛生看護学に関する研究動向と争点や課題	矢島正栄
	第4-5回 看護学に関する研究動向と争点や課題	齋藤基
	第6-7回 リハビリテーション学に関する研究動向と争点や課題	佐藤満
	第8-9回 病因・病態検査学に関する研究動向と争点や課題	松下誠
	第10-11回 放射線学に関する研究動向と争点や課題	渡邊浩
	第12-13回 臨床工学に関する研究動向と争点や課題	大濱和也
	第14-15回 公衆衛生学に関する研究動向と争点や課題	木村博一
科目の目的	保健科学研究科における各領域の最新の研究動向と争点や課題を知り、それらの知識・情報を各自の研究のテーマや視点や分析概念や方法の具体的検討に役立てることを目的とする。【実践能力】	
到達目標	各領域における最新の研究動向や争点を理解できる。	
成績評価方法・基準	レポート(50%)および討論内容(50%)から総合的に評価する	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	復習を中心に90分程度振り返り整理すること。	
教科書	指定しない。	
参考書	指定しない。	
オフィス・アワー	各担当教員の講義後の時間帯に対応する。 メールアドレス 藤田清貴：fujita@paz.ac.jp 矢島正栄：yajima@paz.ac.jp 齋藤基：m-saito@paz.ac.jp 佐藤満：mit-sato@paz.ac.jp 松下誠：matsushita-m@spu.ac.jp 渡邊浩：h-watanabe@paz.ac.jp 大濱和也：oohama@paz.ac.jp 木村博一：h-kimura@paz.ac.jp	
履修条件・履修上の注意		
ナンバリング	ZCF-514	

講義科目名称： 看護学研究方法論

授業コード： M7015

英文科目名称： Methodology in Nursing Research

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
齋藤 基	小林 亜由美	中下 富子	中島 久美子

授業形態	講義（8回）	担当者
授業計画	第1回 看護研究の意義と特質 1	齋藤
	第2回 看護研究の意義と特質 2	齋藤
	第3回 量的研究の展開方法 1	小林
	第4回 量的研究の展開方法 2	小林
	第5回 質的研究の展開方法 1	中島
	第6回 質的研究の展開方法 2	中島
	第7回 文献クリティーク 1	中下
	第8回 文献クリティーク 2	中下
科目の目的	看護学領域における課題とその探究方法、看護学研究の遂行に必要な基本的知識、技術を修得する。【研究能力】	
到達目標	1. 看護学研究の意義と特質を説明できる。 2. 看護学研究における着想から研究成果の公表までのプロセスおよび研究成果を社会に還元する方法を説明できる。 3. 看護学研究で用いられる研究手法の特徴と具体的な展開方法を説明できる。 4. 研究論文のクリティークの方法を説明できる。	
成績評価方法・基準	レポート（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	配付資料、関連する文献を読んで参加すること。毎回、2時間程度の準備学修が必要である。	
教科書	使用しない。	
参考書	必要に応じて授業において紹介する。	
オフィス・アワー	齋藤 基（研究室322）授業の前後又はメール（m-saito@paz.ac.jp） 小林 亜由美（研究室326）授業の前後又はメール（a-kobayashi@paz.ac.jp） 中下 富子（研究室323）授業の前後又はメール（nakashita@paz.ac.jp） 中島 久美子（研究室318）授業の前後又はメール（nakajima@paz.ac.jp）	
履修条件・履修上の注意	なし	
ナンバリング	ZSN-501	

講義科目名称： 成人看護学特論

授業コード： M7016

英文科目名称： Advanced Adult Nursing

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
萩原 英子	堀越 政孝		

授業形態	講義(11回)、演習(4回)	担当者	
授業計画	第1回 オリエンテーション/成人看護学とは 成人看護学の概念と生涯発達理論からみた成人期にある人の特徴、成人期に特有の健康問題について学ぶ。 【key：生涯発達理論】	萩原英子	
	第2回 成人期にある人を支える保健・医療・福祉のシステム 成人期にある人の健康を支える保健・医療・福祉のシステムについて学び、その課題について考察する。	萩原英子	
	第3回 看護基礎教育における成人看護学教育の実際と課題 看護基礎教育における成人看護学教育の現状を学び、その課題について考察する。	萩原英子	
	第4・5回 成人期にある人の健康問題と看護①〔第5回：演習〕 急性疾患に罹患した成人の特徴について学び、理論を基にその看護のあり方を検討する。 【Key：危機理論・ストレスコーピング理論】	萩原英子	
	第6・7回 成人期にある人の健康問題と看護②〔第7回：演習〕 慢性疾患と共に生きる成人の特徴について学び、理論を基にその看護のあり方を検討する。 【key：セルフケア理論・病みの軌跡】	堀越政孝	
	第8回 様々な健康問題をもつ成人の家族の特徴と看護 様々な疾患をもつ成人の家族の特徴について学び、理論を基にその看護のあり方を検討する。 【key：家族システム理論】	萩原英子	
	第9回 療養の場の移行支援 療養の場の移行支援の必要性と移行支援の実際を学び、その課題について考察する。	堀越政孝	
	第10回 成人期にある人に対する看護支援方法① 成人期にある人に対するインフォームドコンセント及び意思決定に関する看護支援方法について学ぶ。 【key：意思決定支援・インフォームドコンセント】	萩原英子	
	第11回 成人期にある人に対する看護支援方法② 成人期にある人に対する心理・社会的支援方法について学ぶ。 【key：セルフヘルプグループ・就労支援】	萩原英子	
	第12回 成人期にある人に対する看護支援方法③〔演習〕 成人期にある人の意思決定支援や心理・社会的支援に関する国内外の文献を講読し、その課題を検討する。 【key：症状マネジメント・緩和ケア】	萩原英子	
	第13回 成人期にある人に対する看護支援方法④ 成人期にある人の症状マネジメントの考え方とその方法について学ぶ。 【key：症状マネジメント】	堀越政孝	
	第14回 成人期にある人に対する看護支援方法⑤ 成人期にある人のQOLを高める緩和ケアの概念とその方法について学ぶ。 【key：緩和ケア】	堀越政孝	
	第15回 成人期にある人に対する看護支援方法⑥〔演習〕 成人期にある人の症状マネジメントや緩和ケアに関する国内外の文献を講読し、その課題を検討する。 【key：症状マネジメント・緩和ケア】	堀越政孝	
	科目の目的	様々な健康問題を持つ成人期にある人とその家族を多面的に捉え、科学的根拠に基づいた質の高い看護支援のあり方を探究する力を養う。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】	
	到達目標	1. 様々な健康問題を持つ成人期にある人とその家族を取り巻く保健・医療の現状と、看護支援における今日的な課題について説明できる。 2. 様々な健康問題をもつ成人期にある人とその家族の看護支援に有用な理論について、その活用方	

	法を説明できる。 3. 国内外の文献を活用して、成人看護の意義や役割、支援のあり方や課題について検討し、自己の考えを述べることができる。
成績評価方法・基準	授業内で実施するプレゼンテーション(25%)、ディスカッション(25%)、最終レポート(50%)で評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の準備学習として、文献検索、研究論文の講読、発表資料作成など、2時間程度の学習を要する。
教科書	特に指定しない。 授業に必要な資料は各講義・演習の際に配布する。
参考書	授業の中で随時紹介する。
オフィス・アワー	萩原英子(研究室306)：講義の前後。または、E-mail(hagiwara@paz.ac.jp)で対応する。 堀越政孝(研究室324)：講義の前後。または、E-mail(horikoshi@paz.ac.jp)で対応する。
履修条件・履修上の注意	本科目は討論を中心に授業を展開しますので、主体的に参加をしてください。また、やむを得ず欠席をする際には事前に萩原英(hagiwara@paz.ac.jp)まで連絡をしてください。
ナンバリング	ZSN-502



講義科目名称： 成人看護学演習

授業コード： M7017

英文科目名称： Practice in Adult Nursing

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
萩原 英子	堀越 政孝		

授業形態	講義(3回)、演習(12回)	担当者
授業計画	第1回 イントロダクション/研究の進め方 [講義] 本科目のオリエンテーションを通して、リサーチクエストの設定から研究計画立案までのプロセスについて学習する。	萩原英子
	第2回 研究課題の明確化 [演習] これまでの学習や経験をもとに感じている問題(研究課題)について、ディスカッションを通して明確にする。	萩原英子・堀越政孝
	第3回 文献検索と文献検討の方法 [講義] 学生の研究課題に基づき、文献を収集し、文献検討を行う方法について学習する。	萩原英子
	第4回 文献検討① [演習] 学生の研究課題に基づき、国内の文献を収集し、文献検討を行う。	萩原英子
	第5回 文献検討② [演習] 学生の研究課題に基づき、国外の文献を収集し、文献検討を行う。	萩原英子
	第6回 研究論文のクリティーク方法 [講義] 学生の研究課題に基づき、クリティークを行う方法について学習する。	堀越政孝
	第7回 研究論文クリティーク① [演習] 学生の研究課題に基づき文献検索した国内の文献について、クリティークを行う。	堀越政孝
	第8回 研究論文クリティーク② [演習] 学生の研究課題に基づき文献検索した国外の文献について、クリティークを行う。	堀越政孝
	第9回 研究計画の立案Ⅰ-① [演習] これまでに実施した文献検討やクリティークの結果を踏まえ、研究課題及び研究目的、研究デザインについて検討する。	萩原英子・堀越政孝
	第10回 研究計画の立案Ⅰ-② [演習] 研究課題及び研究目的、研究デザインについて検討した結果を基に、研究動機、研究目的、研究の意義を整理し、記述する。	萩原英子・堀越政孝
	第11回 研究計画の立案Ⅱ-① [演習] 研究デザインに基づき、研究対象者、データ収集方法、分析方法について検討する。	萩原英子・堀越政孝
	第12回 研究計画の立案Ⅱ-② [演習] 研究対象者の選定条件、データ収集の期間や場所について具体的に検討し、記述する。	萩原英子・堀越政孝
	第13回 研究計画の立案Ⅲ [演習] 研究計画の倫理的側面について検討する。	萩原英子・堀越政孝
	第14回 研究計画の立案Ⅳ [演習] 研究のタイムスケジュールを検討し、研究計画の全体像の見直しを図る。また、研究の実施に向けた準備として必要時はフィールドワークを行い、実施可能性について検討する。	萩原英子・堀越政孝
	第15回 研究計画の立案Ⅴ [演習] 研究計画についてプレゼンテーションし、その内容について検討する。	萩原英子・堀越政孝

科目の目的	患者及びその家族に対する、エビデンスに基づく看護支援のあり方を追究するため、俯瞰的な視点で研究課題を探究し、その研究課題を解決するための方策を具体的に立案する力を養う。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】
到達目標	1. 文献検討及び研究論文クリティークを実施することができる。 2. 研究課題及び研究の意義について、論理的に説明することができる。 3. 研究課題を解決するための適切な方法を検討・選択することができる。 4. 研究課題に基づき、具体的で表現可能な研究計画書を作成することができる。 5. 自分の考えを整理し、分かりやすく説明することができる。
成績評価方法・基準	文献検討の内容[第4・5回：各10%の計20%]、クリティークの内容[第8・9回：各10%の計20%]、研究計画書プレゼンテーション[第15回：20%]、最終提出課題(研究計画書)[授業終了後：40%]の計100%で評価をする。 尚、最終提出課題である研究計画書は第15回の演習を踏まえ、追記・修正したものを期日(イントロダクションにて通知)までに提出すること。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	演習に参加する際には、必要な資料を作成して持参すること。この資料の作成も含め、各回の準備学習に要する時間は1コマ当たり約4時間である。
教科書	特に指定しない。
参考書	黒田裕子の看護研究Step by Step 医学書院
オフィス・アワー	萩原英子(研究室306)：講義の前後。または、E-mail(hagiwara@paz.ac.jp)で対応する。 堀越政孝(研究室324)：講義の前後。または、E-mail(horikoshi@paz.ac.jp)で対応する。
履修条件・履修上の注意	欠席する際には事前に萩原英(hagiwara@paz.ac.jp)まで連絡をすること。
ナンバリング	ZSN-503

講義科目名称： ウィメンズヘルス・助産学特論

授業コード： M7018

英文科目名称： Advanced Women's Health and Midwifery

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
中島 久美子			

授業形態	講義11回・演習4回		担当者
授業計画	第1回	イントロダクション・ウィメンズヘルスの課題Ⅰ 看護基礎教育におけるウィメンズヘルス・助産学の位置づけ、理論	中島
	第2回	ウィメンズヘルスの課題Ⅱ マタニティケア・助産ケアのエビデンス（妊娠編）①	中島
	第3回	ウィメンズヘルスの課題Ⅲ マタニティケア・助産ケアのエビデンス（分娩編）②	中島
	第4回	論文の批判的吟味の方法Ⅰ EBM①（分娩時会陰マッサージ）	中島
	第5回	論文の批判的吟味の方法Ⅱ EBM②（虐待）	中島
	第6回	論文の批判的吟味の方法Ⅲ EBM③（マタニティケア・助産ケア）	中島
	第7回	周産期の課題Ⅰ 周産期のメンタルヘルス	中島
	第8回	周産期の課題Ⅱ 周産期の夫婦関係①	中島
	第9回	周産期の課題Ⅲ 周産期の夫婦関係②	中島
	第10回	ウィメンズヘルス・助産学教育Ⅰ リプロダクティブヘルスに関わる健康教育（ピアエディケーション）	中島
	第11回	ウィメンズヘルス・助産学教育Ⅱ 助産教育に関する研究の動向と課題（シミュレーション教育）	中島
	第12回	ウィメンズヘルス・助産学における研究Ⅰ（演習） ウィメンズヘルス・助産学における研究論文（量的研究）	中島
	第13回	ウィメンズヘルス・助産学における研究Ⅱ（演習） ウィメンズヘルス・助産学における研究論文（質的研究）	中島
	第14回	ウィメンズヘルス・助産学における研究Ⅲ（演習） ウィメンズヘルス・助産学における研究論文（ミックスメソッド）	中島
	第15回	ウィメンズヘルス・助産学における研究Ⅳ（演習） 自己の研究課題に関する論文	中島
科目の目的	リプロダクティブ・ヘルス、女性のライフサイクルに沿った健康問題に対する助産ケアに必要な基礎的能力を養う。女性の健康を支援するための研究・実践への理解を深め、ウィメンズヘルスにおける助産ケアを追究する。助産学教育の現状と課題、助産ケアの質を高めるために必要な継続教育について理解する。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】		
到達目標	1. 女性のライフステージ各期における健康問題について説明する。 2. 女性や子どもをめぐる健康問題と、夫婦関係・家族関係をめぐる課題を説明する。 3. 助産学教育に関する研究の動向や課題について説明する。 4. ウィメンズヘルス・助産学領域における研究の動向や課題について先行研究を基に探究し、自己の研究課題を記述する。		
成績評価方法・基準	課題に関するプレゼンテーション（60%） 課題（40%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1コマについて4時間程度の学習を必要とする。		
教科書	教科書：使用しない		
参考書	参考書：必要時提示する		
オフィス・アワー	中島：各講義日の前後、メール(nakajima@paz.ac.jp)もしくは、中島研究室		
履修条件・履修上の注意	特になし		
ナンバリング	ZSN-504		

講義科目名称： ウィメンズヘルス・助産学演習

授業コード： M7019

英文科目名称： Practice in Women's Health and Midwifery

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
中島 久美子			

授業形態	演習	担当者
授業計画	<p>第1回 研究の進め方① オリエンテーション</p> <p>第2回 研究の進め方②</p> <p>第3回 文献抄読① 研究課題に関連した文献の抄読</p> <p>第4回 文献抄読② 研究課題に関連した文献の抄読</p> <p>第5回 文献抄読③ 研究課題に関連した文献の抄読</p> <p>第6回 研究計画の検討① 研究課題・研究目的・研究デザイン</p> <p>第7回 研究計画の検討① 研究課題・研究目的・研究デザイン</p> <p>第8回 研究計画の検討① 研究課題・研究目的・研究デザイン</p> <p>第9回 研究計画の検討② 研究方法</p> <p>第10回 研究計画の検討② 研究方法</p> <p>第11回 研究計画の検討② 研究方法</p> <p>第12回 研究計画の検討③ 研究実施計画</p> <p>第13回 研究計画の検討③ 研究実施計画</p> <p>第14回 研究計画の検討③ 研究実施計画</p> <p>第15回 研究計画の発表</p>	<p>中島</p> <p>中島</p> <p>中島</p> <p>中島</p> <p>中島</p> <p>中島</p> <p>中島</p> <p>中島</p> <p>中島</p> <p>中島</p> <p>中島</p> <p>中島</p> <p>中島</p> <p>中島</p> <p>中島</p>
科目の目的	母性看護学/助産学に関する最近の看護知見・社会支援・教育について、国内外の文献抄録、各自の実践報告などを通して、研究の現状を学び、各自の研究計画書を作成する。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>文献を通して母性看護学/助産学領域における研究の最新の知見を述べる。</li> <li>自己の研究課題を明確にし、研究課題に適した研究手法の選択や研究の進め方を理解し、研究計画書を作成できる。</li> </ul>	
成績評価方法・基準	発表・討議（30％） 計画書（70％）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1コマにつき4時間程度の学習を必要とする。	
教科書	特になし	
参考書	<p>参考書 看護研究step by step 黒田裕子 医学書院</p> <p>パソコンで進める やさしい看護研究 富田真佐子 ohmsha社</p> <p>看護研究入門 実施・評価・活用 ナンシー・バーンズ他 エルビア・ジャパン</p>	
オフィス・アワー	講義開講日の授業前後、メール（nakajima@paz.ac.jp）または、中島研究室にて相談を受ける。	
履修条件・履修上の注意	母性看護・助産学領域を専攻する学生	
ナンバリング	ZSN-505	

講義科目名称： 発達看護学特論

授業コード： M7020

英文科目名称： Advanced Developmental Nursing

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
中下 富子			

授業形態	講義（8回）・演習（7回）		担当者
授業計画	第1回	ガイダンス 講義 小児看護研究の動向	中下 富子
	第2回	子どもの成長発達と看護 講義 小児看護における倫理と子どものプレパレーション	中下 富子
	第3回	子どもの成長発達と看護 講義 子どものセルフケアと看護、小児看護にかかわる理論	中下 富子
	第4回	子どもと家族への看護①-1 講義 NICU/GCUにおけるFamily-Centered Care	中下 富子
	第5回	子どもと家族への看護①-2 演習 NICU/GCUにおけるFamily-Centered Care事例を通し看護実践の展開について考える	中下 富子
	第6回	子どもと家族への看護②-1 講義 様々な障害のある子どもと家族	中下 富子
	第7回	子どもと家族への看護②-2 演習 障害のある子どもと家族への支援事例を通し支援の方法について考える	中下 富子
	第8回	子どもと家族への看護③-1 講義 医療的ケアを必要とする子どもと家族	中下 富子
	第9回	子どもと家族への看護③-2 演習 医療的ケアを必要とする子どもの支援事例を通して在宅支援について考える	中下 富子
	第10回	子どもと家族への看護④ 演習 障害や疾病のある子どもと家族のストレスとその対処について	中下 富子
	第11回	子どもと家族への看護⑤ 講義 障害や疾病のある子どもと家族への支援事例を通し支援の方法について考える	中下 富子
	第12回	子どもをめぐる今日的な健康課題①-1 講義 被虐待児の現状	中下 富子
	第13回	子どもをめぐる今日的な健康課題①-2 演習 被虐待児の事例を通して短期的支援と長期的支援について考える	中下 富子
	第14回	子どもをめぐる今日的な健康課題②-1 講義 不登校の子ども現状	中下 富子
	第15回	子どもをめぐる今日的な健康課題②-2 演習 不登校の子ども事例を通して短期的支援と長期的支援について考える	中下 富子
科目の目的	多様な健康ニーズを持つ子どもと家族のwell-beingを目指して、小児看護学領域における研究動向を概観し、小児看護の専門性と社会的な役割を追求するとともに、今後の研究の方向性並びに具体的な支援方法について検討する。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】		
到達目標	①小児看護の専門性と社会的な役割について説明することができる。 ②多様な健康ニーズを持つ子どもと家族の最善の利益を担保するために、保健医療・福祉・教育等々の多機関多職種により連携した質の高い支援方法について説明することができる。		
成績評価方法・基準	①授業の取り組みやプレゼンテーション(50%) ②課題レポート(50%)		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習では、各回のテーマに沿った情報収集、テーマに応じたプレゼンテーションを課します。授業毎に2時間の準備学修を要します。		
教科書	特に指定はありません。 随時、配布提示いたします。		
参考書	随時、紹介します。		
オフィス・アワー	授業日を中心に、月～金曜日18:00～19:00に中下研究室にて質問・相談を受け付けます。また、メールは随時受け付けます。 nakashita@paz.ac.jp		
履修条件・履修上の注意	主体的な参加を期待します。		
ナンバリング	ZSN-506		

講義科目名称： 発達看護学演習

授業コード： M7021

英文科目名称： Practice in Developmental Nursing

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
中下 富子			

授業形態	演習	担当者	
授業計画	第1回	オリエンテーション 研究の進め方Ⅰ	中下富子
	第2回	研究の進め方Ⅱ	中下富子
	第3回	文献抄読Ⅰ 研究課題に関連した文献の抄読	中下富子
	第4回	文献抄読Ⅱ 研究課題に関連した文献の抄読	中下富子
	第5回	文献抄読Ⅲ 研究課題に関連した文献の抄読	中下富子
	第6回	研究計画の検討Ⅰ 研究課題・研究目的・研究デザイン	中下富子
	第7回	研究計画の検討Ⅰ 研究課題・研究目的・研究デザイン	中下富子
	第8回	研究計画の検討Ⅰ 研究課題・研究目的・研究デザイン	中下富子
	第9回	研究計画の検討Ⅱ 研究方法	中下富子
	第10回	研究計画の検討Ⅱ 研究方法	中下富子
	第11回	研究計画の検討Ⅱ 研究方法	中下富子
	第12回	研究計画の検討Ⅲ 研究実施計画の作成	中下富子
	第13回	研究計画の検討Ⅲ 研究実施計画の作成	中下富子
	第14回	研究計画の検討Ⅲ 研究実施計画の作成	中下富子
	第15回	研究計画の検討Ⅳ 研究計画の発表	中下富子
科目の目的	小児看護学に関する研究の動向への理解を深め、研究課題を探求することを通して研究課題探求のための具体的な方法を検討する。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】		
到達目標	①小児看護学領域における研究の動向について説明することができる。 ②研究課題追及のために適する研究デザインを選択し、研究計画を立案することができる。		
成績評価方法・基準	レポート100%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	課題に関して、各自必要な資料を作成して参加してください。準備する課題学習は2時間以上が目安となります。		
教科書	教科書はありません。 随時紹介します。		
参考書	随時紹介します。		
オフィス・アワー	講義の前後、また随時受けます。nakashita@paz.ac.jp		
履修条件・履修上の注意	なし		
ナンバリング	ZSN-507		

講義科目名称： 地域・在宅看護学特論

授業コード： M7022

英文科目名称： Advanced Community Health and Home Care Nursing 対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
齋藤 基	小林 亜由美		

授業形態	講義（14回）、演習（1回）		担当者
授業計画	第1回	オリエンテーション、在宅看護の概念1（講義） 在宅看護の目的、在宅看護の歴史・社会的背景、在宅看護の基本理念	齋藤
	第2回	在宅看護の概念2（講義） 地域包括ケアシステムと在宅看護における看護師の役割	齋藤
	第3回	在宅看護の概念3（講義） 在宅看護の現状と課題	齋藤
	第4回	在宅看護の対象者1（講義） 発達段階及び健康レベル、国際生活機能分類（IFC）による対象者の理解	齋藤
	第5回	在宅看護の対象者2（講義） 在宅療養者の家族・介護者、家族システム論による家族の捉え方	齋藤
	第6回	在宅療養者を支える制度（講義） ケアマネジメント、地域における多職種連携・協働	齋藤
	第7回	在宅看護における課題と展望（講義） 在宅看護の課題に基づいた今後の展望に対する考察	齋藤
	第8回	地域における看護の理念（講義） 地域における看護の理念と目的	小林
	第9回	地域における保健師の役割（講義） 地域における活動の現状と保健師の役割	小林
	第10回	地域における保健師の活動（講義） 個人、家族、集団を対象とした保健師活動の基盤となる理論と技術	小林
	第11回	地域における看護活動1（講義） 成人保健の課題と活動の展開方法	小林
	第12回	地域における看護活動2（講義） 高齢者保健の課題と活動の展開方法	小林
	第13回	地域における看護活動3（講義） 地域における看護管理、施策形成の現状と課題、活動の展開方法	小林
	第14回	地域における看護の課題と展望（講義） 地域における看護の課題に基づいた今後の展望に対する考察	小林
	第15回	地域・在宅看護に関する論文の抄読（演習） 関心のあるテーマに関する論文のプレゼンテーションおよびディスカッション	齋藤、小林
科目の目的	地域・在宅看護における基本理念、役割に基づく地域社会の健康レベル向上に関わる理論や技術の学修を通して、地域に暮らす人々への質の高い看護の提供や展開方法の特徴について考察する。また、地域・在宅看護の現状と今後の展望を洞察し、地域・在宅看護に関連する研究課題の理解を深める。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】		
到達目標	1. 在宅看護の歴史および社会的背景、在宅看護の基本理念、役割について説明できる。 2. 在宅療養者・家族を支える制度、ケアマネジメント、多職種連携・協働の方法について説明できる。 3. 地域における看護の理念、役割、活動の展開方法について説明できる。 4. 地域社会の健康レベル向上に関わる理論および技術について説明できる。 5. 地域・在宅看護における看護の課題について説明できる。 6. 地域・在宅看護における研究の動向について説明できる。		
成績評価方法・基準	ディスカッション（30%）、課題レポート（70%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業準備のため、2時間程度の学修が必要である。		
教科書	使用しない。		
参考書	必要に応じて授業において紹介する。		
オフィス・アワー	齋藤 基（研究室322）授業の前後又はメール（m-saito@paz.ac.jp） 小林 亜由美（研究室326）授業の前後又はメール（a-kobayashi@paz.ac.jp）		
履修条件・履修上の注意	なし		
ナンバリング	ZSN-508		

講義科目名称： 地域・在宅看護学演習

授業コード： M7023

英文科目名称： Practice in Community Health and Home Care Nursing

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
小林 亜由美	齋藤 基		
授業形態	演習 (15回)		担当者
授業計画	第1回	オリエンテーション 論文作成のプロセス、進行スケジュール	小林、齋藤
	第2回	研究課題の探索1 研究課題に関連した文献の抄読と課題の整理	小林、齋藤
	第3回	研究課題の探索2 研究課題に関連した文献の抄読と課題の整理	小林、齋藤
	第4回	研究課題の探索3 研究課題に関連した文献の抄読と課題の整理	小林、齋藤
	第5回	研究計画書の作成1 文献検討の結果、研究課題	小林、齋藤
	第6回	研究計画書の作成2 研究目的、用語の定義	小林、齋藤
	第7回	研究計画書の作成3 研究デザイン、概念枠組み	小林、齋藤
	第8回	研究計画書の作成4 研究対象者、データ収集項目、データ収集方法	小林、齋藤
	第9回	研究計画書の作成5 質問紙の作成	小林、齋藤
	第10回	研究計画書の作成6 データ分析方法	小林、齋藤
	第11回	研究計画書の作成7 研究依頼に必要な書類の作成	小林、齋藤
	第12回	倫理審査申請準備1 研究計画書に基づく研究課題、研究目的、研究デザイン	小林、齋藤
	第13回	倫理審査申請準備2 研究計画書に基づく研究対象者、データの収集項目、収集方法、分析方法	小林、齋藤
	第14回	倫理審査申請準備3 研究実施に当たっての倫理的配慮	小林、齋藤
	第15回	倫理審査申請準備4 研究実施計画、研究計画発表	小林、齋藤
科目の目的	地域及び在宅看護に関する研究の動向を理解し、自己の研究課題を探求する。具体的には、関心のある課題に関連した先行研究を検索し、批評的考察を通して研究課題を明確にする。さらに、研究課題の研究方法に関して最新の研究成果の精読から適切な研究デザインを選択し、研究計画を立案する。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】		
到達目標	1. 地域及び在宅看護に関する研究の動向について説明できる。 2. 先行研究の批判的考察から研究課題を明確することができる。 3. 最新の研究成果の精読から適切な研究デザインを選択することができる。 4. 研究デザインに基づき研究計画書を作成することができる。		
成績評価方法・基準	ディスカッション (40%)、研究計画書 (60%)		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業準備のため、3時間程度の学修が必要である。		
教科書	使用しない。		
参考書	必要に応じて授業において紹介する。		
オフィス・アワー	小林 亜由美 (研究室326) 授業の前後又はメール (a-kobayashi@paz.ac.jp) 齋藤 基 (研究室322) 授業の前後又はメール (m-saito@paz.ac.jp)		
履修条件・履修上の注意	特になし		
ナンバリング	ZSN-509		



講義科目名称： 看護学特別研究

授業コード： M7024

英文科目名称： Nursing Thesis Guidance

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	10単位	選択
担当教員	担当者		
齋藤 基・小林 亜由美・中下 富子・中島 久美子	萩原 英子	堀越 政孝	

授業形態	演習		担当者
授業計画	<p>4月～7月 研究指導教員と研究計画書作成 ・設定したテーマについて研究計画書を作成する。</p> <p>6月～7月 大学研究倫理審査委員会審査の申請（7月通常審査） ・設定したテーマについて大学研究倫理審査委員会の承認を得る。</p> <p>7月～9月 研究活動の展開 ・研究計画に沿って、自主的に研究を遂行する。進捗状況を報告する。</p> <p>8月 研究中間発表会 ・中間発表会のプレゼンテーションを行い、意見交換を通して、研究結果のまとめ方や考え方を学ぶ。</p> <p>10月～11月 学位論文の作成 ・結果の図表の作成、論文の書き方を学び、関連文献の検索から考察のまとめを行う。</p> <p>12月～2月 学位論文、最終試験の可否審査、学位授与判定 ・論文審査申請書類の作成を行う。審査会での意見から論文とプレゼン資料を修正し、最終試験で合格する。</p>		齋藤、小林、中下、中島、萩原、堀越
科目の目的	<p>(齋藤基) 在宅看護技術、家族支援、在宅看護の評価・質の保証と管理、在宅療養者のケアマネジメント、在宅看護の教育に関する研究指導を行う。</p> <p>(小林亜由美) 地域の人々の健康課題やそれに関連する要因の探索、それらを解決・改善するための看護実践、必要とされる社会資源の開発、ならびに施策への提言に関わる研究指導を行う。</p> <p>(中下 富子) 疾病や障害を持つ子どもと家族、社会的に弱い立場にある子どもと家族の健康課題の改善・解決、学齢期・思春期にある子どもの健康支援等、子どもの健康および小児看護に関する研究指導を行う。</p> <p>(中島 久美子) 周産期のメンタルヘルス、妊娠期からの継続的な親意識の発達および夫婦の関係性への看護支援、ウイメンズヘルス・助産学教育に関する研究指導を行う。</p> <p>(萩原英子) がん患者の心理的適応、女性がん患者のサイバーシップ支援、成人看護学教育に関する研究を行う。</p> <p>(堀越政孝) がん患者のセルフケア支援、がん患者の退院調整・退院支援、地域包括ケア、成人看護学の教育に関する研究指導を行う。</p> <p>【研究能力】</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関連する文献検討を踏まえ、研究課題を設定できる。</li> <li>2. 研究課題の探求に適する研究方法を選択し、研究計画を立案できる。</li> <li>3. 科学的、論理的思考に基づいて研究データの収集、分析、考察を行い、研究論文を作成できる。</li> <li>4. 研究者としての倫理観や看護者としての倫理観に基づき研究を遂行できる。</li> <li>5. 研究計画や研究成果を中間発表会や審査会において簡潔で明快なプレゼンテーションができる。</li> </ol>		
成績評価方法・基準	<p>研究計画書作成（研究計画書を作成、倫理審査委員会での承認）30%</p> <p>研究実施状況（研究計画書に基づき、研究倫理を理解した研究遂行）20%</p> <p>学術論文作成（研究目的から結果・考察に至る過程で一貫性のある論文作成）30%</p> <p>研究成果発表（研究中間発表会や審査会での発表内容）20%</p>		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	研究計画書作成、研究遂行、修士論文作成、研究成果発表において進捗状況の報告と討論資料の作成のため、2～3時間の学修が必要である。		
教科書	使用しない。		

参考書	必要時に担当教員より紹介する。
オフィス・アワー	齋藤 基 (研究室322) 随時またはメール (m-saito@paz.ac.jp) 小林亜由美 (研究室326) 随時またはメール (a-kobayashi@paz.ac.jp) 中下富子 (研究室323) 随時またはメール (nakashita@paz.ac.jp) 中島久美子 (研究室318) 随時またはメール (nakajima@paz.ac.jp) 萩原英子 (研究室306) 随時またはメール (hagiwara@paz.ac.jp) 堀越政孝 (研究室324) 随時またはメール (horikoshi@paz.ac.jp)
履修条件・履修上の注意	特になし
ナンバリング	ZSN-510

講義科目名称： 看護マネジメント特論

授業コード： M7025

英文科目名称： Advanced Nursing Management

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
萩原 一美			

授業形態	講義：8回、演習：7回		担当者
授業計画	第1回	イントロダクション/看護管理学の概念と管理のプロセス(講義) 看護管理学の基本的な考え方とそのプロセスを学ぶ。	萩原 一美
	第2回	看護管理者の組織行動論(講義) 看護管理学の基本的な考え方に基づき、組織における看護管理者の行動を学ぶ。	萩原 一美
	第3回	看護管理者の組織行動論(演習) 看護管理学の基本的な考え方に基づき、組織における看護管理者の行動を探究する。	萩原 一美
	第4回	看護サービスの定義と質保証(講義) 看護サービスの定義と、サービスを維持・向上するための質保証の方法を学ぶ。	萩原 一美
	第5回	看護サービスと質管理(医療安全管理)Ⅰ(演習) 看護サービスの質管理の基本的考え方に基づき、質管理の評価に影響する医療安全の研究の動向と課題を探究する。	萩原 一美
	第6回	看護サービスと質管理(労務管理)Ⅱ(演習) 看護サービスの質管理の基本的考え方に基づき、質管理の評価に影響する労務管理の研究の動向と課題を探究する。	萩原 一美
	第7回	人材育成のシステムとキャリアアップ(講義) 優れた人材育成の方法と活用という観点から、これからの看護職の労働のあり方や、多様なキャリア発達・開発の考え方を学ぶ。	萩原 一美
	第8回	人材管理論(講義) 個人のキャリア形成・開発と組織のキャリア支援という双方の立場から、人材育成の考え方を学ぶ。	萩原 一美
	第9回	人材管理論(演習) 優れた人材育成の方法と人材を活用という観点から、これからの看護職の多様なキャリア発達・開発の動向と課題を探究する。	萩原 一美
	第10回	組織管理論(講義) 経営学の諸理論やツールを用い、また法律の解釈等に通じ、多面的な視点から所属する組織を分析し、発展的な看護組織に必要な要素を学ぶ。	萩原 一美
	第11回	組織管理論(演習) 組織内における看護部門の存在意義を考え、時間と空間をつなぐ看護管理者の役割を探究する。	萩原 一美
	第12回	経営資源管理論(講義) 医療・福祉における人・モノ・金・情報という経営資源の動きを追求し、効果的・効率的なケアを保障する経営管理方法を学ぶ。	萩原 一美
	第13回	経営資源管理論(演習) 医療・福祉における人・モノ・金・情報という経営資源の動きを追求し、効果的・効率的なケアを保障する経営管理方法の研究の動向と課題を探究する。	萩原 一美
	第14回	看護制度と政策(講義) 看護職の仕事に大きく規定する制度の中に看護実践を位置づけ、政策決定過程や政策に影響を与える諸団体の活動を学ぶ。	萩原 一美
	第15回	看護制度と政策(演習) 看護職の仕事に大きく規定する制度の中に看護実践を位置づけ、政策決定過程や政策の研究の動向と課題を探究する。	萩原 一美
科目の目的	保健医療福祉サービス提供システムの中で、質の高い看護実践を効果的・効率的に展開するための組織の経営と看護を関連付けて学修する。また、組織管理能力に必要なマネジメント能力、リーダーシップ能力、意思決定能力という各能力を、自己教育できる基礎を養う。 【実践能力】		
到達目標	1. 所属する施設や部門を組織という観点から分析できる。 2. 経営と看護管理の関連性を述べられる。 3. マネジメント、リーダーシップ、意思決定という組織管理における自身の能力を分析し、向上するための課題をプレ		

	<p>ゼンテーションできる。</p> <p>4. 組織における自身の立ち位置や組織に貢献可能な事柄を考えられる。</p>
成績評価方法・基準	授業内で実施するプレゼンテーション(25%) ディスカッション (25%)最終レポート (50%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	演習での準備 (文献検索、研究論文の購読、発表資料作成) として1コマ4時間程度の学習を要する。
教科書	なし
参考書	第1回のイントロダクションで紹介する。
オフィス・アワー	萩原一美(研究室316) : 講義の前後。またはE-mail (k-hagiwara@paz.ac.jp)で対応する。
履修条件・履修上の注意	演習は能動的学習なので、準備学習を行い臨むことを期待します。
ナンバリング	ZSN-511

講義科目名称： 精神看護学特論

授業コード： M7026

英文科目名称： Advanced Mental Health Nursing

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
西川 薫			

授業形態	講義7回・演習8回		担当者
授業計画	第1回	精神医療・看護の歴史および法制度の変遷（講義） 精神医療・看護の歴史および法制度の変遷について学ぶ。	西川 薫
	第2回	こころを病むという経験と意味（演習） 精神障がい者にとって、こころを病む経験と意味について検討する。	西川 薫
	第3回	精神科看護師の役割（講義） 精神科看護師（精神科専門看護師、精神科認定看護師含む）の役割について学ぶ。	西川 薫
	第4回	精神障がい者のリカバリーの概念（講義） 精神障がい者のリカバリーの概念について学ぶ。	西川 薫
	第5回	精神障がい者のリカバリーの課題（演習） 精神障がい者のリカバリーを実現する際の課題について検討する。	西川 薫
	第6回	精神障がい者のリカバリーを支える基礎的な理論Ⅰ（講義） ストレングスモデル、エンパワーメントモデルの特徴について学ぶ。	西川 薫
	第7回	精神障がい者のリカバリーを支える基礎的な理論Ⅱ（講義） 共同意思決定の概念と課題について学ぶ。	西川 薫
	第8回	精神障がい者のリカバリーを支える基礎的な理論Ⅲ（講義） コプロダクション（共同創造）の概念と課題について学ぶ。	西川 薫
	第9回	精神医療福祉職の専門性と多職種連携（講義） 精神医療福祉職の専門性と連携について、リエゾン精神看護を中心に学ぶ。	西川 薫
	第10回	精神障がい者と家族のサポートシステム（演習） 精神障がい者と家族のサポートシステムの特徴と支援の実際について検討する。	西川 薫
	第11回	精神障がい者を対象とした地域包括支援（演習） 精神障がい者を対象とした地域包括支援の現状と課題について検討する。	西川 薫
	第12回	精神障がい者の就労支援（演習） 精神障がい者の就労支援の特徴と課題について検討する。	西川 薫
	第13回	精神障がい者のリカバリーに関する研究Ⅰ（演習） 国内外の精神障がい者のリカバリーの現状と課題を比較・検討する。	西川 薫
	第14回	精神障がい者のリカバリーに関する研究Ⅱ（演習） 国内外の精神障がい者のリカバリーの現状と課題を比較・検討する。	西川 薫
	第5回	精神障がい者のリカバリーに課題と展望（演習） 精神障がい者のリカバリー支援の展望について検討する。	西川 薫
科目の目的	精神障がい者のリカバリーを実現するための基礎的能力を養う。精神障がい者のリカバリー支援の理解を深め、ケアの在り方を追究する。精神保健の現状と課題を明らかにし、精神看護に必要な現任教育について理解する。【実践能力】		
到達目標	1. 精神障がい者のリカバリーを実現するための課題について説明できる。 2. 精神障がい者のリカバリーを実現するための看護援助について述べるができる。 3. 精神障がい者のリカバリーを支える共同意思決定やコプロダクション（共同創造）について説明できる。 4. 国内外の精神保健の問題と精神看護の現任教育の現状と課題について述べるができる。		
成績評価方法・基準	課題に関するプレゼンテーション（30%）、ディスカッションの内容（30%）、レポートの内容（40%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：学習内容を把握し、疑問点等を抽出する（1コマあたり2時間） 復習：学習した内容を再確認し、疑問点を解消する（1コマあたり2時間）		
教科書	教科書：使用しない		
参考書	必要時提示する		
オフィス・アワー	研究室309：各回授業の前後 e-mail：k-nishikawa@paz.ac.jp		
履修条件・履修上の注意	特になし		
ナンバリング	ZSN-512		

講義科目名称： リハビリテーション学研究方法論

授業コード： M7027

英文科目名称： Methodology in Rehabilitation Science

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
佐藤 満	村田 和香	石井 良和	高橋 正明

授業形態	講義8回（オムニバス形式）		担当者
授業計画	第1回	作業機能障害に関する研究手法1 作業機能障害に関連する領域の種々の研究事例を、議論を交えながら概観して理解を深める	村田 和香
	第2回	作業機能障害に関する研究手法2 作業機能障害の治療に影響する要因や、治療アウトカムの指標も含めた一連の研究プロセスについて理解を深める	村田 和香
	第3回	精神障害に関する研究手法1 精神障害に関連する領域の種々の研究事例を、議論を交えながら概観して理解を深める	石井 良和
	第4回	精神障害に関する研究手法2 精神障害の治療に影響する要因や、治療アウトカムの指標も含めた一連の研究プロセスについて理解を深める	石井 良和
	第5回	姿勢と動作に関する研究手法1 姿勢・動作とその障害に関連する領域の種々の研究事例を、議論を交えながら概観して理解を深める	高橋 正明
	第6回	姿勢と動作に関する研究手法2 姿勢・動作障害への治療に影響する要因や、治療アウトカムの指標も含めた一連の研究プロセスについて理解を深める	高橋 正明
	第7回	リハビリテーション効果判定に関する研究手法1 リハビリテーション介入とその効果について、予防を含めた種々の領域の研究事例を、議論を交えながら概観して理解を深める	佐藤 満
	第8回	リハビリテーション効果判定に関する研究手法2 リハビリテーション介入とその効果に影響する要因を踏まえて、介入アウトカム測定の研究プロセスについて理解を深める	佐藤 満
科目の目的	リハビリテーション学領域の研究を行うにあたって、対象者、デザイン、アウトカム、解析手法等の基本的事項を修得することを目的とする。さらに、研究的な仮説を立案するにあたっての文献検索方法、仮説を証明するためのデータ収集作業と統計的解析方法及び質的研究の方法論の修得も目的とする。【研究能力】		
到達目標	1. 高齢期障害等に代表される作業機能障害に関する研究手法の特徴と概要を説明できる 2. 精神障害に関連する研究手法の概要と特徴を説明できる 3. ヒトの姿勢調節と運動機能に関連する研究手法の概要と特徴を説明できる 4. リハビリテーションに関連する領域（教育含む）の効果判定に関する研究手法の特徴と概要を説明できる		
成績評価方法・基準	講義内容の修得度合いを確認するレポート課題で評価する（100％）。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義内容について事前学習として積極的に情報収集を行うとともに、講義後は講義内容のレビューを行い疑問点を解消して自分の言葉で平易に正しく説明できるようにすること。必要な学習時間の目安は概ね予習120分、復習120分である。		
教科書	特に定めない		
参考書	特に定めない		
オフィス・アワー	全教員とも講義終了後30分間に直接的な質問を受け付ける。そのほか電子メールでの質問は随時対応する。 murata@paz.ac.jp（村田）、y-ishii@paz.ac.jp（石井）、pttaka8@gmail.com（高橋）、mit-sato@paz.ac.jp（佐藤）		
履修条件・履修上の注意	特になし		
ナンバリング	ZSP-501		

講義科目名称： 総合理学療法学特論

授業コード： M7028

英文科目名称： Advanced Physiotherapy

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
佐藤 満	高橋 正明	富田 浩	岡崎 大資
	加茂 智彦	佐藤 満	

授業形態	講義15回（オムニバス形式：討論含む）		担当者
授業計画	第1回	応用運動学関連の研究課題 1 応用運動学に関する研究課題を概観し、当該研究のトピックスについての対話を行う	高橋 正明
	第2回	応用運動学関連の研究課題 2 応用運動学の視点から総合的理学療法を進めるために必要な臨床動作能力評価法から見た理学療法のエビデンスを学ぶ	高橋 正明
	第3回	応用運動学関連の研究課題 3 応用運動学の視点から総合的理学療法を進めるために必要な臨床動作能力の治療から見た理学療法のエビデンスを学ぶ	高橋 正明
	第4回	神経筋促通法関連のエビデンス 神経筋促通法に関する理学療法評価と治療のエビデンストピックスについて概観し、討議を行う	富田 浩
	第5回	電気生理学関連のエビデンス 電気生理学に関する理学療法評価と治療のエビデンストピックスについて概観し、討議を行う	富田 浩
	第6回	小児運動発達関連のエビデンス 小児運動発達に関する理学療法評価と治療のエビデンストピックスについて概観し、討議を行う	富田 浩
	第7回	地域理学療法に関連したエビデンス 1 行動科学に基づく理学療法のエビデンスを概観して、実践的の視点から討議を行う	岡崎 大資
	第8回	地域理学療法に関連したエビデンス 2 地域在住高齢者の健康リスクに対する理学療法のエビデンスを概観して、実践的の視点から討議を行う	岡崎 大資
	第9回	地域理学療法に関連したエビデンス 3 地域在住高齢者への理学療法エビデンスを概観して、実践的の視点から討議を行う	岡崎 大資
	第10回	神経系機能障害への理学療法エビデンス 1 神経系機能の障害に関連した最新の理学療法エビデンスを概観して、実践的の視点から討議を行う	加茂 智彦
	第11回	神経系機能障害への理学療法エビデンス 2 神経系障害に関わる研究課題から治療的エビデンス情報を抽出して実践的の視点で討議を行う	加茂 智彦
	第12回	神経系機能障害への理学療法エビデンス 3 前庭機能障害に関連した最新の理学療法エビデンスを概観して、実践的の視点から討議を行う	加茂 智彦
	第13回	工学的手法を用いた理学療法のエビデンス 1 ロボットリハビリテーションに関わる最新の理学療法エビデンスを概観して、実践的の視点から討議を行う	佐藤 満
	第14回	工学的手法を用いた理学療法のエビデンス 2 人工知能のリハビリテーション応用に関するエビデンスを概観して、実践的の視点から討議を行う	佐藤 満
	第15回	工学的手法を用いた理学療法のエビデンス 3 人工知能のリハビリテーション応用の概観から、将来的に期待される実践エビデンスを討議する	佐藤 満
科目の目的	理学療法の実践におけるエビデンスの利活用を科学的に発展させるための研究を読み解く能力を滋養する。理学療法を構成する応用運動学及び身体活動計測、運動器系・神経系・内部障害系機能障害に対する総合的理学療法の開発を進めるために必要な、病態理解、臨床動作能力評価に基づく科学的指導法の開発、理学療法機器の効果検証、行動科学及び生態学的環境制御による身体能力の変化に基づく健康リスク等を抑える知識を学ぶ。 本科目は【実践能力】 【指導能力及び調整能力】 【教育能力】 【研究能力】 のディプロマポリシーに対応する。		

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法実践関連研究の概観から研究遂行に有益な情報を取捨選択できる</li> <li>2. 理学療法関連研究から理学療法実践のエビデンスに関わる知識を特定できる</li> <li>3. 姿勢や動作に関連した理学療法研究の動向を論述できる</li> <li>4. 神経筋促通法、電気生理学、小児運動発達に関連した理学療法研究の動向を論述できる</li> <li>5. 行動科学に基づく地域高齢者の健康リスクに関連した理学療法研究の動向を論述できる</li> <li>6. 神経系機能障害に関連した理学療法研究の動向を論述できる</li> <li>7. 工学的技術を応用した理学療法研究の動向を論述できる</li> </ol>
成績評価方法・基準	講義の成果を確認するレポート課題（70%）と講義中の討論内容（30%）により評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は各回の項目について配布資料・その他各種メディアを通じて自分なりの問題意識を抱き、復習は講義内容のレビューを行い疑問点を解消して自分の言葉で平易に正しく説明できるようにすること。必要な学習時間の目安は概ね予習120分、復習120分である。
教科書	特に定めない。
参考書	特に定めないが、必要に応じて講義中に紹介することがある。
オフィス・アワー	全教員とも講義終了後の30分間で対面質問を受け付ける。毎週月曜は電子メールでの質問を受け付ける。 pttaka8@gmail.com（高橋）、h-tomita@paz.ac.jp（富田）、okazaki@paz.ac.jp（岡崎）、kamo@paz.ac.jp（加茂）、sato@paz.ac.jp（佐藤）
履修条件・履修上の注意	特になし。
ナンバリング	ZSP-502



講義科目名称： 総合理学療法学演習

授業コード： M7029

英文科目名称： Practice in Physiotherapy

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
佐藤 満	高橋 正明	富田 浩	岡崎 大資
	加茂 智彦	佐藤 満	

授業形態	講義15回（オムニバス形式：討論含む）		担当者
授業計画	第1回	姿勢と動作に関連した研究課題 1 姿勢に関する研究課題を概観し、当該研究のトピックスについての対話を行う	高橋 正明
	第2回	姿勢と動作に関連した研究課題 2 動作に関する研究課題を概観し、当該研究のトピックスについての対話を行う	高橋 正明
	第3回	姿勢と動作に関連した研究課題 3 姿勢と動作に関連した研究課題についての討論から、自らの研究計画を立案する	高橋 正明
	第4回	神経筋促通法関連研究の検討 神経筋促通法に関する研究課題に即したトピックスについて理学療法実践の視点から討議を行う	富田 浩
	第5回	電気生理学関連研究の検討 電気生理学に関する研究課題に即したトピックスについて理学療法実践の視点から討議を行う	富田 浩
	第6回	小児運動発達関連研究の検討 小児運動発達に関する研究課題に即したトピックスについて理学療法実践の視点から討議を行う	富田 浩
	第7回	地域理学療法に関連した研究課題 1 行動科学に基づく地域高齢者に対する理学療法研究の動向を概観して、理学療法実践の視点から討議を行う	岡崎 大資
	第8回	地域理学療法に関連した研究課題 2 地域在住高齢者の健康リスクに関する理学療法研究の動向を概観して、理学療法実践の視点から討議を行う	岡崎 大資
	第9回	地域理学療法に関連した研究課題 3 地域在住高齢者に対する理学療法の実践的研究の概観から、自らの地域理学療法関連研究の計画立案を試みる	岡崎 大資
	第10回	神経系機能障害に関連した研究課題 1 神経系機能の障害に関連した最新の研究動向を概観して、理学療法実践の視点から討議を行う	加茂 智彦
	第11回	神経系機能障害に関連した研究課題 2 神経系障害に関わる研究課題から、エビデンスに基づく理学療法実践の視点で討議を行う	加茂 智彦
	第12回	神経系機能障害に関連した研究課題 3 前庭機能障害に関連した最新の研究動向を概観して、理学療法実践の視点から研究計画の立案を試みる	加茂 智彦
	第13回	工学的手法を用いた理学療法関連研究 1 ロボットリハビリテーションに関わる研究課題の動向を概観して、理学療法実践の視点から討議を行う	佐藤 満
	第14回	工学的手法を用いた理学療法関連研究 2 人工知能をリハビリテーションに応用する研究課題の動向を概観して、理学療法実践の視点から討議を行う	佐藤 満
	第15回	工学的手法を用いた理学療法関連研究 3 人工知能をリハビリテーションに応用する研究課題に関する討議から、将来的な人工知能応用研究計画の立案を試みる	佐藤 満
科目の目的	本講義では、理学療法実践関連研究の概観から有用な情報を取捨選択し、自らの研究計画として再構築する能力を滋養する。さらに理学療法実践に必要な理学療法のエビデンスの構築の基礎的知識および情報機器の実践的応用能力を身に付け、自ら研究計画案を立案し、遂行する一連の過程を通して、リハビリテーションを必要とする対象者や集団、あるいは地域の理学療法と関連する健康リスク等を指標とした研究課題を明らかにして研究計画の立案能力を養う。【実践能力】 【指導能力及び調整能力】 【教育能力】 【研究能力】		
到達目標	1. 理学療法実践関連研究の概観から研究遂行のために有益な情報を取捨選択できる 2. 理学療法関連研究から理学療法実践に必要なエビデンスに関わる知識を特定できる		

	<p>3. 姿勢や動作に関連した理学療法研究の動向を論述した上で、研究計画概要の立案ができる</p> <p>4. 神経筋促通法、電気生理学、小児運動発達に関連した理学療法研究の動向を論述した上で、研究計画概要の立案ができる</p> <p>5. 行動科学に基づく地域高齢者の健康リスクに関連した理学療法研究の動向を論述した上で、研究計画概要の立案ができる</p> <p>6. 神経系機能障害に関連した理学療法研究の動向を論述した上で、研究計画概要の立案ができる</p> <p>7. 光学的技術を応用した理学療法研究の動向を論述した上で、研究計画概要の立案ができる</p> <p>本科目は【高度な研究能力】【的確な判断能力】【実践能力】のディプロマポリシーに対応する。</p>
成績評価方法・基準	講義の成果を確認するレポート課題（70%）と講義中の討論内容（30%）により評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は各回の項目について配布資料・その他各種メディアを通じて自分なりの問題意識を抱き、復習は講義内容のレビューを行い疑問点を解消して自分の言葉で平易に正しく説明できるようにすること。必要な学習時間の目安は概ね予習120分、復習120分である。
教科書	特に定めない。
参考書	特に定めないが、必要に応じて講義中に紹介することがある。
オフィス・アワー	全教員とも講義終了後の30分間で対面質問を受け付ける。毎週月曜は電子メールでの質問を受け付ける。 sato@paz.ac.jp（佐藤）、pttaka8@gmail.com（高橋）、h-tomita@paz.ac.jp（富田）、okazaki@paz.ac.jp（岡崎）、kamo@paz.ac.jp（加茂）
履修条件・履修上の注意	特になし。
ナンバリング	ZSP-503

講義科目名称： 総合作業療法学特論

授業コード： M7030

英文科目名称： Advanced Occupational Therapy

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
石井 良和	村田 和香	竹原 敦	南 征吾

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 人間作業モデルとシステム論	石井良和
	第2回 精神領域における作業療法史と作業機能障害	石井良和
	第3回 精神領域における作業機能障害と人間作業モデル	石井良和
	第4回 高齢期における作業機能障害のとりえ方	村田和香
	第5回 高齢期作業作業法のリーズニング	村田和香
	第6回 最新のエビデンスから医療または地域社会における作業療法介入の可能性を考える	村田和香
	第7回 高齢者の健康に対する作業療法の実践と理論	竹原敦
	第8回 認知症の人と家族に対する作業療法の実践と理論	竹原敦
	第9回 生涯発達の視点から高齢者をとらえる	竹原敦
	第10回 在宅支援の実践技術開発（理論）	南征吾
	第11回 在宅支援の実践技術開発（実践）	南征吾
	第12回 eスポーツと作業療法	南征吾
	第13回 eスポーツと地域作業療法	南征吾
	第14回 意図的關係モデル（IRM）から人間作業モデル	石井良和
	第15回 接面パラダイムによる人間理解	石井良和
科目の目的	作業機能障害という概念を理解し、複雑な要因の関連が各領域におけるクライアントの作業機能障害をどのように引き起こし、また、治療的变化にもなりうる可能性を考えることによって、先進・高度化する各専門分野の基本的技術を提供する実践能力を涵養する。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】	
到達目標	1. 作業機能障害をもたらす個人的要因および環境的要因をシステム論として理解できるようになる。 2. 高齢障害、身体障害、精神障害等の各領域における作業機能障害を説明できる。	
成績評価方法・基準	レポート100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	180分程度の準備（予習）・復習により講義内容を整理しその展開および可能性を考える	
教科書	特に指定しない	
参考書	授業で紹介する	
オフィス・アワー	各担当教員の講義後の時間帯で対応します。それ以外では各研究室にて対応しますので次のアドレスにて約束してください。村田和香murata@paz.ac.jp, 石井 良和 y-ishii@paz.ac.jp, 竹原敦takehara@paz.ac.jp, 南 征吾minami@paz.ac.jp	
履修条件・履修上の注意		
ナンバリング	ZSP-504	

講義科目名称： 総合作業療法学演習

授業コード： M7031

英文科目名称： Practice in Occupational Therapy

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
石井 良和	村田 和香	竹原 敦	南 征吾

授業形態	講義・演習	担当者
授業計画	第1回 人間作業モデルに関連する文献レビュー	石井良和
	第2回 人間作業モデルに関連する量的研究の吟味	石井良和
	第3回 人間作業モデルに関連する質的研究の吟味	石井良和
	第4回 高齢期障害における文献レビュー	村田和香
	第5回 高齢期障害におけるアウトカム指標	村田和香
	第6回 医療または地域社会における作業療法介入の可能性をアウトカム指標を吟味することを通して考える	村田和香
	第7回 認知症の人と家族に関する文献レビュー	竹原敦
	第8回 高齢者の社会学的視点に関する文献レビュー	竹原敦
	第9回 高齢者及び認知症の人と家族に対する実践課題と解決策の批判的吟味	竹原敦
	第10回 総合的作業療法の実践技術に関する文献プレビュー	南征吾
	第11回 在宅支援の実践と質的研究	南征吾
	第12回 ゲームプログラミンとリハビリテーション技術の統合	南征吾
	第13回 プログラミングしたデバイス機器を作業療法へ活用	南征吾
	第14回 ソフトシステム方法論としての作業療法過程を知る	石井良和
	第15回 人間作業モデルと現象学	石井良和
科目の目的	国内外の作業療法文献レビューをもとに具体的な研究計画を立案できる見通しを立てることで、問題の探求・解決を図る高度な研究能力を身につける。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】	
到達目標	1. 量的研究と質的研究の特徴を説明できる。 2. 作業療法の各領域（高齢期障害、身体障害、精神障害等）で使われるアウトカム指標を吟味し、一連の研究プロセスの説明が出来る。 3. 自身の研究計画立案に関して具体的に疑問や解説ができる。	
成績評価方法・基準	レポート100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	180分程度の準備（予習）・復習により講義内容を整理しその展開および可能性を考える	
教科書	特に指定しない	
参考書	必要な文献はその都度提示します。	
オフィス・アワー	各担当教員の授業後の時間帯で対応します。それ以外では各研究室にて対応しますので、次のアドレスにて約束してください。村田和香murata@paz.ac.jp, 石井 良和 y-ishii@paz.ac.jp, 竹原敦takehara@paz.ac.jp, 南 征吾minami@paz.ac.jp	
履修条件・履修上の注意		
ナンバリング	ZSP-505	

講義科目名称： リハビリテーション学特別研究

授業コード： M7032

英文科目名称： Rehabilitation Science Thesis Guidance

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	10単位	選択
担当教員	担当者		
村田・佐藤満・高橋正・石井・竹原・南・加茂	村田・佐藤満 加茂	高橋正・石井	竹原・南

授業形態	演習		担当者
授業計画	4～6月	研究課題の決定、研究計画書の作成 研究指導教員と討議の上で作成を行う	研究指導教員
	6～7月	研究倫理審査申請書の作成 研究倫理審査委員会への審査申請は研究指導教員が行う	研究指導教員
	8月	大学院研究中間発表会 学内で研究計画とその進捗について口述発表し、意見交換を行う	研究指導教員
	8～10月	研究計画書に沿った研究活動の実施 随時研究指導教員と実施状況を共有した上で研究を進める	研究指導教員
	10～11月	学位論文作成 これまでの研究成果を研究指導教員の指導のもと論文化する	研究指導教員
	12～1月	学位審査（予備審査・最終審査）準備と各審査への対応、最終論文の完成 学位審査の申請手続きを行う。対象論文の審査会への準備を行う。審査会での指摘をもとに論文を修正し最終提出論文を完成させる	研究指導教員、学位審査員
科目の目的	<p>(村田 和香) 作業行動及び関連する諸理論から自分らしさを表現する大切な「作業」に焦点をあてることの重要性とその効果を明らかにする研究指導を行う。</p> <p>(石井 良和) 当事者及び家族介護者に対する人間作業モデル的観点からのアプローチ、人間作業モデルの評価尺度の開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(竹原 敦) 高齢者と認知症の人と家族の健康維持及び回復過程に影響を及ぼす要因としての役割に関連する研究指導を行う。</p> <p>(南 征吾) 訪問作業療法の技術開発、家族介護者の生活行為の支援、電気刺激装置の開発及びプログラム開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(高橋 正明) 人の立位姿勢や基本動作とそれらを可能にする身体構造の特異性に関する研究指導を行う。</p> <p>(佐藤 満) 主に工学的手法に基づいた理学療法における検査測定技術の開発及び応用のリハビリテーション評価・治療に関する研究指導を行う。</p> <p>(加茂 智彦) 主に生物統計学的データ解析手法を活用した前庭機能障害やサルコペニアの評価と治療に対する課題に関する研究指導を行う。</p> <p>本科目は【研究能力】のディプロマポリシーに対応する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実施を予定している研究テーマについて、その研究の意義と目的を説明できる。</li> <li>2. 実施を予定している研究テーマに関連する先行研究の報告内容や動向について包括的に説明できる。</li> <li>3. 実施する研究の計画書を研究指導教員と共同して作成できる。</li> <li>4. 研究倫理審査の申請書を研究指導教員と共同して作成できる。</li> <li>5. 研究者としての倫理的配慮を踏まえた上で研究計画に沿った研究遂行ができる。</li> <li>6. 研究成果をを研究指導教員と共同して論文化できる。</li> <li>7. 中間発表会や論文審査の場で研究の内容を適切にプレゼンテーションできる。</li> <li>8. 論文審査で受けた指摘や指導を適切に反映させた最終提出論文を作成することができる。</li> </ol>		
成績評価方法・基準	先行研究動向調査の成果（20%）、研究計画書本体・研究倫理審査申請書原案の作成（20%）、研究計画に沿った研究遂行（20%）、学位審査対象論文作成（20%）、論文審査での指摘を反映させた最終提出論文の作成（20%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	研究計画立案の過程では、十分な事前情報収集を行った上で指導に臨むこと。研究実施過程では実施状況を適切に報告・共有するための準備を行った上で指導に臨むこと。論文作成の過程では、十分な案文検討を行った上で指導に臨むこと。いずれも毎回90分以上の時間を準備に費やすこと（時間の上限は定めない）。		
教科書	なし		
参考書	なし		
オフィス・アワー	研究指導教員が随時対応するため、科目自体がオフィスアワーと同質である。随時メールも対応する。 murata@paz.ac.jp（村田）、mit-sato@paz.ac.jp（佐藤）、pttaka8@gmail.com（高橋）、y- ishii@paz.ac.jp（石井）、takehara@paz.ac.jp（竹原）、minami@paz.ac.jp（南）、 kamo@paz.ac.jp（加茂）		
履修条件・履修上の注意	なし		
ナンバリング	ZSP-506		

講義科目名称： リハビリテーション教育学特論

授業コード： M7033

英文科目名称： Advanced Rehabilitation Education

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
石井 良和	村田 和香	佐藤 満	神山 政恵

授業形態	講義15回（オムニバス形式）		担当者
授業計画	第1回	作業療法士教育の歴史 OT・PT養成施設指定規則の概要、臨床実習教育方法論を含めたOT・PT教育の歴史を解説する	石井 良和
	第2回	作業療法士教育の現状 1 作業療法士教育の現状について概観し、その特徴について言及する	石井 良和
	第3回	作業療法士教育の現状 2 作業療法士教育の現状を今後予想される動向との関連で言及する	石井 良和
	第4回	作業療法士教育の課題 1 作業療法士教育が現状で抱える課題について概観し、基本的な対応指針について言及する	石井 良和
	第5回	作業療法士教育の課題 2 作業療法士教育の課題について今後予想される動向とその対応について、基本的な指針を交えて言及する	石井 良和
	第6回	リハビリテーション専門職の教育目標 リハビリテーション専門職の教育目標について各養成課程の特徴と卒前・卒後教育の視点を交えて解説する	村田 和香
	第7回	リハビリテーション専門職教育の成果測定 リハビリテーション専門職教育の成果測定について各養成課程の特徴と卒前・卒後教育の視点を交えて解説する	村田 和香
	第8回	リハビリテーション専門職教育の評価 リハビリテーション専門職の教育評価について各養成課程の特徴と卒前・卒後教育の視点を交えて解説する	村田 和香
	第9回	リハビリテーション専門職教育でのシラバス作成 リハビリテーション専門職教育のシラバス作成について各養成課程の特徴と卒前・卒後教育の視点を交えて解説する	村田 和香
	第10回	言語聴覚士教育の歴史 言語聴覚士を養成する教育の歴史について、我が国と海外の状況に分けてその背景要因も含めて解説する。	神山 政恵
	第11回	言語聴覚士教育の現状と課題 言語聴覚士教育の現状、課題について解説する。今後予想される動向についても、その指針を交えて言及する。	神山 政恵
	第12回	理学療法士教育の歴史 我が国と海外での理学療法士養成教育の歴史について、その源流となる治療法に関する話題を含めて解説する。	佐藤 満
	第13回	理学療法士教育の現状と課題 1 理学療法に関する知識教育と実技演習に関する教育の現状と課題を話題を解説する。	佐藤 満
	第14回	理学療法士教育の現状と課題 2 臨床実習に関する教育の現状と課題を診療参加型実習や客観的臨床能力試験に関する話題を含めて解説する。	佐藤 満
	第15回	理学療法士教育の将来展望 理学療法教育に関する将来展望を卒前・卒後教育に分けて解説する。また関連分野との融合についても解説する。	佐藤 満
科目の目的	本科目では、我が国のリハビリテーション医療従事者教育に関する知識、および臨床実習、専門実技研修等での教育方法と教育成果評価を含む実践的方法論を修得する。さらに、リハビリテーション専門職毎の教育の歴史と現状、課題についても言及する。 本科目は【実践能力】のディプロマポリシーに対応する。		
到達目標	1. 作業療法士の教育の歴史、現状、課題について論述できる 2. リハビリテーション医療従事者教育の教育目標、成果測定、評価、シラバス作成について論述		

	<p>できる</p> <p>3. 言語聴覚士教育の歴史、現状、課題について論述できる</p> <p>4. 理学療法士の教育の歴史、現状、課題について論述できる</p>
成績評価方法・基準	講義内容の修得を確認するレポート課題4種類（各25%）で評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は各回の項目について配布資料・その他各種メディアを通じて自分なりの問題意識を抱き、復習は講義内容のレビューを行い疑問点を解消して自分の言葉で平易に正しく説明できるようにすること。必要な学習時間の目安は概ね予習120分、復習120分である
教科書	特に定めない
参考書	特に定めないが、必要に応じて講義中に紹介することがある
オフィス・アワー	<p>全教員とも講義終了後30分間に対面での質問を受け付ける。そのほか電子メールでの質問は随時対応する。</p> <p>y-ishii@paz.ac.jp（石井）、murata@paz.ac.jp（村田）、m-kamiyama@paz.ac.jp（神山）、mitsato@paz.ac.jp（佐藤）</p>
履修条件・履修上の注意	特になし。
ナンバリング	ZSP-507

講義科目名称： コミュニケーション障害学特論

授業コード： M7034

英文科目名称： Advanced Communicative Disorder

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
白坂 康俊	神山 政恵		

授業形態	講義 (アクティブラーニングを含む)	担当者
授業計画	1回 ICFの意味 2回 医療モデルと社会モデル 3回 機能レベルの評価 4回 活動レベルの評価 5回 参加レベルの評価 6回 聴覚の機能評価と生活・参加上の課題 加齢性難聴と認知症を含む 7回 失語症のICF評価 機能評価 8回 失語症のICF評価 活動と参加 9回 認知症のICF評価 機能評価 10回 認知症のICF評価 活動と参加 11回 発声発語障がいのICF評価 機能評価 12回 発声発語障がいのICF評価 活動と参加 13回 摂食嚥下障がいのICF評価 機能評価 14回 摂食嚥下障がいのICF評価 活動と参加 15回 ICF評価から社会モデルにそった共生の街づくりへ	
科目の目的	コミュニケーションの障がいは、障がいを持つ方の機能制限だけから発生するものではなく、コミュニケーション相手との相互関係によって生じる。その相手は、家族や友人・知人などのほかに社会生活をするためには、不特定多数の人も含まれる。そのためには、コミュニケーション上の課題とは、障がい者個人の課題のみならず、社会の側の課題も含むものであり、そこまで評価するのがICFにそった評価であることを理解する。【実践能力】	
到達目標	ICFにそった的確な評価と、それに基づく個人的要因と環境的要因についての的確な支援プログラムを立案できる。同時に現状でのICFの課題についても理解できる。	
成績評価方法・基準	筆記試験 (60%) ならびに口頭試問 (40%) とする。60/100点以上で合格とする。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1時間の予習、小レポート提出による復習	
教科書	なし	
参考書	なし	
オフィス・アワー	授業後	
履修条件・履修上の注意		
ナンバリング	ZSP-508	



講義科目名称： 病因・病態検査学研究方法論

授業コード： M7035

英文科目名称： Methodology in Aetiological and Pathological Examination Research

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
松下 誠	亀子・林	高橋克・岡山	木村鮎・荒木
授業形態	講義 オムニバス形式		担当者
授業計画	第1回	イントロダクション、臨床化学分野の研究論文から学ぶ研究方法論 (1)	松下 誠
	第2回	臨床化学分野の研究論文から学ぶ研究方法論 (2)	松下 誠
	第3回	生体情報分野の研究論文から学ぶ研究方法論	亀子 光明
	第4回	血液学分野の研究論文から学ぶ研究方法論	林 由里子
	第5回	細胞・組織検査学分野の研究論文から学ぶ研究方法論	岡山 香里
	第6回	培養細胞を解析手法に用いた研究論文から学ぶ研究方法論	高橋 克典
	第7回	生殖医療分野の研究論文から学ぶ研究方法論	荒木 泰行
	第8回	生体分子・タンパク質解析分野の研究論文から学ぶ研究方法論	木村 鮎子
科目の目的	病因・病態検査学領域で研究を遂行するものに必要な知識、態度、技術、科学的根拠に基づく分析能力を獲得するために、各検査学分野における科学的研究の種類と特徴、問題解決のための研究方法を探求する。【研究能力】		
到達目標	各病因・病態検査学領域における研究方法の特徴および研究の進め方を理解し説明できる。		
成績評価方法・基準	講義・演習への取り組みと課題提出状況（50%）、レポート提出課題（50%）の総合点による評価		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について4時間を目安に予習・復習を行い理解しておくこと。		
教科書	必要に応じて資料を配布する。		
参考書	必要に応じて資料を配布する。		
オフィス・アワー	月曜日の5限 (matsushita@paz.ac.jp)		
履修条件・履修上の注意	修士課程1年生で、研究を開始する前に受講することが望ましい。		
ナンバリング	ZSB-501		

講義科目名称： 病態免疫化学検査学特論

授業コード： M7036

英文科目名称： Advanced Pathological Immunology

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
高橋 克典	亀子 光明		

授業形態	講義	担当者	
授業計画	第1回	イントロダクション, 生体内の蛋白異常 免疫系異常蛋白の種類	高橋 克典
	第2回	蛋白質電気泳動分析法 (1) Western blottingの基本原理	高橋 克典
	第3回	蛋白質電気泳動分析法 (2) 癌免疫分野におけるWestern blottingの活用	高橋 克典
	第4回	蛋白質電気泳動分析法 (3) Western blottingを利用した免疫細胞内シグナル解析法	高橋 克典
	第5回	サイトカイン蛋白解析法 (1) 主なサイトカイン蛋白の種類と解析法	高橋 克典
	第6回	サイトカイン蛋白解析法 (2) ELISA法、Real-timePCR法などによるサイトカインの定量	高橋 克典
	第7回	レポーター遺伝子アッセイによる核内蛋白質の解析法 リポフェクション法、ルシフェラーゼアッセイなど	高橋 克典
	第8回	蛋白質解析と創薬 サイトカインを指標とした創薬スクリーニングの実践例	高橋 克典
	第9回	臨床データに影響を及ぼす蛋白の解析 M蛋白が及ぼす異常値結果の解析	亀子 光明
	第10回	低分子蛋白解析法 (1) 微量蛋白 (Free L鎖) の解析法	亀子 光明
	第11回	低分子蛋白解析法 (2) 微量蛋白 (RBP) の解析法	亀子 光明
	第12回	低分子蛋白解析法 (3) 微量蛋白 (TTR) の解析法	亀子 光明
	第13回	低分子蛋白の代謝 RBPとTTRの代謝について	亀子 光明
	第14回	特異蛋白と疾患との関係 (1) RBPとⅡ型糖尿病	亀子 光明
	第15回	特異蛋白と疾患との関係 (2) TTRとFAPおよびアルツハイマー	亀子 光明
科目の目的	生体の病変は血清蛋白に反映され、また血清蛋白の量的、質的变化は生体に変調を来すことから、血清蛋白異常を見逃すことなくとらえ、適切に検索をすすめることは患者の病態を正しく把握する上できわめて重要である。本特論では、免疫化学的手法を用いた抗原・抗体分離精製法、異常蛋白の分子構造解析などの分析技術についての理論や血清蛋白異常症の検査法および解析手順について教授する。また、異常免疫グロブリンが体液性成分と結合、あるいは相互作用によって測定系に影響を及ぼす異常蛋白例について対処できる能力を育成する。さらに、蛋白電気泳動分析、質量分析により得られるデータから病態解析するための応用研究について教授する。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】		
到達目標	1. 各種分離・精製法および電気泳動分析法の知識と技術を理解し異常蛋白の解析ができる。 2. 異常蛋白の知識と解析法を習得し病態を反映しない異常値に対処できる。 3. 蛋白電気泳動分析、細胞質内・核内蛋白解析法の原理を理解し、得られた情報から病態解析できる		
成績評価方法・基準	レポート50%、討論内容50%により評価する。レポートは返却しない。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について4時間予習・復習を行い理解しておくこと。		
教科書	教科書：特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。 参考書：藤田清貴：臨床検査で遭遇する異常蛋白質—基礎から発見・解析法まで (医歯薬出版)		
参考書	Essential細胞生物学 (南江堂)		
オフィス・アワー	高橋：火曜日16時10分～18時 亀子：火曜日14時40分～16時10分		
履修条件・履修上の注意	講義中は携帯電話の電源を切ること		
ナンバリング	ZSB-502		

講義科目名称： 病態免疫化学検査学演習

授業コード： M7037

英文科目名称： Practice in Pathological Immunology

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
高橋 克典	亀子 光明		

授業形態	演習	担当者	
授業計画	第1回	イントロダクション, 関連研究論文の講読指導	高橋 克典
	第2回	関連研究論文の講読指導	高橋 克典
	第3回	関連研究論文の講読および発表討論会 (1)	高橋 克典
	第4回	関連研究論文の講読および発表討論会 (2)	高橋 克典
	第5回	関連研究論文の講読および発表討論会 (3)	高橋 克典
	第6回	関連研究論文の講読および発表討論会 (4)	高橋 克典
	第7回	関連研究論文の講読および発表討論会 (5)	高橋 克典
	第8回	関連研究論文の講読および発表討論会 (6)	高橋 克典
	第9回	関連研究論文の講読および発表討論会 (7)	亀子 光明
	第10回	関連研究論文の講読および発表討論会 (8)	亀子 光明
	第11回	関連研究論文の講読および発表討論会 (9)	亀子 光明
	第12回	関連研究論文の講読および発表討論会 (10)	亀子 光明
	第13回	関連研究論文の講読および発表討論会 (11)	亀子 光明
	第14回	関連研究論文の講読および発表討論会 (12)	亀子 光明
	第15回	関連研究論文の講読および発表討論会 (13)	亀子 光明
科目の目的	血清蛋白異常症に関する検査法の基礎的技術や質量分析などの新しい検査技術とその意義を教授し、病因・病態解析ができる応用能力を育成するとともに、臨床検査の実践の場で異常値や異常反応に対応できる基礎知識と応用技術を習得させる。また、研究内容に関連する文献講読と指導教員を交えた討論より研究を進めるための基礎的能力を養う。【実践能力】 【指導能力及び調整能力】 【教育能力】 【研究能力】		
到達目標	1. 異常蛋白血症の病態と検査値との関連性, および質量分析の技術・活用法を理解し病態解析ができる。 2. 関連研究論文を読み, 討論を通して実践的な研究を進めることができる。		
成績評価方法・基準	レポート50%、討論内容50%により評価する。レポートは100点を基準に採点后返却する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について4時間予習・復習を行い理解しておくこと。		
教科書	教科書：特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。 参考書：藤田清貴：臨床検査で遭遇する異常蛋白質—基礎から発見・解析法まで（医歯薬出版）		
参考書	Essential細胞生物学（南江堂）		
オフィス・アワー	高橋：水曜日17時50分～18時30分 亀子：火曜日17時50分～18時30分		
履修条件・履修上の注意	演習中は携帯電話の電源を切ること		
ナンバリング	ZSB-503		

講義科目名称： 遺伝子・血液情報検査学特論

授業コード： M7038

英文科目名称： Advanced Genom and Hematology Informatics

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
林 由里子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 貧血と血液疾患（1） 貧血総論、骨髄不全、骨髄浸潤による貧血 第2回 貧血と血液疾患（2） 鉄代謝（欠乏と過剰）、巨赤芽球性貧血、慢性疾患に伴う続発性貧血 第3回 貧血と血液疾患（3） サラセミア、鎌状赤血球症、赤血球膜または赤血球代謝異常による溶血性貧血 第4回 貧血と血液疾患（4） 後天性溶血性貧血、赤血球増加症 第5回 止血と血栓症（1） 止血総論、血小板異常症 第6回 止血と血栓症（2） 遺伝性凝固異常症 第7回 止血と血栓症（3） 後天性血液凝固異常症 第8回 止血と血栓症（4） 血栓性疾患 第9回 白血球系疾患（1） 白血球の機能と非腫瘍性白血球系疾患 第10回 白血球系疾患（2） 造血器腫瘍（序説） 第11回 白血球系疾患（3） 骨髄増殖性疾患、骨髄異形性症候群 第12回 白血球系疾患（4） 急性白血病 第13回 白血球系疾患（5） 非ホジキンリンパ腫および慢性リンパ性白血病 第14回 白血球系疾患（6） 多発性骨髄腫および類縁疾患 第15回 輸血医学 輸血と造血幹細胞移植について	林 由里子 林 由里子 林 由里子 林 由里子 林 由里子 林 由里子 林 由里子 林 由里子 林 由里子 林 由里子 林 由里子 林 由里子 林 由里子 林 由里子 林 由里子 林 由里子
科目の目的	血液には造血幹細胞より分化・成熟した赤血球、白血球、血小板の3系統の細胞が存在し、凝固・線溶因子及びその制御因子を含む血漿成分とともに流動性を保ちつつ全身を循環している。病態血液検査学特論では各種血液疾患の病態を理解し、検査データからの解析能力を向上させることを目的とする。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】	
到達目標	血液疾患の病態を理解し、付加価値をもった情報提供ができる。 病態血液検査学分野における最近の動向を理解する。	
成績評価方法・基準	レポート100点にて評価する。レポートは返却する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に配布する英文資料を和訳しておくこと。（4時間程度）	
教科書	教科書：特になし。血液疾患の病態生理に関する英文書籍「Pathophysiology of Blood Disorders」 H. Franklin Bunn & J C Aster著, McGraw Hill社刊の一部をプリントして配布する。 参考書：WHO分類改訂第4版による白血病・リンパ系腫瘍の病態学 木崎昌弘編著、中外医学社、2019	
参考書	教科書：特になし。	
オフィス・アワー	林：水曜日17:00～18:00 (hayashi@paz.ac.jp)	
履修条件・履修上の注意	特になし	
ナンバリング	ZSB-504	

講義科目名称： 遺伝子・血液情報検査学演習

授業コード： M7039

英文科目名称： Practice in Genom and Hematology Informatics

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
林 由里子			

授業形態	演習	担当者
授業計画	<p>第1回 形態学的分析法 オリエンテーションおよび末梢血液像・骨髄像の見方、考え方、レポートの書き方について説明する。</p> <p>第2回 形態学的分析法 骨髄像 (1) 症例1. 骨髄像判定</p> <p>第3回 形態学的分析法 骨髄像 (2) 症例2. 骨髄像判定</p> <p>第4回 形態学的分析法 骨髄像 (3) 症例3. 骨髄像判定</p> <p>第5回 形態学的分析法 骨髄像 (4) 症例4. 骨髄像判定</p> <p>第6回 形態学的分析法 骨髄像 (5) 症例5. 骨髄像判定</p> <p>第7回 形態学的分析法 骨髄像 (6) 判定した5症例の骨髄像について判定結果をとりまとめ、口頭で発表する。</p> <p>第8回 フローサイトメトリー法に関する演習 (1) フローサイトメトリーの原理およびリンパ球サブセット測定について</p> <p>第9回 フローサイトメトリー法に関する演習 (2) Th1/Th2比測定法について</p> <p>第10回 フローサイトメトリー法に関する演習 (3) 制御性T細胞測定法について</p> <p>第11回 フローサイトメトリー法に関する演習 (4) 末梢血幹細胞の同定について</p> <p>第12回 論文講読1 図書館にある英文雑誌Blood、他より研究に関連する原著論文を検索し、内容をまとめる。</p> <p>第13回 論文講読2 第12回でまとめた原著論文について発表・討論</p> <p>第14回 論文講読3 文献検索システムPubMedなどでさらに関連論文を検索し、内容をまとめる。</p> <p>第15回 論文講読4 第14回でまとめた原著論文について発表・討論</p>	<p>林 由里子</p> <p>林 由里子</p> <p>林 由里子</p> <p>林 由里子</p> <p>林 由里子</p> <p>林 由里子</p> <p>林 由里子</p> <p>林 由里子</p> <p>林 由里子</p> <p>林 由里子</p> <p>林 由里子</p> <p>林 由里子</p> <p>林 由里子</p> <p>林 由里子</p> <p>林 由里子</p> <p>林 由里子</p>
科目の目的	最新の血液検査学における分析技術、研究方法を学ぶ。また、血液像および骨髄像を読むことができ、CBCデータや各種検査結果も含めて、的確な情報を提供できる知識・技術を学ぶ。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】	
到達目標	1) 血液像・骨髄像の報告ができる。 2) フローサイトメトリー法による細胞解析技術を学ぶ。	
成績評価方法・基準	レポート50点および口頭発表内容50点で評価する。レポートは返却する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に内容を把握し、関連事項を調べておくことを勧める。4時間程度。	
教科書	教科書：指定せず。プリントを配布し、適宜紹介する。 参考書1：検査と技術増刊号「血液形態アトラス」検査と技術 vol.13, No.10, 2015 (医学書院) 参考書2：スタンダードフローサイトメトリー第2版 日本サイトメトリー技術者認定協議会編, 2017 (医歯薬出版)	
参考書	教科書：特になし。	
オフィス・アワー	林：水曜日17:00～18:00 (hayashi@paz.ac.jp)	
履修条件・履修上の注意	実験室では白衣および上履きを着用する。その他は特になし。	
ナンバリング	ZSB-505	

講義科目名称： 生体分子情報検査学特論

授業コード： M7040

英文科目名称： Advanced Biological Molecular Infomatics

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
松下 誠	木村 鮎子		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 血清総蛋白・アルブミンの解析1	松下
	第2回 血清総蛋白・アルブミンの解析2	松下
	第3回 血清リポ蛋白の解析	松下
	第4回 血清酵素の解析1	松下
	第5回 血清酵素の解析2	松下
	第6回 血清酵素の解析3	松下
	第7回 血清酵素の解析4	松下
	第8回 血清酵素の解析5	松下
	第9回 電気泳動を用いたタンパク質の解析1	木村
	第10回 電気泳動を用いたタンパク質の解析2	木村
	第11回 電気泳動を用いたタンパク質の解析3	木村
	第12回 質量分析を用いたタンパク質の解析1	木村
	第13回 質量分析を用いたタンパク質の解析2	木村
	第14回 質量分析を用いたタンパク質の解析3	木村
	第15回 質量分析を用いたタンパク質の解析4	木村
科目の目的	1. 生体成分に含まれる微量タンパク質，尿中低分子タンパク質の生理学的変動を解析し，健康状態からの逸脱が生じた時に，これらの成分がどのように変動するかを学ぶ。 2. 細胞内情報伝達機構，シグナル伝達におけるの異常と疾患との関係を学ぶ。 3. 様々な生体分子の変動により引き起こされる疾患について学ぶ。 【実践能力】 【指導能力及び調整能力】 【教育能力】 【研究能力】	
到達目標	1. 生体成分の生理学的変動（個体間・個体内変動）の解析ができる。 2. 細胞内情報伝達機構の異常と疾患との関連を説明できる。 3. 疾患に関連する有用な微量成分の解析と測定ができる。	
成績評価方法・基準	レポート（70%），課題テーマの作成（30%）から総合的に評価する。レポートは返却しない。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について4時間を目安に予習・復習を行い理解しておくこと。	
教科書	必要に応じて指定する。	
参考書	必要に応じて指定する。	
オフィス・アワー	松下：月曜日の5限に受ける。（matsushita@paz.ac.jp） 木村：月曜日の5限に受ける。（ay-kimura@paz.ac.jp）	
履修条件・履修上の注意	修士課程1年で，研究を開始する前に受講することが望ましい。	
ナンバリング	ZSB-506	

講義科目名称： 生体分子情報検査学演習

授業コード： M7041

英文科目名称： Practice in Biological Molecular Informatics

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
松下 誠	木村 鮎子		

授業形態	演習	担当者
授業計画	第1回 血清総蛋白・アルブミン測定技術 1	松下
	第2回 血清総蛋白・アルブミン測定技術2	松下
	第3回 血清リポ蛋白測定技術	松下
	第4回 酵素活性およびアイソザイム分析測定技術1	松下
	第5回 酵素活性およびアイソザイム分析測定技術2	松下
	第6回 酵素活性およびアイソザイム分析測定技術3	松下
	第7回 酵素活性およびアイソザイム分析測定技術4	松下
	第8回 酵素活性およびアイソザイム分析測定技術5	松下
	第9回 電気泳動技術1	木村
	第10回 電気泳動技術2	木村
	第11回 電気泳動技術3	木村
	第12回 質量分析技術1	木村
	第13回 質量分析技術2	木村
	第14回 質量分析技術3	木村
	第15回 質量分析技術4	木村
科目の目的	生体に影響を及ぼす様々な生体分子について、その生体分子の構造異常、シグナルの伝達方法、各種疾患により起こるその変動などを講義し、解析に必要な測定系の設計ができる能力や病態解析に有用となる生体分子の解析より臨床応用への対応ができる能力も習得させる。また、研究内容に関連する文献講読と指導教員との討論により研究の進め方の基礎的能力を養う。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】	
到達目標	1. 生体分子蛋白を分析、測定し、得られたデータを使って解析を行い、その結果から臨床応用への評価ができる。 2. 生体分子の構造異常、シグナルの伝達の異常により引き起こされる病態の解析が出来る。 3. 測定方法の技術を習得する。	
成績評価方法・基準	レポート（60%、）課題テーマ作成（40%）から総合的に評価する。レポートは返却しない。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について、4時間を目安に予習・復習を行い理解しておく。	
教科書	特に使用せず、適宜、資料を事前配布する。	
参考書	特に使用せず、適宜、資料を事前配布する。	
オフィス・アワー	松下：月曜日の5限に受ける。（matsushita@paz.ac.jp） 木村：月曜日の5限に受ける。（ay-kimura@paz.ac.jp）。	
履修条件・履修上の注意	実験に際しては、整理整頓に心がける。	
ナンバリング	ZSB-507	

講義科目名称： 組織細胞・生殖補助技術学特論

授業コード： M7042

英文科目名称： Advanced Pathology and Assisted Reproductive Technology

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
岡山 香里	荒木 泰行		
授業形態	講義		担当者
授業計画	第1回	女性生殖器疾患① 外陰、子宮膣部の病変における組織細胞学的特徴	岡山 香里
	第2回	女性生殖器疾患② 子宮頸部の非腫瘍性病変における組織細胞学的特徴	岡山 香里
	第3回	女性生殖器疾患③ 子宮頸部の腫瘍性病変における組織細胞学的特徴	岡山 香里
	第4回	女性生殖器疾患④ 子宮体部および卵巣の病変における組織細胞学的特徴	岡山 香里
	第5回	病理組織細胞検査学実践① 免疫組織化学染色法	岡山 香里
	第6回	病理組織細胞検査学実践② 核酸抽出法	岡山 香里
	第7回	病理組織細胞検査学実践③ in situ hybridization法	岡山 香里
	第8回	関連研究論文の講読 関連研究原著論文の講読	岡山 香里
	第9回	体外受精 体外受精の実際を学ぶ。	荒木 泰行
	第10回	配偶子の発生 原始生殖細胞から成熟配偶子完成までの発生・分化を学ぶ。	荒木 泰行
	第11回	胚発生 受精後の分割卵の発生について学ぶ。	荒木 泰行
	第12回	配偶子凍結技術 卵子や精子に関する凍結の理論と実際を学ぶ	荒木 泰行
	第13回	成熟培養技術 未成熟配偶子の培養に対する概論を学ぶ。	荒木 泰行
	第14回	染色体異常 染色体の構造、異常、分化過程の概念を学ぶ。	荒木 泰行
	第15回	総合討論 学んだ点を整理して生殖医療の問題点と将来を展望する。	荒木 泰行
科目の目的	本特論では、各臓器における疾患の特徴を追究し理解を深め、疾病の本態を考察する。また、論文を精読し、病理学および細胞診断学における研究デザインやデータ解析法を教授する。また、生殖医療に必要な基本的な知識に加えて実践に必要な知識の一部を習得することを目的とする。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】		
到達目標	病理細胞診に関連した研究手法を理解し、説明できる。 体外受精を中心とした生殖補助医療の広範囲の関連技術について説明できること。		
成績評価方法・基準	講義・演習への取り組みと課題提出状況（50%）、レポート提出課題（50%）の総合点による評価。レポートは返却する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について1～2時間予習・復習を行い理解しておくこと。		
教科書	特になし。 特になし。		
参考書	必要に応じて資料を配布する		
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。岡山：okayama@paz.ac.jp、荒木：y-araki@paz.ac.jp		
履修条件・履修上の注意			
ナンバリング	ZSB-508		



講義科目名称： 組織細胞・生殖補助技術学演習

授業コード： M7043

英文科目名称： Practice in Pathology and Assisted Reproductive Technology

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
岡山 香里	荒木 泰行		
授業形態	演習		担当者
授業計画	第1回	オリエンテーション	岡山 香里
	第2回	関連研究論文の講読および発表討論会1	岡山 香里
	第3回	関連研究論文の講読および発表討論会2	岡山 香里
	第4回	関連研究論文の講読および発表討論会3	岡山 香里
	第5回	関連研究論文の講読および発表討論会4	岡山 香里
	第6回	関連研究論文の講読および発表討論会5	岡山 香里
	第7回	関連研究論文の講読および発表討論会6	岡山 香里
	第8回	関連研究論文の講読および発表討論会7	岡山 香里
	第9回	関連研究論文の講読および発表討論会8	荒木 泰行
	第10回	関連研究論文の講読および発表討論会9	荒木 泰行
	第11回	関連研究論文の講読および発表討論会10	荒木 泰行
	第12回	関連研究論文の講読および発表討論会11	荒木 泰行
	第13回	関連研究論文の講読および発表討論会12	荒木 泰行
	第14回	関連研究論文の講読および発表討論会13	荒木 泰行
	第15回	関連研究論文の講読および発表討論会14	荒木 泰行
科目の目的	本演習では、免疫組織化学および分子物学的手法に基づいた解析から、形態学へフードバックさせる意義や技術を教授し、病態解析ができる応用能力を育成する。また、病理細胞診断学分野および生殖医療に関する論文講読と、指導教員を交えた討論により、研究を進めるための基礎的能力を養う。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】		
到達目標	1. 免疫組織化学および分子生物学的手法に基づいた病態解析ができる。 2. 生殖医療技術に関する広範囲の知識を網羅する。 3. 関連研究論文の講読、討論を通して実践的な研究を進めることができる。		
成績評価方法・基準	レポート50%、討論内容50%により評価する。レポートは100点を基準に採点后返却する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について1時間予習・復習を行い理解しておくこと。		
教科書	特になし。		
参考書	必要に応じて資料を配布する。		
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する (okayama@paz.ac.jp) (荒木:y-araki@paz.ac.jp)。		
履修条件・履修上の注意	特になし。		
ナンバリング	ZSB-509		

講義科目名称： 生体機能検査学特論

授業コード： M7044

英文科目名称： Advanced Biological Function

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
今年度開講せず			

授業形態		担当者
授業計画	※2024年度開講せず	
科目の目的		
到達目標		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー		
履修条件・履修上の注意		
ナンバリング	ZSB-510	

講義科目名称： 生体機能検査学演習

授業コード： M7045

英文科目名称： Practice in Biological Function

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
今年度開講せず			

授業形態		担当者
授業計画	※2024年度開講せず	
科目の目的		
到達目標		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー		
履修条件・履修上の注意		
ナンバリング	ZSB-511	

講義科目名称： 病因・病態検査学特別研究

授業コード： M7046

英文科目名称： Aetiological and Pathological Examination Thesis  
Guidance

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	10単位	選択
担当教員	担当者		
松下・亀子・高橋克・岡山・林・木村鮎・荒木	松下 木村鮎・荒木	亀子・高橋克	岡山・林
授業形態	実験・実習		担当者
授業計画	<p>1年次 4月～9月 指導教員と研究計画書作成 設定したテーマについて研究計画書を作成する。</p> <p>1年次 10月～3月 大学研究倫理審査委員会審査、研究活動の展開指導と進捗状況確認 設定したテーマについて大学の研究倫理審査委員会での承認を得る。 研究計画に沿って自主的に実験・研究を遂行する。</p> <p>2年次 6月 研究中間発表会 研究中間報告会を実施しながらディスカッションを行い、データ解析の仕方や考え方を学ぶ。</p> <p>2年次 ～10月 学位論文の草稿に関する指導 図表作成の仕方、論文の書き方などを学び、修士論文の完成に向け、関連文献の検索を行うとともに、研究目的、方法、結果、考察のまとめを行う。</p> <p>2年次 11月 学位論文及び学位論文審査申請書類の提出指導</p> <p>2年次 2月 研究科委員会にて学位論文及び最終試験の可否審査、学位授与判定</p> <p>2年次 3月 博士前期課程修了</p>		
科目の目的	<p>【木村（鮎）】クロマトグラフィー、二次元電気泳動分析などの最新分離・分析法および免疫化学的手法を駆使しながら生体試料から異常蛋白質を分離・分析し、その性状と発現（あるいは修飾）メカニズムを明らかにすることを目的に研究を行う。</p> <p>【松下】ALPなどのアイソザイムに関する研究を行う。</p> <p>【林】血液細胞をフローサイトメトリなどの解析技術を基盤にして、病態との関連あるい予防医学的観点から研究を行う。</p> <p>【荒木】生殖医療に関する臨床材料から集積したデータを中心に解析・討論を行う、それを通じて考察から結論が得られる過程を学ぶ技術を修得することを目的とする。</p> <p>【亀子】生体内に存在する微量成分の分離・精製とその定量方法を立案し、病態解析を行う上で、如何なる疾患の指標となるかを研究する。</p> <p>【高橋克】培養細胞を用いたサイトカイン分析に関する研究を行う。</p> <p>【岡山】HPV感染症及びハイリスク型HPV感染細胞に関する研究を行う。</p> <p>【研究能力】</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究テーマを設定し、研究の意義・目的を理解することができる。</li> <li>2. 研究目的を実現するために、自立して研究方法を組み立て、実施することができる。</li> <li>3. 研究中間発表会、ゼミ、各種学会などでプレゼンテーションをすることができる。</li> <li>4. 研究成果を学術論文としてまとめることができる。</li> </ol>		
成績評価方法・基準	研究中間発表会での発表内容（30%）及び研究論文内容（70%）で総合的に評価する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	研究テーマについて積極的に情報収集を行うとともに、定期的に研究の進捗状況の報告と討論を1～2時間行うこと。		
教科書	教科書：特になし		
参考書	参考書：必要に応じて担当指導教員からしじ、もしくはプリントを配布する。		
オフィス・アワー	<p>個別の相談・質問は各担当指導教員が随時対応する。</p> <p>松下誠：matsushita@paz.ac.jp  亀子光明：kameko@paz.ac.jp  高橋克典：k-takahashi@paz.ac.jp  岡山香里：okayama@paz.ac.jp  林由里子：hayashi@paz.ac.jp  木村鮎子：ay-kimura@paz.ac.jp  荒木泰行：y-araki@paz.ac.jp</p>		
履修条件・履修上の注意	自主的かつ責任を持った実験・研究を進めること。		
ナンバリング	ZSB-512		

講義科目名称： 病態検査解析学特論

授業コード： M7047

英文科目名称： Advanced Analytical Clinical Pathology

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
松下 誠	亀子・林由	高橋克・岡山	木村鮎・荒木

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 イントロダクション, 臨床化学検査データからの病態解析 (1)	松下 誠
	第2回 臨床化学検査データからの病態解析 (2)	松下 誠
	第3回 臨床化学検査データからの病態解析 (3)	松下 誠
	第4回 生体分子情報検査データからの病態解析 (1)	亀子 光明
	第5回 生体分子情報検査データからの病態解析 (2)	亀子 光明
	第6回 血液学検査データからの病態解析 (1)	林 由里子
	第7回 血液学検査データからの病態解析 (2)	林 由里子
	第8回 電気泳動・質量分析からの病態解析 (1)	木村 鮎子
	第9回 電気泳動・質量分析からの病態解析 (2)	木村 鮎子
	第10回 培養細胞による病態解析と検証法 (1)	高橋 克典
	第11回 培養細胞による病態解析と検証法 (2)	高橋 克典
	第12回 病理組織検査データからの病態解析 (1)	岡山 香里
	第13回 病理組織検査データからの病態解析 (2)	岡山 香里
	第14回 生殖医療検査データからの病態解析 (1)	荒木 泰行
	第15回 生殖医療検査データからの病態解析 (2)	荒木 泰行
科目の目的	臨床検査データから各種疾患の病態を解析するための技術・方法論とその意義について学ぶ (オムニバス方式)。【実践能力】	
到達目標	1. 各種疾患における病態と臨床検査データとの関連性について説明できる。 2. 臨床検査の異常データから病態を推測し, さらに進めるべき検査および病態解析法について説明できる。	
成績評価方法・基準	レポート50%、討論内容50%により評価する。レポートは返却しない。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について4時間を目安に予習・復習を行い理解しておくこと。	
教科書	必要に応じて資料を配布する。	
参考書	必要に応じて資料を配布する。	
オフィス・アワー	月曜日の5限 (matsushita@paz.ac.jp)	
履修条件・履修上の注意	講義中は携帯電話の電源を切ること	
ナンバリング	ZSB-513	

講義科目名称：放射線学研究方法論

授業コード：M7048

英文科目名称：Methodology in Radiological Research

対象カリキュラム：2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
渡邊 浩	酒井 健一	西澤 徹	

授業形態	講義と演習（オムニバス形式）8回		担当者
授業計画	第1回	研究方法論概論 ・診療放射線学研究とは ・「診療放射線技師の機能と役割」を研究テーマにするために ・放射線学研究における研究計画と研究スタイル	渡邊 浩
	第2回	放射線学研究における研究計画 ・研究デザインの選択 ・放射線学研究における研究計画の立案	渡邊 浩
	第3回	放射線学研究における先行研究と文献レビュー ・先行研究 ・文献検索の方法と整理 ・研究の目的	渡邊 浩
	第4回	放射線学研究における研究公正と研究倫理 ・診療放射線学研究における研究公正 ・研究倫理と審査 ・研究倫理審査の申請と意義 《レポート課題：受講者の研究テーマにおける研究デザインと研究倫理への配慮》	酒井健一
	第5回	放射線学研究における調査研究法 ・研究計画 ・実験計画、調査計画 ・研究結果の解析と評価	酒井健一
	第6回	放射線学研究における調査研究法 ・質的研究 ・質問紙調査、インタビュー調査、フィールドワーク ・質的研究の方法と評価	酒井健一
	第7回	放射線学研究における成果の整理 ・結果の可視化（表・グラフ・その他） ・考察と結語	西澤 徹
	第8回	放射線学研究における研究の公開 ・学会発表とプレゼンテーション ・論文執筆と論文投稿	西澤 徹
科目の目的	放射線学研究の特質、意義を理解するために、放射線学研究の歴史的経緯、主要研究テーマ、研究方法など必要な基本的な知識、技術を学ぶ。また、従来の診療放射線学研究では、業務内容によって放射線画像検査、放射線治療の2分野に区分することが一般的であるが、本学研究科では、診療放射線技師の「機能と役割」に焦点をあて、診療放射線学の研究領域を捉える。本科目では、研究の意義、研究公正などの基本的姿勢から、研究計画の立案から実行、（先行研究レビュー、研究デザインの選択、調査・実験等の実観、結果の解釈、考察）、評価の一連の流れを理解することを目的とする。本科目の学修を通して、ディプロマポリシーに示す「保健医療専門職としての基礎的知識、科学的根拠及び高い倫理観に基づいて問題の探求・解決を図る高度な研究能力」を涵養する。【研究能力】		
到達目標	1 診療放射線技師の「機能と役割」の視点での放射線学研究の意義と研究公正が説明できる。 2 放射線学における研究テーマの立案、提示、研究計画の作成の意義が説明できる。 3 研究デザインの選択、研究方法と解析、評価の意義が説明できる。		
成績評価方法・基準	レポート提出課題（100%）。評価結果を知らせるとともに良かった点と改善点のフィードバックを行い、成長を促す。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習 90分、事後学習 90分		
教科書	特になし		
参考書	ヘルスリサーチの方法論〔改訂版〕：研究実践のための基本ガイド 放送大学教育振興会 2019 コ・メディカルのための研究ガイド 下瀬川正幸監修 日本放射線技師会出版会 2009		
オフィス・アワー	授業開始前、授業後を基本とするが、E-mailでの相談を受け付ける。面談を希望する場合は、予め担当教員（渡邊浩、酒井、西澤）にE-mailにて、予約を行うことが望ましい。		

	渡邊 浩 : h-watanabe@paz.ac.jp 酒井健一 : k-sakai@paz.ac.jp 西澤 徹 : nishizawa@paz.ac.jp
履修条件・履修上の注意	放射線学領域の学生は、必修科目（研究方法特論）と連動して、この科目を履修する必要があります。
ナンバリング	ZSR-501

講義科目名称：放射線教育学特論

授業コード：M7049

英文科目名称：Advanced Radiological Education

対象カリキュラム：2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
西澤 徹			

授業形態	講義と演習（討論）15回	担当者
授業計画	<p>以下のテーマについて、関連の文献を収集・要約・発表し、ディスカッションする。</p> <p>第1回 診療放射線学教育の意義① 診療放射線技師の医療・社会における役割</p> <p>第2回 診療放射線学教育の意義② 診療放射線技師の業務拡大の歴史</p> <p>第3回 診療放射線学教育の意義③ 診療放射線技師の業務・養成，学問・教育</p> <p>第4回 診療放射線技師教育とその基盤① 診療放射線技師法，指定規則</p> <p>第5回 診療放射線技師教育とその基盤② 学校教育法，大学設置基準</p> <p>第6回 診療放射線技師教育とその基盤③ 診療放射線技術，診療放射線技師，診療放射線学</p> <p>第7回 教育組織① ディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシー，アドミッション・ポリシー</p> <p>第8回 教育組織② 教員組織</p> <p>第9回 教育組織③ 組織的な運営</p> <p>第10回 診療放射線技師教育① カリキュラム編成法</p> <p>第11回 診療放射線技師教育② 授業計画の立案とその評価</p> <p>第12回 診療放射線技師教育③ 学生の学習活動及び到達度の評価</p> <p>第13回 非専門職者に対する放射線教育 社会人，児童・生徒・学生，医療人</p> <p>第14回 放射線教育学研究 研究対象，研究手法</p> <p>第15回 診療放射線学教育学の基本原則とは 診療放射線学教育学，診療放射線教育学，放射線教育学</p>	<p>西澤 徹</p> <p>西澤 徹</p> <p>西澤 徹</p> <p>西澤 徹</p> <p>西澤 徹</p> <p>西澤 徹</p> <p>西澤 徹</p> <p>西澤 徹</p> <p>西澤 徹</p> <p>西澤 徹</p> <p>西澤 徹</p> <p>西澤 徹</p> <p>西澤 徹</p> <p>西澤 徹</p> <p>西澤 徹</p> <p>西澤 徹</p>
科目の目的	<p>医学の進歩と共に、医療の高度化、細分化、専門化が進み様々な医療専門職としての国家資格が誕生した。近年では、看護師、臨床検査技師、理学療法士、臨床工学技士などのメディカル・スタッフが連携し協働するチーム医療の時代となり、資格制度や教育環境も大きく変化した。医療専門職が、大学院において教育や研究を行う意義に着目し、医療専門職教育の進め方、カリキュラム編成、教育評価について考察し、放射線学における高度職業人養成と高等教育の特質を踏まえた大学学科運営の知識と実践について学ぶ。本科目の学修を通して、「ディプロマポリシーに示す「地域保健医療の実践現場で他の分野と連携して社会に貢献できる教育能力」を涵養する。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】</p>	
到達目標	<p>1 診療放射線技師養成の歴史的背景と法的根拠について説明できる。</p> <p>2 診療放射線技師養成における大学教育の意義及び教育研究について説明できる。</p> <p>3 診療放射線技師養成を行う大学の組織編制及びその運営について説明できる。</p>	
成績評価方法・基準	<p>講義内試験（50%）、レポート提出課題（50%）の総合点による評価。講義内で評価結果を知らせるなどのフィードバックを適切に行い、修正箇所や今後の課題を具体的に明示する。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>事前学習90分 事後学習90分</p>	
教科書	<p>指定しない</p>	
参考書	<p>酒井聡樹 これから論文を書く若者のために（共立出版）</p>	
オフィス・アワー	<p>個別に連絡を取り適宜実施する。（メールアドレス：nishizawa@paz.ac.jp）</p>	
履修条件・履修上の注意	<p>診療放射線技師教育に興味・関心のある者を希望する。</p>	
ナンバリング	<p>ZSR-502</p>	



講義科目名称：放射線教育学演習

授業コード：M7050

英文科目名称：Practice in Radiological Education

対象カリキュラム：2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
西澤 徹			

授業形態	演習15回		担当者
授業計画	第1回	オリエンテーション この科目で学ぶこと、この科目の進め方	
	第2回	文献講読（1） 大学教育に関連した文献の講読、討論	西澤 徹
	第3回	文献講読（2） 医療専門職教育に関連した文献の講読、討論	西澤 徹
	第4回	文献講読（3） 医学教育に関連した文献の講読、討論	西澤 徹
	第5回	文献講読（4） 診療放射線技師教育に関連した文献の講読、討論	西澤 徹
	第6回	文献講読（5） 診療放射線技師教育に関連した文献の講読、討論	西澤 徹
	第7回	基礎課程カリキュラム編成（1） 診療放射線技師養成所指定規則に基づくカリキュラム編成	西澤 徹
	第8回	基礎課程カリキュラム編成（2） 専門学校と大学の設置目的	西澤 徹
	第9回	基礎課程カリキュラム編成（3） 学部教育による診療放射線技師養成カリキュラムの編成	西澤 徹
	第10回	大学院教育のカリキュラム編成（1） 大学院の目的：大学院で何を学び獲得するか	西澤 徹
	第11回	大学院教育のカリキュラム編成（2） 大学院修士課程（博士前期課程）と後期課程	西澤 徹
	第12回	大学院教育のカリキュラム編成（3） 大学院における診療放射線技師教育カリキュラムの編成	西澤 徹
	第13回	非専門職者に対する放射線教育（1） 医療人に対する放射線教育カリキュラム	西澤 徹
	第14回	非専門職者に対する放射線教育（2） 小中高校生及び社会人に対する放射線教育カリキュラム	西澤 徹
	第15回	診療放射線学教育学における実践的課題 この科目を通して見出した問題点とその解決方法	西澤 徹
科目の目的	放射線教育学特論で学んだ知識を基に、診療放射線技師を取り巻く環境における専門職としての研究テーマ「放射線教育」に関し文献収集、論文講読を経て、先行研究から、研究デザイン、研究計画、データ収集・処理などの一連の研究方法を実践的に学ぶ。本科目の学習を通して、ディプロマポリシーに示す「保健医療分野、及び公衆衛生学の諸課題に関して、科学的な手続きと洞察に基づく的確な判断能力」を培い、併せて「保健医療専門職としての基礎的知識、科学的根拠及び高い倫理観に基づいて問題の探求・解決を図る高度な研究能力」の涵養を計る。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】		
到達目標	1 診療放射線技師教育に関連する文献講読後の討論を通して問題点を抽出し、解決するための研究手法を見出すことができる。 2 診療放射線技師の基礎教育カリキュラム及び特定の専門に絞ったカリキュラムを作成できる。 3 非専門者への放射線教育について、対象に応じたカリキュラムを作成できる。		
成績評価方法・基準	講義内試験（50％）、レポート提出課題（50％）の総合点による評価。講義内で評価結果を知らせるなどのフィードバックを適切に行い、修正箇所や今後の課題を具体的に明示する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：文献調査、検討、私案作成 事前学習の時間：2時間程度		
教科書	なし		
参考書	なし		
オフィス・アワー	個別に連絡を取り適宜行う。（メールアドレス：nishizawa@paz.ac.jp）		
履修条件・履修上の注意			
ナンバリング	ZSR-503		

講義科目名称：放射線防護学特論

授業コード：M7051

英文科目名称：Advanced Radiological Protection

対象カリキュラム：2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
渡邊 浩			

授業形態	講義（討論を含む）	担当者
授業計画	第1回 放射線防護学特論の概要 放射線防護の概要と履修するために必要な知識や技術について講義する。	渡邊 浩
	第2回 放射線防護体系 ICRPの勧告等に基づく世界的な放射線防護体系について講義する。	渡邊 浩
	第3回 放射線防護法令Ⅰ 放射性同位元素等の規制に関する法律に基づく放射線管理の実際について講義する。	渡邊 浩
	第4回 放射線防護法令Ⅱ 医療法における放射線防護の概要と実際について講義する。	渡邊 浩
	第5回 放射線防護法令Ⅲ 労働法の放射線防護に基づく実際について講義する。	渡邊 浩
	第6回 医療被ばく管理 医療被ばくの適正管理の手法と実際について講義する。	渡邊 浩
	第7回 職業被ばく管理 職業被ばくの安全管理の手法と実際について講義する。	渡邊 浩
	第8回 放射線施設管理 放射線施設の安全管理の実際について講義する。	渡邊 浩
	第9回 放射線業務従事者管理 放射線業務従事者の安全管理の実際について講義する。	渡邊 浩
	第10回 放射線防護領域の研究 放射線防護領域における研究について医療を中心に講義する。	渡邊 浩
	第11回 職業被ばくに関する研究 職業被ばく分野における放射線防護学研究について講義する。	渡邊 浩
	第12回 リスクコミュニケーション リスクコミュニケーションの手法と研究について講義する。	渡邊 浩
	第13回 遮へい計算研究 遮へい計算に関する研究について医療放射線装置を中心に講義する。	渡邊 浩
	第14回 医療被ばくに関する研究 医療被ばくを適正に管理するための研究について講義する。	渡邊 浩
	第15回 放射線防護特論の総括 放射線防護学特論で講義してきた実践と研究について総括して講義する。	渡邊 浩
科目の目的	放射線防護は放射線利用の基盤的学問であり、放射線利用が高度かつ広範囲になるにつれて放射線防護学の重要性が高まる。また、放射線の医療利用である放射線診療にはエックス線診断、核医学および放射線治療があるが、放射線診療を受ける患者の被ばくは医療被ばくであり、放射線診療を実施する医療従事者が受ける被ばくは職業被ばくである。両者の被ばくを合理的に低減、最適化することも放射線防護学の役割である。本科目では放射線防護関係法令を学ぶとともに医療被ばくと職業被ばくの合理的防護手法を学ぶことを目的とする。 また、これらの講義と討論を通して、ディプロマポリシー「保健医療専門職としての基礎的知識、科学的根拠及び高い倫理観に基づいて問題の探求・解決を図る高度な研究能力」、「保健医療分野の諸課題に関して、科学的な手続きと洞察に基づく確かな判断能力」、「先進・高度化する専門分野の基本的技術を提供する実践能力」ならびに「地域保健医療の実践現場で他の分野と連携して社会に貢献できる教育能力」を修得する。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】	
到達目標	1 放射線防護関係法令の基準とその役割を説明できる。 2 放射線防護関係法令を遵守するために必要な知識と技術を説明できる。 3 医療被ばくを合理的に最適化するための手法を説明できる。 4 職業被ばくを合理的に低減するための手法を説明できる。	
成績評価方法・基準	レポート・提出課題（100%）。次回講義で解説すし、フィードバックを行い、成長を促す。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義前学習90分。講義後学習90分。	
教科書	必要に応じて資料を配布する。	
参考書	特になし	
オフィス・アワー	月曜17時～18時を原則とする。その他はメールにて調整する（h-watanabe@paz.ac.jp）。	

履修条件・履修上の注意	各回ごとに事前に担当教員と連絡を取り授業準備を行うこと。
ナンバリング	ZSR-504

講義科目名称：放射線防護学演習

授業コード：M7052

英文科目名称：Practice in Radiological Protection

対象カリキュラム：2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
渡邊 浩			

授業形態	演習	担当者
授業計画	<p>第1回 放射線防護学演習の概要 放射線防護学演習の概要と履修するために必要な知識や技術について講義する。</p> <p>第2回 研究テーマ 研究テーマの見つけ方を病院業務の疑問点、改善点から見つける方法と最近の話題、病院業務等の方向から見つける方法を演習する。</p> <p>第3回 研究ストーリーの構築 研究テーマから研究ストーリーを構築する手法を演習する。</p> <p>第4回 研究・発表・論文作成全体の流れ 研究テーマに沿って論文の区分と論文のOriginalityならびに研究ツリーを構築方法を演習する。</p> <p>第5回 先行研究の検討 先行研究の検討を行い論文の緒言を構成方法を演習する。</p> <p>第6回 研究計画方法 仮説の立案ならびに研究方法を演習する。</p> <p>第7回 研究計画書の構成 研究計画書を作成するための構成および必要資料を収集する。</p> <p>第8回 研究計画書作成 研究計画書全体を作成する演習を行う。</p> <p>第9回 倫理委員会申請 研究計画書に基づく倫理委員会申請方法を習得する。</p> <p>第10回 研究の実践 研究計画書に基づく研究の実践方法を習得する。</p> <p>第11回 データ解析 研究によって得られた結果やデータの解析週報を習得する。</p> <p>第12回 統計解析 研究によって得られた結果やデータの統計解析手法を習得する。</p> <p>第13回 論文執筆 研究によって得られたデータならびに解析結果に基づき論文執筆手法を習得する。</p> <p>第14回 論文投稿 執筆した論文を投稿する準備や手法を習得する。</p> <p>第15回 放射線防護学演習の総括 放射線防護学演習で習得した研究ならびに論文執筆手法を総括する。</p>	<p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p>
科目の目的	<p>放射線防護学は放射線利用全般の基盤的学問であり、放射線利用技術の健全な発展には欠かせない。放射線利用が高度化するにつれてその重要性が高まるとともに放射線技術の安全利用のための放射線防護学も日々成長し続けることが求められる。そのため、放射線防護基準の新たな策定や放射線防護基準を遵守するための手法の開発が必要となる。本科目では放射線防護学分野の研究手法として医療被ばくや職業被ばくの適正管理を中心に実践的な研究手法を学ぶことを目的とする。また、これらの演習を通して、ディプロマポリシー「保健医療専門職としての基礎的知識、科学的根拠及び高い倫理観に基づいて問題の探求・解決を図る高度な研究能力」、「保健医療分野の諸課題に関して、科学的な手続きと洞察に基づく的確な判断能力」、「先進・高度化する専門分野の基本的技術を提供する実践能力」ならびに「地域保健医療の実践現場で他の分野と連携して社会に貢献できる教育能力」を修得する。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】</p>	
到達目標	<p>1 放射線防護学研究をデザインできる。</p> <p>2 放射線防護学研究の様々な手法を説明できる。</p> <p>3 放射線防護学研究を実践できる。</p>	
成績評価方法・基準	<p>レポート・課題（100%）。レポート提出後に評価結果を知らせるとともに良かった点と改善点のフィードバックを行い、成長を促す。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>演習前学習90分。演習後学習90分。</p>	
教科書	<p>必要に応じて資料を配布する。</p>	
参考書	<p>特になし</p>	

オフィス・アワー	月曜17時～18時を原則とする。その他はメールにて調整する (h-watanabe@paz.ac.jp)。
履修条件・履修上の注意	各回ごとに事前に担当教員と連絡を取り受講準備を行うこと。
ナンバリング	ZSR-505

講義科目名称：放射線利用学特論

授業コード：M7053

英文科目名称：Advanced Radiological Utilization

対象カリキュラム：2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
酒井 健一			

授業形態	講義（アクティブ・ラーニング形式：学生による調査・成果報告を含む）	担当者
授業計画	第1回 講義：放射線文献収集の方法とまとめ方（1） 放射線利用に関する文献の収集とまとめ方を学ぶ	酒井健一
	第2回 講義：放射線文献収集の方法とまとめ方（2） 放射線利用に関する文献の収集とまとめ方を学ぶ	酒井健一
	第3回 放射化学－放射線利用の概要 その1 基礎 放射化学の基礎復習	酒井健一
	第4回 放射化学－放射線利用の概要 その2 応用 放射線を利用するための放射化学基礎・応用	酒井健一
	第5回 放射線利用（1）医療分野（医薬品など） 医薬品や診断薬に利用される科学	酒井健一
	第6回 放射線利用（2）医療技術（診断・検査・治療） 医療に利用される放射線学の実例	酒井健一
	第7回 放射線利用（3）工業利用分野 その1（高分子材料加工など） 材料加工など利用科学	酒井健一
	第8回 放射線利用（4）工業利用分野 その2（非破壊検査など） 非破壊検査の実用例	酒井健一
	第9回 放射線利用（5）農業分野 その1（植物育種・品種改良など） 植物育種に利用される放射線類について	酒井健一
	第10回 放射線利用（6）農業分野 その2（植物育種：食品保存） 食品保存に関する放射線の利用	酒井健一
	第11回 放射線利用（7）農業分野 その3（害虫駆除など） 害虫駆除に利用される放射線	酒井健一
	第12回 放射線利用（8）放射線を利用する分野の総括 その1 放射線を利用する分野の全体像を確認	酒井健一
	第13回 放射線利用（9）放射線を利用する分野の総括 その2 放射線利用学の総括	酒井健一
	第14回 放射線利用学のまとめ 放射線利用学の整理	酒井健一
	第15回 放射線利用学の展望	酒井健一
科目の目的	放射線利用学では、本科目の講義と討論を通して、ディプロマポリシーに示した「先進・高度化する専門分野の基本的技術を提供する実践能力」を習得する。より具体的には、放射線を利用した「工業」、「医療」、「農業」などの各分野での基礎と応用を具体的に学び、実用・実務技術を知ること、放射線利用の全体像を科学的に学習することを目的とする。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】	
到達目標	工業、医療、農業などの分野における放射線の役割を知ることが最初の目標とする。さらに、放射線の性質や能力を知ること、先端利用分野を創出する機会を考えることを第二の目標とする。	
成績評価方法・基準	授業内レポート（70%） 授業内口頭試験（30%） 授業内レポートおよび口頭試験などの評価などについては、次回講義内で評価結果を知らせるなどのフィードバックを行い、指導項目などを明示する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	3時間（事前60分、事後120分）	
教科書	使用しない。必要に応じて参考文献などを提示する。	
参考書	特に指定しない。但し、英語文献は担当者1（酒井健一）が発表している論文や書籍を使用することがある。	
オフィス・アワー	月曜16時から18時（4号 7階 研究室12） Mail Address: k-sakai@paz.ac.jp	
履修条件・履修上の注意		
ナンバリング	ZSR-506	

講義科目名称：放射線利用学演習

授業コード：M7054

英文科目名称：Practice in Radiological Utilization

対象カリキュラム：2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
酒井 健一			

授業形態	講義（アクティブ・ラーニング形式：学生による演習内容の報告・考察を含む）	担当者
授業計画	第1回 放射線利用：演習に関する講義の説明 講義の説明	酒井健一
	第2回 放射線利用：（1）医療分野に関する文献報告 その1	酒井健一
	第3回 放射線利用：（2）医療分野に関する文献報告 その2	酒井健一
	第4回 放射線利用：（3）農業分野に関する文献報告 その1	酒井健一
	第5回 放射線利用：（4）農業分野に関する文献報告 その2	酒井健一
	第6回 放射線利用：（5）農業分野に関する文献報告 その3	酒井健一
	第7回 放射線利用：（6）工業分野に関する文献報告 その1	酒井健一
	第8回 放射線利用：（7）工業分野に関する文献報告 その2	酒井健一
	第9回 放射線利用：（8）食品保存分野に関する文献報告	酒井健一
	第10回 放射線利用：（9）害虫駆除分野に関する文献報告	酒井健一
	第11回 放射線利用：（10）分野に関する文献報告 その1	酒井健一
	第12回 放射線利用：（11）複合分野に関する文献報告 その1	酒井健一
	第13回 放射線利用：（12）複合分野に関する文献報告 その2	酒井健一
	第14回 放射線利用学のまとめ	酒井健一
	第15回 放射線利用学の全体的整理	酒井健一
科目の目的	放射線利用学演習では、本科目の講義と討論、さらに文献調査と発表などを通して、ディプロマポリシーに示した「先進・高度化する専門分野の基本的技術を提供する実践能力」を習得することを目的とする。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】	
到達目標	放射線類を用いた治療や動植物類の変異株育種・加工など、放射線を利用する各分野における最先端の技術を具体的な公開情報から解明する実践能力を習得する。さらに、放射線を用いた新技術の提案能力の育成を目指す。	
成績評価方法・基準	授業内レポート（70%） 授業内口頭試問（30%） 授業内レポートおよび口頭試問などの評価などについては、次回講義内で評価結果を知らせるなどのフィードバックを行い、指導項目などを明示する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	3時間（事前60分、事後120分）	
教科書	使用しない。	
参考書	特に指定しない。但し、担当者の作成した論文や書籍を使用することがある。	
オフィス・アワー	月曜16時から18時 Mail Address: k-sakai@paz.ac.jp	
履修条件・履修上の注意		
ナンバリング	ZSR-507	

講義科目名称：放射線学特別研究

授業コード：M7055

英文科目名称：Radiological Sciences Thesis Guidance

対象カリキュラム：2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	10単位	選択
担当教員	担当者		
渡邊 浩・酒井 健一・西澤 徹			

授業形態	演習	担当者
授業計画	<p><b>【指導教員 研究指導テーマ】</b>            学生は入学出願時に下記の指導教員の研究指導テーマから自分の研究テーマに合った指導教員を選択し出願する。            各領域毎に、1年次前期科目（特論）と後期科目（演習）と連動し、2年次に特別研究（所属領域）を履修する。            学生は自ら立案した研究テーマに沿って研究計画を策定し、論文作成に向けた、研究指導、研究実践を受ける。            なお、詳細な授業計画を初回授業の際に指導教員と調整し、1年次末に提出した研究計画書を沿って研究指導計画を指導教員が立案し、研究指導を受ける。</p> <p>渡邊 浩 研究指導テーマ：放射線防護学            ・診療放射線技師が果たすべき安全管理に関する研究            ・診療放射線技師が果たすべき放射線防護に関する研究            ・診療放射線技師による医療被ばくならびに職業被ばくの適正管理に関する研究</p> <p>酒井 健一 研究指導テーマ：放射線利用学            ・診療放射線技師の職域拡大と放射線を利用した開発に関する研究            ・放射線利用による食物や植物対象の品種改良等に関する研究            ・放射線検知による医薬品等の開発に関する研究</p> <p>西澤 徹 研究指導テーマ：放射線教育学            ・診療放射線技師の職業に関わる役割に関する研究            ・診療放射線技師の教育・研究に関する研究            ・診療放射線技師の技術に関する研究</p>	
科目の目的	<p>（概要）放射線学特別研究では、『放射線学』を「放射線学教育」「放射線防護」「放射線利用」の診療放射線技師の基本的な知識・技術から構成される能力として捉え、また臨床実践で求められる「画像生成・解析と評価」「放射性物質の特質と医学的動態」「放射線治療と効果」の側面から捉え、いずれかの視点で研究テーマを設定し、研究、開発を行うことにより、放射線学の社会における役割の向上、保健医療福祉や関係する分野への貢献を目指す。共通科目、保健科学専攻専門科目（特論、演習）で得られた知識、技術、考え方を基に、研究テーマ設定、文献レビュー、先行研究の検討、問題解決のための研究計画の立案、さらに観察、実験などによる検証と評価を一連の研究活動を通して、その成果を修士論文としてまとめ、保健科学における新たな知見を獲得することを目的とする。本科目の学習を通して、ディプロマポリシーに示す研究能力、判断能力、実践能力および教育能力について総合的に涵養する。  <b>【研究能力】</b></p>	
到達目標	<p>講義・演習（ゼミ）を通して、診療放射線技師が行う放射線学研究の研究立案、評価、公開を行う能力を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 診療放射線技師の基盤となる放射線学の先行研究・研究論文の意義が説明できる。</li> <li>2 診療放射線技師の基盤となる放射線学に関する研究デザインの選択、研究計画の立案ができる。</li> <li>3 診療放射線技師の基盤となる放射線学研究の検証と評価を通して、その成果を修士論文としてまとめる。</li> </ol>	
成績評価方法・基準	<p>講義・演習への取り組みと学習状況、研究論文作成の評価から総合的に行う（研究実践50%、論文作成50%）。評価結果を知らせるとともに良かった点と改善点のフィードバックを行い、成長を促す。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>事前学習 90分、事後学習 90分</p>	
教科書	<p>特に指定しない</p>	
参考書	<p>特に指定しない</p>	
オフィス・アワー	<p>授業開始前、授業後を基本とするが、E-mailでの相談を受け付ける。            相談を希望する場合は、予め所属する領域の担当教員（渡邊・酒井・西澤）にE-mailにて、予約を行うことが望ましい。            渡邊 浩：h-watanabe@paz.ac.jp            酒井健一：k-sakai@paz.ac.jp            西澤 徹：nishizawa@paz.ac.jp</p>	
履修条件・履修上の注意	<p>所属する領域（1）放射線教育学、（2）放射線防護学、（3）放射線利用学のそれぞれの特論、演習を履修済であること。</p>	



ナンバーリング

ZSR-508

講義科目名称：放射線学特論

授業コード：M7056

英文科目名称：Advanced Radiological Sciences

対象カリキュラム：2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
加藤 英樹			

授業形態	講義と演習（討論） 15回		担当者
授業計画	第1回	放射線学の教育・研究の変遷 診療放射線技術教育の変遷をたどり、その目的と方法について現在と対比して議論する。	加藤英樹
	第2回	放射線学の教育・研究における学術体系の現状 日本放射線技術学会の論文投稿区分を参照しながら、診療放射線学の学術体系について議論する。	加藤英樹
	第3回	放射線学の教育・研究における教育・研究組織 診療放射線技術教育を行っている大学の教員組織を参照しながら、教育・研究組織の在り方を議論する。	加藤英樹
	第4回	診療放射線技師養成と診療放射線教育の変遷 日本における診療放射線技師教育の変遷を概観し、法改正の目的とその成果について議論する。	加藤英樹
	第5回	診療放射線技師養成と診療放射線教育の意義と発展 診療放射線技師養成の現状を理解し、大学における診療放射線学教育の意義・目的について議論する。	加藤英樹
	第6回	放射線学研究における放射線機器の変遷 診療放射線技術に関わる機器類の変遷について、一般工業界の技術革新と対比して概観する。	加藤英樹
	第7回	放射線学研究における放射線機器の意義と発展 医療において放射線を利用するために改良されてきた放射線機器の改良・改善の目的とその成果について概観する。	加藤英樹
	第8回	放射線学研究における画像解析の変遷 診療目的の画像検査において、情報の質と量の向上をどのように図ってきたか概観する。	加藤 英樹
	第9回	放射線学研究における画像解析の意義と発展 診療目的の画像検査において、情報の質と量の向上が医学的診断にもたらした影響について概観する。	加藤 英樹
	第10回	放射線学研究における放射線計測・治療の変遷 放射線治療に不可欠な正確な線量計測技術について、照射技術の改善と対比しながら概観する。	加藤 英樹
	第11回	放射線学研究における放射線計測・治療の意義と発展 多様な照射法、照射技術に対応する放射線計測機器・計測技術について議論する。 《レポート課題：診療放射線学における研究の目的について》	加藤 英樹
	第12回	放射線学研究における質的研究の意義と発展 診療放射線技術を適用する対象は人間であり、質的研究の重要性は高い。これまでの取組と今後の展開について議論する。	加藤英樹
	第13回	放射線学研究における技術評価の在り方 技術とは再現性を保証するものである。どのような観点で技術を評価する必要があるか議論する。	加藤英樹
	第14回	診療放射線技師が行う放射線学の将来 診療放射線技師が取り組む研究の対象と研究方法について、研究領域の概念から議論する。	加藤英樹
	第15回	放射線学の教育・研究における近未来予測 放射線学に関する教育・研究のシステム、方法などについて議論する。 《レポートのフィードバック：レポートについて議論する》	加藤英樹
科目の目的	診療放射線学の研究領域は、新たな放射線画像検査法、放射線治療法の開発、関連機器の開発、精度管理や性能評価、放射線防護や医療被曝、環境放射線や測定方法の開発、医療情報の伝達と共有、画像情報処理、解析と評価方法など多岐に渡る。放射線学研究を進めるにあたって基盤となる		

	『放射線学』を歴史的な変遷、取り巻く技術や学術、教育制度などの総合的な視点から概観し、放射線学の知識・技術に基づいた科学的思考能力を体系的・総合的に学ぶ。また、従来の検査、治療に大別される学術領域にとらわれることなく、放射線を取り巻く環境及び融合的領域に焦点を当て、新たな知見、学術を見出すことを目的とする。本科目の学習を通して、ディプロマポリシーに示す「保健医療分野、及び公衆衛生学の諸課題に関して、科学的な手続きと洞察に基づいた確かな判断能力」を培い「先進・高度化する専門分野の基本的技術を提供する実践能力」を涵養する。【実践能力】
到達目標	講義・演習（ゼミ）を通して、診療放射線技師の学術的基盤となる放射線学の意義を見出す。 1 診療放射線技師の学術的基盤となる放射線学の技術と学術の変遷について説明できる。 2 診療放射線技師の学術的基盤となる放射線学の学術、教育制度について説明できる。 3 放射線を取り巻く環境及び融合的領域において、新たな知見、学術を見出す。
成績評価方法・基準	授業時間内の試験（40%）、レポート提出課題（60%）の総合点による評価。授業内試験やレポート課題の評価については、後日の授業内にフィードバックを行い、合わせて議論する機会を持つ。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習 90分、事後学習90分
教科書	特に指定しない
参考書	特に指定しない
オフィス・アワー	授業開始前、授業後を基本とするが、E-mailでの相談を受け付ける。面談を希望する場合は予めE-mailで予約することが望ましい。加藤英樹：h-katou@paz.ac.jp
履修条件・履修上の注意	各回の内容については、事前に担当教員と連絡をとり、文献収集、授業準備を行うこと。
ナンバリング	ZSR-509

講義科目名称： 臨床工学研究方法論

授業コード： M7057

英文科目名称： Methodology in Clinical Engineering Research

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
大濱 和也	湯本 真人	花田 三四郎	松岡 雄一郎

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 生体機能代行装置の研究論文から学ぶ研究方法論 1	大濱 和也
	第2回 生体機能代行装置の研究論文から学ぶ研究方法論 2	大濱 和也
	第3回 臨床的な生体機能計測・解析技術に関する研究論文から学ぶ研究方法論 1	湯本 真人
	第4回 臨床的な生体機能計測・解析技術に関する研究論文から学ぶ研究方法論 2	湯本 真人
	第5回 人工臓器及び再生医工学の研究論文から学ぶ研究方法論 1 人工臓器の歴史的変遷と原理	花田 三四郎
	第6回 人工臓器及び再生医工学の研究論文から学ぶ研究方法論 2 再生医工学技術の方法論	花田 三四郎
	第7回 臨床検査装置の研究論文から学ぶ研究方法論 1 磁気共鳴撮像方法と装置の発展の経緯	松岡 雄一郎
	第8回 臨床検査装置の研究論文から学ぶ研究方法論 2 磁気共鳴データの解析と画質向上技術	松岡 雄一郎
科目の目的	<p>(概要) 臨床工学領域における研究は、一般的な流れであるテーマの設定(研究目的)、理論の構築、方法の決定(実験、調査、観察)、結果分析、検討、結論の一貫した過程を取る。その中でもとりわけ医療機器の開発に関する研究が多く、以下のような手順による実験を伴う。本科目では過去に発表された文献を教材にその手順遂行時に必要となるさまざまな知識と技術について学ぶ。《手順》 1) 実験装置の製作あるいはシステムの構築(これ自体が研究目的の場合もある)、2) 予備実験による方法の客観性、信頼性、妥当性の確認、3) 本実験、4) データの整理・分析・解析、5) 実験結果の検討(解明できたこと、できなかったこと)、以上の手順を繰り返すことにより結論を導き出す。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(大濱 和也/2回) 生体機能代行装置の研究論文から学ぶ研究方法論</p> <p>(湯本 真人/2回) 臨床的な生体機能計測・解析技術に関する研究論文から学ぶ研究方法論</p> <p>(花田 三四郎/2回) 人工臓器及び再生医工学の研究論文から学ぶ研究方法論</p> <p>(松岡 雄一郎/2回) 臨床検査装置の研究論文から学ぶ研究方法論 【研究能力】</p>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"><li>臨床工学領域における研究手法を理解する。</li><li>研究テーマの設定とその具体的手法について学ぶ。</li></ul>	
成績評価方法・基準	研究論文の講読における知識習得度(80%)及び討論の内容(20%)を基に評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	生体情報に関する論文・資料を60分程度の時間を掛け内容を理解をする。基礎的な文献および参考資料を収集する。得た資料は60分程度の時間を掛け内容を理解する。	
教科書	使用しない。	
参考書	適宜紹介する。	
オフィス・アワー	電子メールにて対応する。花田三四郎：hanada@paz.ac.jp 松岡雄一郎：matsuoka@paz.ac.jp 湯本真人：yumoto@paz.ac.jp 大濱和也：oohama@paz.ac.jp	
履修条件・履修上の注意		
ナンバリング	ZSC-501	

講義科目名称： 生体情報医工学特論

授業コード： M7058

英文科目名称： Advanced Biomedical Informatics

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
花田 三四郎	松岡 雄一郎		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 生体情報医工学で学ぶこと ガイダンス	花田 三四郎
	第2回 細胞のイメージング方法 培養から観察まで	花田 三四郎
	第3回 生体信号の電気的計測方法	松岡 雄一郎
	第4回 蛍光イメージング 1 顕微鏡の種類と原理	花田 三四郎
	第5回 蛍光イメージング 2 三次元イメージング	花田 三四郎
	第6回 蛍光イメージング 3 画像解析	花田 三四郎
	第7回 生体組織の温度計測技術1 インピーダンス	松岡 雄一郎
	第8回 生体組織の温度計測技術2 マイクロ波	松岡 雄一郎
	第9回 生体組織の温度計測技術3 磁気共鳴	松岡 雄一郎
	第10回 再生医療とイメージング 1 フローサイトメーター	花田 三四郎
	第11回 再生医療とイメージング 2 オルガノイド	花田 三四郎
	第12回 磁気共鳴現象を用いた生体構造可視化	松岡 雄一郎
	第13回 多核種核磁気共鳴に基づく生体情報の可視化	松岡 雄一郎
	第14回 細胞イメージング技術の展望 今後の展望 (顕微鏡イメージング)	花田 三四郎
	第15回 生体イメージング技術の展望 今後の展望 (生体イメージング)	松岡 雄一郎
科目の目的	<p>(概要) 生体情報医工学は、ヒトを中心とした生物の生命活動から取得される生体情報を、医学的かつ工学的な視点で整理・考察することで理解を深めることを目的とした学問であり、医療への貢献が非常に大きい分野である。生体情報は、再生医療や人工臓器に関連する細胞レベルから生体組織の内部を可視化するイメージング技術まで幅広い情報を取り扱い、科学的に観察、計測、解析、解釈するため、細胞生物学、生体計測学、電磁気学、情報工学などのさまざまな医工学領域の高度な知識と技術が求められる。本科目では、本分野において指導的役割を果たすための総合的な知識と技術を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(花田 三四郎／8回) 人工臓器や再生医療分野において、細胞から得られる情報の取得方法、解析手法などについて学ぶ。</p> <p>(松岡 雄一郎／7回) 生体情報の可視化に関する原理、情報計測技術などについて、発展の歴史や国際的な研究開発動向を含めて学ぶ。</p> <p>【実践能力】 【指導能力及び調整能力】 【教育能力】 【研究能力】</p>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生体情報に関する基礎的知見を習得する。</li> <li>・特別研究を進めるための最新の研究に基づいた知識・理解力・討論のためのコミュニケーション能力を養う。</li> </ul>	
成績評価方法・基準	研究論文の講読における知識習得度 (80%) 及び討論の内容 (20%) を基に評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	生体情報に関する論文・資料を60分程度の時間を掛け内容を理解をする。基礎的な文献および参考資料を収集する。得た資料は60分程度の時間を掛け内容を理解する。	
教科書	使用しない。 必要に応じて資料を配布する。	

参考書	適時紹介する。
オフィス・アワー	電子メールにて対応する。花田三四郎：hanada@paz.ac.jp 松岡雄一郎：matsuoka@paz.ac.jp
履修条件・履修上の注意	学部レベルの数学知識を必要とする。機械工学、電気・電子工学、システム制御論、生体物性の基礎に関する知識を事前学習していることが望ましい。
ナンバリング	ZSC-502

講義科目名称： 生体情報医工学演習

授業コード： M7059

英文科目名称： Practice in Biomedical Informatics

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
花田 三四郎	松岡 雄一郎		

授業形態	講義及び演習	担当者
授業計画	第1回 臨床工学における生体情報 ガイダンス	花田 三四郎
	第2回 顕微鏡イメージングに関する調査	花田 三四郎
	第3回 顕微鏡イメージングに関する討論・発表	花田 三四郎
	第4回 生体組織の電気特性に関する抄読会	松岡 雄一郎
	第5回 生体組織の電気特性に関する討論・発表	松岡 雄一郎
	第6回 人工臓器に関する抄読会	花田 三四郎
	第7回 人工臓器に関する討論・発表	花田 三四郎
	第8回 生体組織の磁気特性に関する抄読会	松岡 雄一郎
	第9回 生体組織の磁気特性に関する討論・発表	松岡 雄一郎
	第10回 再生医療とイメージングに関する抄読会 1	花田 三四郎
	第11回 再生医療とイメージングに関する抄読会 2	花田 三四郎
	第12回 再生医療とイメージングに関する討論・発表	花田 三四郎
	第13回 生体への電磁波影響に関する抄読会	松岡 雄一郎
	第14回 医療機器への電磁波影響に関する抄読会	松岡 雄一郎
	第15回 生体および医療機器への電磁波影響に関する討論・発表	松岡 雄一郎
科目の目的	<p>(概要) 「生体情報工学特論」で学んだ医工学の総合的な枠組みの中で、再生医療、人工臓器、生体イメージング技術などに応用されている細胞生物学、生体計測学、電磁気学および情報工学などから、より専門的な領域を選択して、課題を決めて文献収集し、討論などの演習形式でより高度な理解を目指す。同時に批評的な文献購読を通して研究設計、計画、データ収集、解析、論文の構成など問題解決に必要な研究体系を実践的に学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(花田 三四郎／8回) 細胞培養技術など人工臓器に関連する課題解決や研究方法について討論する。</p> <p>(松岡 雄一郎／7回) 生体イメージングにおける生体組織や医療機器の電磁気学的な影響やその機序などについて、実例や問題解決方法などを学ぶ。 【実践能力】 【指導能力及び調整能力】 【教育能力】 【研究能力】</p>	
到達目標	1. 生体情報医工学領域の英文論文を講読し発表討論ができる。 2. 討論を通して、基本的かつ統合的な臨床と工学の知識力および専門的技術力を身に付け、実践的な研究を進めることができる。	
成績評価方法・基準	演習課題の達成度(80%)および討論(20%)にて評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に研究テーマに関する文献を検索し、関連文献リストをあらかじめ準備、学習し、演習により修得をする。	
教科書	使用しない。 必要に応じて資料を配布する。	
参考書	適宜紹介する。	
オフィス・アワー	電子メールにて対応。花田三四郎：hanada@paz.ac.jp 松岡雄一郎：matsuoka@paz.ac.jp	

履修条件・履修上の注意	事前学習、学术论文の理解、技術修得などを主体的に行うこと。
ナンバリング	ZSC-503



講義科目名称： 生体機能医工学特論

授業コード： M7060

英文科目名称： Advanced Biomedical Engineering

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
大濱 和也	湯本 真人		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 生体医工学の学問と歴史 臨床と工学の両面から医療機器開発を含めその歴史を学ぶ	大濱 和也
	第2回 臨床と生体機能代行機器 人体のしくみと生体機能代行	大濱 和也
	第3回 IABP① 構造と補助効果論ならびにバルーンの種類と特徴	大濱 和也
	第4回 IABP② 駆動信号処理法と装置内部構造、治療成績ならびに合併症と安全対策	大濱 和也
	第5回 PCPS① 流量補助装置の特徴と補助効果論。遠心ポンプの特徴	大濱 和也
	第6回 PCPS② カニューレ、人工肺、血液回路、治療成績ならびに合併症と安全対策	大濱 和也
	第7回 VAS① 流量補助装置の特徴と補助効果論、拍同型血液ポンプの種類と特徴ならびに連続流型血液ポンプの種類と特徴	大濱 和也
	第8回 VAS② 連続流型血液ポンプの種類・特徴および合併症と治療成績。	大濱 和也
	第9回 生命維持管理装置の有用性と問題点 人工心臓、人工呼吸器ならびに人工腎臓など	大濱 和也
	第10回 生体モニタリング機器 心電図、血圧計ならびにサチュレーションモニタ	湯本 真人
	第11回 生体検査機器① 脳波計と脳磁計	湯本 真人
	第12回 生体検査機器② MRI	湯本 真人
	第13回 生体情報収集と各種センサー VR技術	湯本 真人
	第14回 生命維持管理装置の適正使用と安全管理	湯本 真人
	第15回 医療用ロボット 医療現場で活躍するロボットと今後の展望（人工知能）	湯本 真人
科目の目的	<p>(概要) 生体機能医工学特論は、医学分野に工学的知識や技術を融合・創出した新しい学問分野である。本特論においては、人工心臓装置、人工呼吸器や血液透析装置などの生体機能代行装置を主題とし、センサやアクチュエータなどの要素技術を含む生体とのインターフェースから、個々の症例の病態生理学的評価に基づく、最適制御アルゴリズムの理解へとつながる、一連の生体機能医工学の基礎を学ぶ。また、生体機能代行装置について臨床と工学の両面から、その開発の歴史、現状での有用性と問題点を学び、本分野で指導的役割を果たすための基本的かつ統合的な知識と技術を習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(大濱 和也／8回) 臨床で用いられる生体機能代行装置の最新知見について学ぶ。</p> <p>(湯本 真人／7回) 生体機能計測・病態評価・最適制御の医工学の基礎を学ぶ。 【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】</p>	
到達目標	医学領域に工学知識および技術を導入する事で創出された新しい学問分野である。生命維持管理装置などを臨床と工学の両面からその開発の歴史、現状での有用性と問題点、さらには医療用ロボットを含む今後の展開を学ぶ。その結果として、当該分野における指導的役割を果たすため、基本的かつ統合的な臨床と工学知識力および技術力を身に付ける。	
成績評価方法・基準	レポート(80%)および討論(20%)を基に評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	生体機能の学習、医療機器開発手順(国際規格、国内規格)、それぞれの資料に60分程度の時間を掛け内容を理解をする。また、人工知能や医用ロボットに関する資料は基礎的な文献および参考資料を収集する。得た資料は60分程度の時間を掛け内容を理解する。	
教科書	教科書：なし、必要に応じて資料を配布する。	

参考書	参考書：なし、必要に応じて資料を配布する。
オフィス・アワー	電子メールにて対応する。大濱和也：oohama@paz.ac.jp、湯本真人：yumoto@paz.ac.jp
履修条件・履修上の注意	学部レベルの数学知識を必要とする。機械工学、システム制御論の基礎に関する知識を事前学習していることが望ましい。
ナンバリング	ZSC-504

講義科目名称： 生体機能医工学演習

授業コード： M7061

英文科目名称： Practice in Biomedical Engineering

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
大濱 和也	湯本 真人		

授業形態	講義及び演習	担当者
授業計画	第1回 オリエンテーション、生体医工学の歴史	大濱 和也
	第2回 生体機能代行装置における工学的知識に関する調査	大濱 和也
	第3回 生体機能代行装置における工学的知識に関する討論・発表	大濱 和也
	第4回 体外循環装置に関する抄読会	大濱 和也
	第5回 体外循環装置に関する討論・発表	大濱 和也
	第6回 呼吸療法装置に関する抄読会	大濱 和也
	第7回 呼吸療法装置に関する討論・発表	大濱 和也
	第8回 血液浄化装置に関する抄読会	大濱 和也
	第9回 血液浄化装置に関する討論・発表	大濱 和也
	第10回 生体計測機器に関する抄読会	湯本 真人
	第11回 生体計測機器に関する討論・発表	湯本 真人
	第12回 再生医療分野に関する抄読会（1）	湯本 真人
	第13回 再生医療分野に関する抄読会（2）	湯本 真人
	第14回 再生医療分野に関する討論・発表	湯本 真人
	第15回 生体医工学の未来について討論・発表	大濱 和也 湯本 真人
科目の目的	<p>（概要）「生体機能医工学特論」で習得した臨床工学の統合的な枠組みを基盤に、生体情報計測学（電磁気・光応用計測等）の基礎、あるいは臨床系の生体機能代行学（呼吸、循環ならびに代謝）から、より専門的な分野を選択し、課題を設定し国内外の文献を収集・文献輪読を通じた研究デザイン、研究計画、データ収集・処理ならびに論文執筆法など、問題解決のための一連の研究過程を実践的に学ぶ。また、討論等の演習形式を取り入れることで、より高度な理解を目指す。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（大濱 和也／8回） 生体機能代行装置の最新知見について学ぶ。</p> <p>（湯本 真人／7回） 臨床的な生体機能計測・解析技術を含め、基盤技術、臨床応用及び評価方法など学ぶ。 【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】</p>	
到達目標	生体安全・生体システム・生体信号処理および生体計測制御などの融合領域で、特別研究を進めるために高い専門性と最新の研究に基づく知識・理解力・討論のためのコミュニケーション能力、専門的技術力が必要である。そのため、少数グループで専門的教科書、教材を用いた輪講及び専門分野学術論文、国際会議資料などによる論文抄読会や特別研究に必要な装置の操作習熟プログラム作成などを進める。これにより、専門知識を高めるとともに、理解力、コミュニケーション能力および専門技術力を身につけることを目標とする。	
成績評価方法・基準	討論(100%)にて評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に研究テーマに関する文献を検索し、関連文献リストおよび修得をする。	
教科書	教科書：特になし、必要に応じて資料を配布する。	
参考書	参考書：特になし、必要に応じて資料を配布する。	

オフィス・アワー	電子メールにて対応。大濱和也 : oohama@paz. ac. jp、湯本真人 : yumoto@paz. ac. jp
履修条件・履修上の注意	事前学習、学术论文の理解、技術修得などを主体的に行うこと。
ナンバリング	ZSC-505

講義科目名称： 臨床工学特別研究

授業コード： M7062

英文科目名称： Clinical Engineering Thesis Guidance

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	10単位	選択
担当教員	担当者		
大瀨 和也・湯本 真人・花田 三四郎	松岡 雄一郎		

授業形態	演習	担当者
授業計画	2年次4月まで 研究活動の開始 1年次に設定した研究計画を基に研究活動を実施する 2年次4月から 研究活動の指導・補助 研究計画に沿って自主的に実験・研究を遂行する。 2年次8月 研究中間発表会 2年次10月 学位論文の草稿作成指導 2年次11月 学位論文及び学位論文審査申請書類の提出指導および予備審査 2年次2月 学位論文及び最終試験の可否審査、学位授与判定 2年次3月 博士前期課程修了	
科目の目的	<p>(概要) 特論、演習で学んだ知識、理論、技術に基づいて、指導教員の下で生体医工学に関連した内容について研究テーマを設定し、文献調査、研究計画の立案、研究結果の解析、分析を行う。研究課題の成果は修士論文としてまとめ、臨床工学領域における問題発見能力、問題設定能力及び問題解決能力を養う。</p> <p>(大瀨 和也) 医用危機管理システムの開発と応用に関する研究 医用材料の生体適合性に関する研究 透析液浄化に関する研究 通信システムの医療応用に関する研究 臨床工学関連の設計・設備に関する研究 臨床工学領域の臨床医学が優先する医療機器に関する研究</p> <p>(湯本 真人) 統計学習の神経生理 大脳誘発電位・磁場応答 事象関連電位・脳磁場計測 てんかん焦点の三次元局在</p> <p>(花田 三四郎) 組織工学的手法によるインビトロ三次元臓器形成法に関する研究 血管内皮細胞による再構成三次元血管を用いた血管新生に関する研究 非接触生体計測技術に関する研究</p> <p>【研究能力】</p>	
到達目標	臨床医学と臨床工学の融合領域における最新の研究動向を踏まえ、生体安全、生体システム、生体信号処理、生体情報計測における解決すべき問題点について指導と実践を行う。指導教員および副指導教員により臨床工学に関する研究計画を策定し、研究計画の下で実験や理論を展開し研究論文を仕上げる。この過程を通して当該分野の高度な専門知識と実験技術、自主的に計画的に研究を推進し、直面する問題を解決する能力および創造力を身につけることを目標とする。	
成績評価方法・基準	研究のオリジナリティーとアイデアの程度(30%)、修士論文の品質(30%)、成果物の品質(30%)、学会及び修士論文発表会での質疑応答(10%)より評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	研究テーマに関する他の研究を参照し、研究計画を立てておくこと。自身の研究に対する他研究の参照には十分な時間を掛けて行う。また、研究計画立案は最終目標時期から逆算し、十分な時間を掛けて行う。参照および研究立案は研究と平行してもかまわない。	
教科書	教科書：特になし 必要に応じて資料を配布する。	
参考書	参考書：特になし 必要に応じて提示する。	
オフィス・アワー	電子メールにて対応。大瀨和也：oohama@paz.ac.jp 湯本真人：yumoto@paz.ac.jp 花田三四郎：hanada@paz.ac.jp	
履修条件・履修上の注意	問題や課題の発見と解決を主体的に行い、研究遂行能力を養う。	

ナンバリング

ZSC-506

講義科目名称： 臨床工学特論

授業コード： M7063

英文科目名称： Advanced Clinical Engineering

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
大濱 和也	湯本 真人	花田 三四郎	松岡 雄一郎
	島崎 直也		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 生体機能代行装置の臨床的発展の歴史及び課題1 ガイダンス	大濱 和也
	第2回 生体機能代行装置の臨床的発展の歴史及び課題2	大濱 和也
	第3回 生体機能計測・病態評価・最適制御の医工学の臨床的な展開	湯本 真人
	第4回 人工臓器の工学的側面について1 歴史	花田 三四郎
	第5回 人工臓器の工学的側面について2 最新の知見	花田 三四郎
	第6回 臨床工学における流体力学	島崎 直也
	第7回 医療用ロボットにおける臨床工学	松岡 雄一郎
	第8回 画像検査・診断装置の原理	松岡 雄一郎
科目の目的	<p>(概要) 臨床工学は、工学的知識や技術を基盤に、臨床で用いられる医療機器の操作、設計、開発を行う学問分野で、高度な医療機器の発展とともに誕生した臨床工学技士は、検査やモニタリング機器、人工心臓及び多岐にわたる生命維持管理装置の操作・保守点検が任せられ、医学と工学の融合した高度な知識と技術が求められる。本科目では、臨床工学の歴史及び近年発展が著しい医療用ロボットや再生医療等を含む今後の展開を学ぶことで、臨床工学分野で指導的役割を果たすため必要となる医学と工学の横断的な知識を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(大濱 和也/2回) 生体機能代行装置の臨床的発展の歴史及び課題について学ぶ。</p> <p>(湯本 真人/1回) 生体機能計測・病態評価・最適制御の医工学の臨床的な展開を学ぶ。</p> <p>(花田 三四郎/2回) 人工臓器の工学的側面について歴史と最新の知見について学ぶ。</p> <p>(松岡 雄一郎/2回) 生体機能の工学的観点から、医療応用されるロボットや検査装置などの原理や技術などを学ぶ。</p> <p>(島崎 直也/1回) 流体力学に基づく流れのシミュレーション技術を応用した医用工学について学ぶ。 【実践能力】</p>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"><li>生体情報に関する基礎的知見を習得する。</li><li>特別研究を進めるための最新の研究に基づいた知識・理解力・討論のためのコミュニケーション能力を養う。</li></ul>	
成績評価方法・基準	研究論文の講読における知識習得度（80%）及び討論の内容（20%）を基に評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	生体情報に関する論文・資料を60分程度の時間を掛け内容を理解をする。基礎的な文献および参考資料を収集する。得た資料は60分程度の時間を掛け内容を理解する。	
教科書	使用しない	
参考書	適宜紹介する。	
オフィス・アワー	電子メールにて対応する。花田三四郎：hanada@paz.ac.jp 松岡雄一郎：matsuoka@paz.ac.jp 湯本真人：yumoto@paz.ac.jp 島崎直也：n-shimazaki 大濱和也：oohama@paz.ac.jp	
履修条件・履修上の注意		
ナンバリング	ZSC-507	

講義科目名称： 疫学特論

授業コード： M7064

英文科目名称： Advanced Epidemiology

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 博一			

授業形態	講義・討論ならびに演習	担当者
授業計画	第1回 疫学総論 疫学の概要を講義する。 第2-3回 新型コロナウイルス感染症の疫学 新型コロナウイルス感染症の最新疫学を講義する。 第4-5回 ノロウイルス感染症の疫学 ノロウイルス感染症の最新疫学を講義する。 第6-7回 インフルエンザの疫学 インフルエンザの最新疫学を講義する。 第8-9回 RSウイルス感染症の疫学 RSウイルス感染症の最新疫学を講義する。 第10-11回 ヒトレスピロウイルスの疫学 ヒトレスピロウイルス感染症の最新疫学を講義する。 第12-13回 麻疹・風疹の疫学 麻疹・風疹の最新疫学を講義する。 第14-15回 動脈硬化・糖尿病の疫学 動脈硬化・糖尿病の最新疫学を講義する。	木村博一 木村博一 木村博一 木村博一 木村博一 木村博一 木村博一 木村博一
科目の目的	疫学の基盤である集団を対象とした各疾患の発生原因や予防法などを学ぶ。【実践能力】	
到達目標	感染症や生活習慣病を中心とした記述疫学、分子疫学の概要を習得する。	
成績評価方法・基準	討論・演習内容(50%)ならびに当該科目の理解度(50%)から総合的に評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前配布資料等を予習すること。必要学習時間は1時間程度。	
教科書	配布資料を基に講義を行う。必要に応じて、参考書を使用。参考書は、木村(博)研究室に所蔵。	
参考書	「感染症疫学－感染性の計測・数学モデル・流行の構造」ヨハン ギセック(著)山本 太郎(訳)門司和彦(訳) (昭和堂) 「社会・環境と健康 公衆衛生学 2022年版」柳川 洋、尾島 俊之 編集 (医歯薬出版)	
オフィス・アワー	各講義前後に担当教員が口頭にて質問を受け付ける(木村博一：h-kimura@paz.ac.jp)。	
履修条件・履修上の注意	授業中、携帯電話使用不可	
ナンバリング	ZSH-501	



講義科目名称： 生物統計学特論

授業コード： M7065

英文科目名称： Advanced Biostatistics

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 朗	加茂 智彦		

授業形態	講義	担当者
授業計画	1回 臨床研究デザインと生物統計手法 生物統計における疫学前置主義	木村 朗
	2回 臨床研究デザインと記述統計、推測統計	木村 朗
	3回 公衆衛生学的アプローチと生物統計手法1 パラメトリック手法	木村 朗
	4回 公衆衛生学的アプローチと生物統計手法2 ノンパラメトリック手法 多重比較法の応用	木村 朗
	5回 因果グラフ分析1 因果推定論1 数理統計による回帰モデルの概説	木村 朗
	6回 因果グラフ分析2 因果推定論2 回帰分析 線形代数による回帰モデルの概説 行列とベクトルによるd次回帰 自由度調整済み決定係数 正則性と多重共線性	木村 朗
	7回 因果探索における行列データと制約条件の応用1 生物統計における対数化 回帰モデルにおける誤差項の偏微分と連立方程式 回帰モデルのパラメータを求めるための数理統計	木村 朗
	8回 因果探索における行列データと制約条件の応用2	木村 朗
	9回 確率分布の応用1 確率関数	加茂智彦
	10回 確率分布の応用2 確率密度関数	加茂 智彦
	11回 回帰モデル1 医療・保健データに対する重回帰モデルのあらまし ベイズ統計手法による回帰モデル PCによる演習	加茂 智彦
	12回 回帰モデル2 医療・保健データに対するロジスティック回帰モデルのあらまし マルチモデル パネルデータ解析 PCによる演習	加茂 智彦
	13回 生存時間解析1 PCによる演習	加茂 智彦
	14回 生存時間解析2 微分方程式を用いたSIRモデルのあらまし PCによる演習	加茂 智彦
	15回 寿命推定法 生物統計学手法に関するトピックスについて（学生による資料作成とプレゼンテーション） ガンマ分布を用いた寿命推定他 トピックス	木村 朗
科目の目的	公衆衛生学的アプローチを念頭に、問題事象に関するデータの分析をするための基本的統計理論および、適切な統計手法の適応について学ぶ。また、生物・医療統計の基礎となる回帰モデル、生存時間解析といった発展的手法を統計ソフト、シンタックスの操作について理解する。【実践能力】	
到達目標	1 データの分析をするための基本的統計手法について説明できるようになる 2 データの分析をするための基本的統計手法について、統計ソフトウェアを選択して実際に操作できるようになる 3 臨床・生物統計・疫学データの分析を行っている研究論文における手法の適否を評価できるようになる	
成績評価方法・基準	試験（50%）資料作成およびプレゼンテーション（50%）但し、統計検定2級資格を取得している場合、試験は免除する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義1時間に対し、予習復習3時間を目安とする。統計検定2級程度の知識を前提とするので、不足する場合、各自補充して臨むこと。	
教科書	ハーバード大学生物統計学 丸善	
参考書	必要な場合、授業で資料を配布	
オフィス・アワー	講義日の授業終了後15分 (a-kimura@paz.ac.jp)	
履修条件・履修上の注意		

ナンバリング

ZSH-502

講義科目名称：健康行動科学特論

授業コード：M7066

英文科目名称：Advanced Health Behavioral Science

対象カリキュラム：2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
小林 亜由美			

授業形態	講義・演習	担当者
授業計画	第1回 健康行動に関するエビデンスと施策（総論） オリエンテーション、最近の動向	小林 亜由美
	第2回 健康行動に関する研究と支援の実際1 母子に関する研究	小林 亜由美
	第3回 健康行動に関する研究と支援の実際2 成人に関する研究	小林 亜由美
	第4回 健康行動に関する研究と支援の実際3 高齢者に関する研究	小林 亜由美
	第5回 健康行動に関する研究と支援の実際4 研究課題に通じる健康行動に関する研究1（英文抄読とプレゼンテーション、ディスカッション）	小林 亜由美
	第6回 健康行動に関する研究と支援の実際5 研究課題に通じる健康行動に関する研究2（英文抄読とプレゼンテーション、ディスカッション）	小林 亜由美
	第7回 健康行動に関する研究と支援の実際6 研究課題に通じる健康行動に関する研究3（英文抄読とプレゼンテーション、ディスカッション）	小林 亜由美
	第8回 健康行動に関する研究と支援の実際7 研究課題に通じる健康行動に関する研究4（英文抄読とプレゼンテーション、ディスカッション）	小林 亜由美
	第9回 健康行動に関する研究と支援の実際8 研究課題に通じる健康行動に関する研究5（英文抄読とプレゼンテーション、ディスカッション）	小林 亜由美
	第10回 健康行動に関する研究と支援の実際9 研究課題に通じる健康行動に関する研究6（英文抄読とプレゼンテーション、ディスカッション）	小林 亜由美
	第11回 健康行動に関する研究と支援の実際10 研究課題に通じる健康行動に関する研究7（英文抄読とプレゼンテーション、ディスカッション）	小林 亜由美
	第12回 健康行動に関する研究と支援の実際11 研究課題に通じる健康行動に関する研究8（英文抄読とプレゼンテーション、ディスカッション）	小林 亜由美
	第13回 健康行動に関する研究と支援の実際12 研究課題に通じる健康行動に関する研究9（英文抄読とプレゼンテーション、ディスカッション）	小林 亜由美
	第14回 健康行動に関する研究と支援の実際13 研究課題に通じる健康行動に関する研究10（英文抄読とプレゼンテーション、ディスカッション）	小林 亜由美
	第15回 まとめ 健康行動に関する研究結果を活用した支援と今後の課題について	小林 亜由美
科目の目的	様々な対象領域における健康行動と健康への影響について論文を紹介しながら、最近のトレンドや研究結果を共有する。また、研究のベースになる理論や具体的手法、研究結果を活用した支援の実際について学ぶ。【実践能力】	
到達目標	1) 健康行動と健康に関する最近の研究動向について説明できる。 2) 健康行動と健康に関する研究のベースになる理論や研究手法について説明できる。 3) 健康行動と健康に関する論文を読み、専門分野の異なる人々との意見交換を通して新しい視点を見いだす。 4) 自身の研究課題につながる健康行動に関する英語論文を読み、専門分野の異なる人々に説明できる。	
成績評価方法・基準	プレゼンテーション25%、解説資料25%、ディスカッション25%、レポート25%	

準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業ごとに担当者を割り振り、担当者は最近のトレンドや関心の高いものから論文を選ぶ。論文のベースになる理論や具体的手法、研究結果の解釈等についてディスカッションできるよう、担当者を中心に準備をして授業に臨む。1回の授業あたり平均5時間の学習時間が必要である。
教科書	特になし。その都度、扱う文献を配布する。
参考書	特になし
オフィス・アワー	小林亜由美（研究室326） 随時またはメール（a-kobayashi@paz.ac.jp）
履修条件・履修上の注意	担当者は、担当する授業の1週間前までに扱う論文を配布してください。解説資料については、授業前までに配布できるよう準備しておいてください。担当者以外の方は、論文を読んで質問事項をまとめて授業に参加してください。
ナンバリング	ZSH-503

講義科目名称： 環境保健学特論

授業コード： M7067

英文科目名称： Advanced Environmental Health

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
西菌 大実			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 環境保健学特論の目的と概要 授業方法・評価に関するガイダンス、環境と健康・疾病に関する基礎的理解と到達目標	西菌 大実
	第2回 地球環境がもたらした人類の発生と進化 人間にとってそもそも望ましい環境とは何かを考える	西菌 大実
	第3回 生態系の主要生産物としての食料とその安全性 人間の生存と健康維持に不可欠な食の要素とリスクについて考察する	西菌 大実
	第4回 環境汚染 生態系を攪乱する有害物質について理解する	西菌 大実
	第5回 典型7公害 有害物質拡散や騒音・振動による健康被害について学ぶ	西菌 大実
	第6回 大気環境の維持と健康 健康維持に不可欠なきれいな空気を維持するためのポイントについて学ぶ	西菌 大実
	第7回 水域環境の維持と健康 健康維持に不可欠なきれいな水を維持するためのポイントについて学ぶ	西菌 大実
	第8回 地球環境問題と健康の原点（1） 「沈黙の春」（レイチェル・カーソン）の意味することを考える	西菌 大実
	第9回 地球環境問題と健康の原点（2） 1980年代に顕在化したオゾン層破壊による人々の意識変化について学ぶ	西菌 大実
	第10回 現代社会における環境と健康の捉え方 健康を実現するための社会の在り方を示す3つのキーワード／カーボンニュートラル、ネイチャーポジティブ、サーキュラーエコノミーを知る	西菌 大実
	第11回 カーボンニュートラルと健康 気候変動下で健康を維持する方策を考察する	西菌 大実
	第12回 ネイチャーポジティブと健康 生物多様性の失われつつある環境下での自然共生を考える	西菌 大実
	第13回 サーキュラーエコノミーと健康 衛生管理に不可欠なごみ問題から資源循環型社会への展開を考える	西菌 大実
	第14回 SDG s とウェルビーイング 国連が提唱するSDG s（持続可能な開発）が目指すウェルビーイングの実現を理解する	西菌 大実
	第15回 まとめ 現代社会において健康を維持できる環境づくりのポイントについて整理する	西菌 大実
科目の目的	保健医療専門職として、環境が外的な要因として人の健康に影響を及ぼすことを理解し、科学的根拠及び高い倫理観に基づいて現代の環境課題の探求・解決を図る研究能力を育てる。【実践能力】	
到達目標	人の健康に影響を与える社会的環境要因、物理化学的環境要因について科学的に捉えることができる。 人に直接の健康被害をもたらす公害問題の原因や対策について科学的に説明することができる。 現代社会の最重要環境課題であるサステナビリティ（持続可能性）達成のための3つのキーワード／カーボンニュートラル（脱炭素）・ネイチャーポジティブ（生物多様性・自然共生）・サーキュラーエコノミー（循環経済）と人の健康との関係を科学的に捉えることができる。	
成績評価方法・基準	授業中に課すレポート／リアクションペーパー（30%）、期末最終課題レポート（70%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	前回までの授業内容の復習及び環境と健康に関する情報を検索収集し、次の授業に問題意識を持って受講することをこころがける。準備学習に必要な学習時間の目安は1コマ当たり4時間。	
教科書	資料配布	
参考書	授業中に提示	
オフィス・アワー	授業前後（場所：非常勤講師室）	
履修条件・履修上の注意		
ナンバリング	ZSH-504	



講義科目名称： 健康・医療政策特論

授業コード： M7068

英文科目名称： Advanced Health Policy

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
星野 修平			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回-7回 保健医療福祉における法律・制度・生活様式の与える影響について	星野修平
	8回-14回 保健医療福祉における政策展開における課題とその対応について	星野修平
	第15回 総論	星野修平
科目の目的	医療や保健活動は、エビデンスに基づく医学的知識、最新の科学技術による医療適応など医科学的な側面に裏打ちされているが、現実の世界では、様々な法律・制度・生活様式に依存して、その活動内容が策定され、実施される。健康・医療・福祉に関する行政・経済・政治や社会環境などの側面から、保健・医療・福祉分野における政策について概観し、健康・医療・福祉政策の具体的な方策、政策展開における課題とその対応について学ぶ。講義では、具体的なケーススタディを題材にして、法律・条例・ガイドラインなどに基づく制度設計をグループワーク形式で討論し、基礎知識と政策応用を学ぶ。【実践能力】	
到達目標	1 保健・医療・福祉分野における政策提案ができる。 2 保健医療における実践的活用方法として、法律・条例・ガイドラインなどに基づく制度設計と政策応用についてその意義を説明できる。	
成績評価方法・基準	講義・演習への取り組みと学習状況（50%）、レポート提出課題（50%）の総合点による評価	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習 120分、事後学習120分	
教科書	特に指定しない	
参考書	特に指定しない	
オフィス・アワー	授業開始前、授業後を基本とするが、E-mailでの相談を受け付ける。 面談を希望する場合は、予め担当教員にE-mailにて、予約を行うことが望ましい。	
履修条件・履修上の注意		
ナンバリング	ZSH-505	

講義科目名称： 公衆衛生学研究方法論

授業コード： M7069

英文科目名称： Research Methodology in Public Health

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
木村 博一	矢島 正栄	木村 朗	星野 修平

授業形態	講義・討論ならびに演習	担当者
授業計画	第1回 イントロダクション・感染症疫学分野の研究論文から学ぶ研究方法論 本科目の導入ならびに感染症疫学分野の研究論文から、公衆衛生学分野の研究論文を学ぶ。	木村博一
	第2回 アレルギー疾患に関する疫学研究論文から学ぶ研究方法論 アレルギー疾患（特に喘息）の研究論文から、公衆衛生学分野の研究論文を学ぶ。	木村博一
	第3回 公衆衛生看護学に関する研究論文から学ぶ研究方法論 公衆衛生看護学の研究論文から、公衆衛生学分野の研究論文を学ぶ。	矢島正栄
	第4回 健康行動科学に関する疫学研究論文から学ぶ研究方法論 健康行動科学の研究論文から、公衆衛生学分野の研究論文を学ぶ。	矢島正栄
	第5回 脳卒中3次予防の疫学研究分野の論文から学ぶ研究方法論 脳卒中のリハビリテーションに関する研究論文から、公衆衛生学分野の研究論文を学ぶ。	木村朗
	第6回 産業保健学の疫学研究分野の論文から学ぶ研究方法論 産業保健学の疫学研究論文から、公衆衛生学分野の研究論文を学ぶ。	木村朗
	第7回 放射線疫学領域の研究論文から学ぶ研究方法論 放射線疫学に関する研究論文から、公衆衛生学分野の研究論文を学ぶ。	星野修平
	第8回 環境保健学領域の疫学研究から学ぶ研究方法論 環境保健学に関する研究論文から、公衆衛生学分野の研究論文を学ぶ。	星野修平
科目の目的	公衆衛生学領域で研究を遂行する際に必要な知識、技術ならびにエビデンスに基づく分析能力を獲得する。【研究能力】	
到達目標	公衆衛生学主要領域において、エビデンスを基盤とする研究方法を獲得する。	
成績評価方法・基準	討論・演習内容(50%)ならびに当該科目の理解度(50%)から総合的に評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前配布資料等を予習すること。必要学習時間は1時間程度。	
教科書	各教員の配布資料等を講義に用いる。	
参考書	各教員の配布資料等を講義に用いる。	
オフィス・アワー	各講義終了後に担当教員が口頭にて質問を受け付ける。 木村博一：h-kimura@paz.ac.jp 矢島正栄：yajima@paz.ac.jp 木村朗：a-kimura@paz.ac.jp 星野修平：s-hoshino@paz.ac.jp	
履修条件・履修上の注意	授業中、携帯電話使用不可	
ナンバリング	ZSH-506	



講義科目名称： 感染症疫学・感染制御学特論

授業コード： M7070

英文科目名称： Advanced Infection Epidemiology and Infectious Disease Control

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 博一			
授業形態	講義・討論ならびに演習		担当者
授業計画	第1-2回	病原体ゲノム解析学総論I ウイルスゲノムの構造の特徴および検査法の種類を概説する。	木村博一
	第3-4回	病原体ゲノム解析学総論II ウイルスゲノムの機能を概説する。	木村博一
	第5-6回	病原体ゲノム学解析学総論III 細菌ゲノムの構造と機能を概説する。	木村博一
	第7-8回	呼吸器ウイルスゲノム解析学各論I (インフルエンザウイルス) インフルエンザウイルスゲノムの構造、機能および検査法を概説する。	木村博一
	第9-10回	呼吸器ウイルスゲノム解析学各論II (RSウイルス) RSウイルスゲノムの構造、機能および検査法を概説する。	木村博一
	第11-12回	呼吸器ウイルスゲノム解析学各論III (レスピロウイルス) レスピロウイルスゲノムの構造、機能および検査法を概説する。	木村博一
	第13-14回	呼吸器ウイルスゲノム解析学各論IV (ライノウイルス) ライノウイルスゲノムの構造、機能および検査法を概説する。	木村博一
	第15回	下痢症ウイルスゲノム解析学 ノロウイルスGI/GIIゲノムの構造、機能および検査法を概説する。	木村博一
科目の目的	感染症学特論の知識・技術、感染症の原因究明法などについて学ぶ。【実践能力】 【指導能力及び調整能力】 【教育能力】 【研究能力】		
到達目標	実践的感染症学特論の知識・技術ならびに感染症の原因究明法を習得する。		
成績評価方法・基準	討論・演習内容(50%)ならびに当該科目の理解度(50%)から総合的に評価する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前配布資料等を予習すること。必要学習時間は1時間程度。		
教科書	配布資料等		
参考書	配布資料等		
オフィス・アワー	各講義終了後に担当教員が口頭にて質問を受け付ける(木村博一：h-kimura@paz.ac.jp)。		
履修条件・履修上の注意	授業中、携帯電話使用不可		
ナンバリング	ZSH-507		

講義科目名称： 感染症疫学・感染制御学演習

授業コード： M7071

英文科目名称： Practice in Infection Epidemiology and Infectious Disease Control

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 博一			
授業形態	演習（4号館10階大学院研究室にて行う）		担当者
授業計画	第1-2回	バイオインフォマティクス総論 バイオインフォマティクス解析法の概要を講義する。	木村博一
	第3-4回	病原体塩基配列アライメント解析演習 細菌・ウイルス由来塩基配列のアライメント演習を行う。	木村博一
	第5-6回	系統学的距離解析演習 RSウイルスF遺伝子塩基配列を基盤とするPhylogenetic Distance解析を行う。	木村博一
	第7-9回	最尤法系統樹解析演習 RSウイルスF遺伝子塩基配列を基に最尤法による分子系統樹解析演習を行う。	木村博一
	第10-12回	ベイジアン・マルコフ鎖モンテカルロ法（MCMC法）による時系列系統解析演習 RSウイルスF遺伝子塩基配列を基にMCMC法による時系列分子系統樹解析演習を行う。	木村博一
	第13-15回	ベイジアン・スカイラインプロット（BSP）解析演習 RSウイルスF遺伝子塩基配列を基にBSP法によるゲノムポピュレーション解析演習を行う。	木村博一
科目の目的	先端感染制御学の知識・技術、病原体ゲノム網羅解析法、病原体ゲノム定量法や分子疫学解析法（ベイジアン・マルコフ鎖モンテカルロ法・最尤法など）を駆使し、原因不明の重症感染症の病原体検索に関する演習を行う。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】		
到達目標	先端バイオインフォマティクス技術による病原体遺伝子解析法を習得する。		
成績評価方法・基準	演習結果(100%)から総合的に評価する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前配布資料等を予習すること。必要学習時間は1時間程度。		
教科書	配布資料等		
参考書	配布資料等		
オフィス・アワー	各演習終了後に担当教員が口頭にて質問を受け付ける（木村博一：h-kimura@paz.ac.jp）。		
履修条件・履修上の注意	演習中、携帯電話使用不可		
ナンバリング	ZSH-508		

講義科目名称： 公衆衛生看護学特論

授業コード： M7072

英文科目名称： Advanced Public Health Nursing

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
矢島 正栄	奥野 みどり		

授業形態	講義および演習（ディスカッション）15回	担当者
授業計画	第1-2回 公衆衛生看護の理念 第3-4回 公衆衛生看護の歴史 第5-8回 公衆衛生看護における対象理解 第9-10回 公衆衛生看護の技術 第11-14回 公衆衛生看護の展開方法 第15回 公衆衛生看護と倫理	矢島正栄 矢島正栄 矢島正栄、 奥野みどり 矢島正栄 矢島正栄、 奥野みどり 矢島正栄
科目の目的	公衆衛生看護の理念、歴史、公衆衛生看護活動を行う上で必須となる理論、知識、技術を踏まえ、地域社会の健康課題を個人、家族およびコミュニティが自らの健康やQOLを高める能力の向上と対象を取り巻く環境の改善により、解決する方法について探究する。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】	
到達目標	1. 公衆衛生看護の理念と歴史的背景を踏まえて、現代社会における公衆衛生看護の役割、方向性について意見を述べることができる。 2. 公衆衛生看護に用いられる基本技術、活動の展開方法を説明できる。 3. 公衆衛生看護の倫理について理解し、意見を述べることができる。	
成績評価方法・基準	ディスカッションの内容：30%、 レポート：70%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	配布資料、指定された文献を読んで参加してください。1コマにつき4時間程度の事前学習を求めます。	
教科書	指定しない	
参考書	指定しない	
オフィス・アワー	矢島正栄：月～金曜日 17:00～19:00（研究室328） yaajima@paz.ac.jp 奥野みどり：月～金曜日 17:00～19:00（研究室327） okuno@paz.ac.jp	
履修条件・履修上の注意		
ナンバリング	ZSH-509	

講義科目名称： 公衆衛生看護学演習

授業コード： M7073

英文科目名称： Practice in Public Health Nursing

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
矢島 正栄	奥野 みどり		

授業形態	演習15回		担当者
授業計画	第1-6回	公衆衛生看護学の重要な論点と公衆衛生看護学領域で用いられる研究手法（文献抄読）	矢島正栄、 奥野みどり 矢島正栄、 奥野みどり 矢島正栄、 奥野みどり 矢島正栄、 奥野みどり
	第7-10回	地域診断演習	
	第11-14回	施策化、ケアシステム形成演習	
	第15回	公衆衛生看護学における研究の展望（ディスカッション）	
科目の目的	実際の組織や地域を対象に健康課題とその背景要因を明確化し、解決のために地域の複合的なシステムに働きかけていく方略を計画することを通して、地域の健康課題解決に必要な知識と論理的・科学的思考力を修得する。また、公衆衛生看護の領域で重要な論点および問題を解明するための研究的な手法についての理解を深める。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】		
到達目標	1. 公衆衛生看護の領域で重要な論点及び研究手法について文献から学び、発表できる。 2. 実際の地域を対象に、地域診断の手法を用いて健康課題とその背景要因を探求できる。 3. 実際の地域を対象に、健康課題の解決のために地域の複合的なシステムに働きかけていく方略を計画できる。 4. 2. 3. のプロセスから公衆衛生看護学研究として取り組む必要のある課題を見出し、発表することができる。		
成績評価方法・基準	発表・ディスカッションの内容60%、レポート40%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	発表準備、配布資料・指定された文献の精読 1コマにつき4時間程度の準備学習時間を求めます。		
教科書	指定しない		
参考書	指定しない		
オフィス・アワー	矢島正栄：月～金曜日 17:00～19:00（研究室328） yajima@paz.ac.jp 奥野みどり：月～金曜日 17:00～19:00（研究室327） okuno@paz.ac.jp		
履修条件・履修上の注意			
ナンバリング	ZSH-510		

講義科目名称： 身体活動疫学特論

授業コード： M7074

英文科目名称： Advanced Physical Activity Epidemiology

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 朗			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 身体活動疫学の定義 身体活動と運動・行動の相違	木村 朗
	第2回 各種研究方法と身体活動疫学 身体活動測定装置	木村 朗
	第3回 身体活動疫学指標の評価方法と利活用 歩数計のしくみ 歩数計からウェアラブルセンサーに至る歴史	木村 朗
	第4回 心疾患と身体活動疫学	木村 朗
	第5回 肥満と身体活動疫学	木村 朗
	第6回 糖尿病と身体活動疫学	木村 朗
	第7回 異常脂質症と身体活動疫学	木村 朗
	第8回 脳血管疾患と身体活動疫学	木村 朗
	第9回 癌と身体活動疫学	木村 朗
	第10回 怪我と身体活動疫学	木村 朗
	第11回 骨粗鬆症と身体活動疫学	木村 朗
	第12回 身体活動疫学の研究デザイン1 臨床疫学と身体活動 生態学的研究 観察研究	木村 朗
	第13回 身体活動疫学の研究デザイン2 臨床疫学と身体活動 観察研究 横断研究	木村 朗
	第14回 身体活動疫学の研究デザイン3 臨床疫学と身体活動 観察研究 縦断研究	木村 朗
	第15回 身体活動疫学の研究デザイン4 臨床疫学と身体活動 実験研究 フィールド実験・実装研究	木村 朗
科目の目的	学習者が、身体活動を軸とした公衆衛生活動において身体活動と症候群、疾病、健康状態の低下の発生頻度や確率、寿命との関係性を理解し、健康教育の実践において生かせるようになることを目的とする。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】	
到達目標	1. データに基づき身体活動と症候群、疾病、健康状態の低下の発生頻度や確率を具体的に示すことができるようになること。 2. 寿命と身体活動の関係性を理解し、健康教育の実践において生かせるようになること。 3. 身体不活動や坐位行動時間による健康リスクについて説明でき、根拠に基づく予防対策について述べるこゝができるようになること。	
成績評価方法・基準	身体活動疫学に関するレポート課題 (100%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	本講義1コマに対し、予習2時間および復習2時間の自己学習を要する。	
教科書	教科書:身体活動学入門 (三共出版) 教科書:Physical Activity Epidemiology(kineteics)	
参考書	特になし	
オフィス・アワー	時間：各講義終了時間の休み時間 場所：木村朗研究室613 (a-kimura@paz.ac.jp)	
履修条件・履修上の注意		
ナンバリング	ZSH-511	

講義科目名称： 身体活動疫学演習

授業コード： M7075

英文科目名称： Practice in Physical Activity Epidemiology

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 朗	目黒 力		

授業形態	講義および演習	担当者
授業計画	第1回 都市・生活環境及び移動アクセシビリティ向上のための環境制御 1 集団の身体活動を含む健康生活を支える地域交通システムのあらまし	目黒 力
	第2回 都市・生活環境及び移動アクセシビリティ向上のための環境制御 2 集団の身体活動を含む健康生活を支える地域交通システムにおける課題	目黒 力
	第3回 都市・生活環境及び移動アクセシビリティ向上のための環境制御 3 集団の身体活動を含む健康生活を支える地域交通システムにおける課題に対する基本的対策	目黒 力
	第4回 都市・生活環境及び移動アクセシビリティ向上のための環境制御 4 集団の身体活動を含む健康生活を支える地域交通システムにおける課題に対する対策の変遷	目黒 力
	第5回 都市・生活環境及び移動アクセシビリティ向上のための環境制御 5 群馬県を例にした集団の身体活動を含む健康生活を支える地域交通システムにおける課題に対する対策の変遷	目黒 力
	第6回 郊外地域・都市・生活環境及び情報アクセシビリティ向上による健康リスク軽減計画立案実施過程の理解 1 Walkabilityのあらましを学び、フィールド研究プロジェクト実施計画書 概要を読み、現場（可能な場合）での照会を通じた学習	木村 朗
	第7回 郊外地域・都市・生活環境及び情報アクセシビリティ向上による健康リスク軽減計画立案実施過程の理解 2 Walkabilityを考慮したフィールド研究プロジェクト実施計画書 データ定義書を読み、現場（可能な場合）での照会を通じた学習	木村 朗
	第8回 郊外地域・都市・生活環境及び情報アクセシビリティ向上による健康リスク軽減計画立案実施過程の理解 3 Walkabilityを考慮したフィールド研究プロジェクト実施計画書 測定・調査項目を読み、現場（可能な場合）での照会を通じた学習	木村 朗
	第9回 郊外地域・都市・生活環境及び情報アクセシビリティ向上による健康リスク軽減計画立案実施過程の理解 4 Walkabilityを考慮したフィールド研究プロジェクト実施計画書 介入項目を読み、現場（可能な場合）での照会を通じた学習	木村 朗
	第10回 郊外地域・都市・生活環境及び情報アクセシビリティ向上による健康リスク軽減計画立案実施過程の理解 5 Walkabilityを考慮したフィールド研究プロジェクト実施計画書 実施後報告について、現場（可能な場合）での照会を通じた学習	木村 朗
	第11回 身体活動支援とヘルスコミュニケーション ヘルスコミュニケーションのあらまし	木村 朗
	第12回 ヘルスコミュニケーションと身体活動に関連する健康課題	木村 朗
	第13回 成人保健における身体活動分野におけるヘルスコミュニケーションの実践例 生命保険会社が開始した遠隔的に加速度計を用いた集団に対するヘルスコミュニケーションの効果をもとにしたディスカッションを行う	木村 朗
	第14回 ヘルスコミュニケーションと身体活動に関連する研究例に対する批判的考証 ヘルスコミュニケーションと身体活動健康課題に関連する研究論文についてディスカッションを行う	木村 朗
	第15回 身体活動と関連する健康課題を抱える集団に対するヘルスコミュニケーション技法を用いた実践計画立案 演習課題として身体活動と関連する健康課題を抱える集団に対するヘルスコミュニケーション技法を用いた実践計画立案を作成する	木村 朗
科目の目的	身体活動と関連する健康課題を抱える集団・地域における、個人、集団・生活環境（場所）・時間という疫学手法の枠組みから問題を特定し、交通システム、生活環境、健康教育、情報環境が及ぼす健康課題への影響を理解し、健康教育、政策提案に生かす説明ができるようになること。【実践能力】 【指導能力及び調整能力】 【教育能力】 【研究能力】	

到達目標	1 実際に健康課題を抱える集団事例の身体活動性を軸にした生活環境・健康教育などの効果検証方法が説明できるようになること 2 身体活動疫学研究における集団・地域の健康課題と生活環境情報・健康教育の影響について説明できるようになること。
成績評価方法・基準	身体活動疫学を主とする公衆衛生学における研究課題に対する医療福祉職の立場及び公衆衛生専門家の立場からのミクロまたはマクロ対策提示能力についてレポート（100%）を用いて評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	本講義1コマに対し、基礎知識がある場合、予習2時間および復習2時間の自己学習を要する。
教科書	これからのヘルスリテラシー健康を決める力、中山和弘、講談社
参考書	特になし 必要に応じて紹介する
オフィス・アワー	講義日の授業終了後15分。木村朗研究室(a-kimura@paz.ac.jp) 目黒研究室(meguro@paz.ac.jp)
履修条件・履修上の注意	
ナンバリング	ZSH-512

講義科目名称： 保健医療情報学特論

授業コード： M7076

英文科目名称： Advenced Health Care Informatics

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
星野 修平			

授業形態	講義と演習	担当者
授業計画	第1回 保健医療福祉における政策及び教育リーダーに必要なマネジメント、政策立案、実践方法 医療情報科学 第2回 健康医療福祉政策学 第3回 保健医療福祉における政策及び教育リーダーに必要なマネジメント、政策立案、実践方法 医療安全管理学 第4回 保健医療福祉における政策及び教育リーダーに必要なマネジメント、政策立案、実践方法 リスクマネジメント学 第5-10回 行政、検診機関、保健医療介護福祉施設における具体的な制度設計、政策立案 保健医療政策におけるモデル化 第11-14回 保健医療福祉における計画立案と調整 保健医療政策における計画立案演習 第15回 総論	
科目の目的	医療情報科学、健康医療福祉政策学、医療安全管理学、リスクマネジメント学などを基盤として、保健医療福祉における政策及び教育リーダーに必要なマネジメント、政策立案、実践方法を学ぶ。行政、検診機関、保健医療介護福祉施設における具体的な制度設計、政策立案をモデル化し、必要な行政的知識、組織運営、環境整備などの実践的技術を駆使し、計画立案と調整について学ぶ。 【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】	
到達目標	保健医療福祉における政策及び教育リーダーに必要なマネジメント、政策立案、実践方法について理解する。 保健医療福祉における制度設計、政策立案をモデル化し、必要な計画立案と調整スキルを習得する。	
成績評価方法・基準	講義・演習への取り組みと学習状況（50%）、レポート提出課題（50%）の総合点による評価	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前120分、事後120分	
教科書	特に指定しない	
参考書	特に指定しない	
オフィス・アワー	授業開始前、授業後を基本とするが、E-mailでの相談を受け付ける。面談を希望する場合は、予め担当教員にE-mailにて、予約を行うことが望ましい。	
履修条件・履修上の注意		
ナンバリング	ZSH-513	



講義科目名称：保健医療情報学演習

授業コード：M7077

英文科目名称：Practice in Health Care Informatics

対象カリキュラム：2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
星野 修平			

授業形態	講義と演習	担当者
授業計画	第1-5回 保健医療福祉における政策及び教育リーダーに必要なマネジメント、政策立案、実践方法の先行研究 医療情報科学 第2回 健康医療福祉政策学 第3回 保健医療福祉における政策及び教育リーダーに必要なマネジメント、政策立案、実践方法 医療安全管理学 第4回 保健医療福祉における政策及び教育リーダーに必要なマネジメント、政策立案、実践方法 リスクマネジメント学 第5-10回 行政、検診機関、保健医療介護福祉施設における具体的な制度設計、政策立案とモデル化の実践 保健医療政策におけるモデル化 第11-14回 保健医療福祉における計画立案と調整と実践 保健医療政策における計画立案演習 第15回 総論	
科目の目的	政策教育リーダー育成特論C（医療情報科学、健康医療福祉政策学、医療安全管理学、リスクマネジメント学など）で獲得した知識、技術をもとに、仮想的に政策提言案を策定し、その作成過程における制度設計、人的運用、組織化を通して課題を抽出する。また得られた課題を分析し、問題解決能力と保健医療福祉政策における意思決定プロセスを学ぶ。【実践能力】【指導能力及び調整能力】【教育能力】【研究能力】	
到達目標	保健医療福祉における政策及び教育リーダーに必要なマネジメント、政策立案、実践方法について理解し政策提言案を策定できる。	
成績評価方法・基準	講義・演習への取り組みと学習状況（50%）、レポート提出課題（50%）の総合点による評価	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前120分、事後120分	
教科書	特に指定しない	
参考書	特に指定しない	
オフィス・アワー	授業開始前、授業後を基本とするが、E-mailでの相談を受け付ける。面談を希望する場合は、予め担当教員にE-mailにて、予約を行うことが望ましい。	
履修条件・履修上の注意		
ナンバリング	ZSH-514	

講義科目名称： 公衆衛生学特別研究

授業コード： M7078

英文科目名称： Public Health Thesis Guidance

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	10単位	選択
担当教員	担当者		
木村 博一・矢島 正栄・木村朗・星野 修平			

授業形態	講義・討論、演習ならびに実験	担当者
授業計画	1年次 4月～9月 指導教員と研究計画書作成 設定したテーマについて研究計画書を作成する。	木村博 矢島 木村朗 星野
	1年次 10月～3月 大学研究倫理審査委員会審査、研究活動の展開指導と進捗状況確認 設定したテーマについて大学の研究倫理審査委員会での承認を得る。 研究計画に沿って自主的に実験・研究を遂行する。	木村博 矢島 木村朗 星野
	2年次 6月 研究中間発表会 研究中間報告会を実施しながらディスカッションを行い、データ解析の仕方や考え方を学ぶ。	木村博 矢島 木村朗 星野
	2年次 ～10月 各指導教員による学位論文の草稿に関する指導 図表作成の仕方、論文の書き方などを学び、修士論文の完成に向け、関連文献の検索を行うとともに、研究目的、方法、結果ならびに考察のまとめを行う。	木村博 矢島 木村朗 星野
	2年次 ～11月 学位論文及び学位論文審査申請書類の指導	木村博 矢島 木村朗 星野
	2年次 1月 予備審査 主・副審査委員による予備審査	木村博 矢島 木村朗 星野
	2年次 2月 公開審査及び最終試験 公開審査による公開審査および最終試験	木村博 矢島 木村朗 星野
	2年次 2月 研究科委員会にて学位論文・最終試験の可否審査ならびに学位授与判定	木村博 矢島 木村朗 星野
	2年次 3月 全課程修了	木村博 矢島 木村朗 星野
科目の目的	本領域の特論ならびに演習で習得した知識ならびに技術を基盤とした学位[修士（公衆衛生学）]取得のための研究を行う。【研究能力】	
到達目標	【木村博一・矢島正栄・木村朗・星野修平】 1. 研究テーマを設定し、研究の意義・目的を理解することができる。 2. 研究目的を実現するために、自立して研究方法を組み立て、実施することができる。 3. 研究中間発表会や各種学会などでプレゼンテーションをすることができる。 4. 研究成果を学術論文としてまとめることができる。	
成績評価方法・基準	研究中間発表会での発表内容（30%）及び研究論文内容（70%）で総合的に評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各指導教員の指示に従う。	
教科書	各指導教員の指示に従う。	
参考書	各指導教員の指示に従う。	
オフィス・アワー	各教員が随時受け付ける。 木村博一：h-kimura@paz.ac.jp 矢島正栄：yajima@paz.ac.jp 木村朗：a-kimura@paz.ac.jp 星野修平：s-hoshino@paz.ac.jp	
履修条件・履修上の注意		

ナンバリング

ZSH-515

講義科目名称： 感染症学特論

授業コード： M7079

英文科目名称： Advanced Research on Infectious Diseases

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 博一			

授業形態	講義・討論および演習	担当者
授業計画	第1回 感染症学総論	木村博一
	第2-3回 病原体検査法（細菌・ウイルス培養法）	木村博一
	第4-5回 病原体検査法（PCR法、リアルタイムPCR法）	木村博一
	第6-7回 病原体検査法（PFGE法・RFLP法）	木村博一
	第8-9回 病原体検査法（シーケンス法）	木村博一
	第10回 病原体検査法（次世代シーケンス法）	木村博一
	第11回 病原体検査法（イムノクロマト法）	木村博一
	第12-13回 緑膿菌のキノロン系抗菌薬耐性機構機序	木村博一
	第14-15回 ウイルス感染症と喘息	木村博一
科目の目的	細菌、ウイルス感染症の発症機序、病原体検査法（特に遺伝子検査法、抗原検査法、イムノクロマト法など）、生体防御ならびに感染症の予防法ならびに治療法を理解する。【実践能力】	
到達目標	呼吸器感染症、腸管感染症、腸管出血性大腸菌感染症ならびに緑膿菌による敗血症の発症機序、検査法、予防法ならびに治療法を習得する。	
成績評価方法・基準	討論・演習内容(50%)ならびに当該科目の理解度(50%)から総合的に評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前配布資料等を予習すること。必要学習時間は1時間程度。	
教科書	原則、配布資料を基に討論演習を行う。	
参考書	ウイルス感染症の検査診断スタンダード 編集田代真人、牛島廣治、羊土社	
オフィス・アワー	各講義終了後に担当教員が口頭にて質問を受け付ける。（木村博一：h-kimura@paz.ac.jp）	
履修条件・履修上の注意	授業中、携帯電話使用不可	
ナンバリング	ZSH-516	

講義科目名称： 先端感染制御学特論

授業コード： M7080

英文科目名称： Advanced Infection Control Theory

対象カリキュラム： 2024年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 博一	木村 博一	富田 治芳	

授業形態	講義・討論ならびに演習	担当者
授業計画	第1-2回 感染制御学概論 感染制御学を概説する。	木村博一
	第3-4回 抗ウイルス薬の種類と作用機序 種々の抗ウイルス薬の構造、分子薬理学的な作用機序などを概説する。	木村博一
	第5-6回 抗菌薬の種類と作用機序 種々の抗菌薬の構造や薬理学的作用機序を概説する。	木村博一
	第7-8回 ワクチンの種類と作用機序 ワクチンの種類、効果ならびに作用機序を概説する。	木村博一
	第9-10回 消毒薬の種類と作用機序 消毒薬の種類、効果ならびに作用機序を概説する。	木村博一
	第11-13回 環境微生物制御法 環境微生物の測定ならびに制御法を概説する。	木村博一
	第14-15回 多剤耐性菌の耐性機構と制御法 多剤耐性菌（緑膿菌など）の耐性機構と制御法について概説する。	未定
科目の目的	ウイルス感染制御に必要な病原体解析、抗ウイルス薬（核酸アナログやステロイドなど）、ワクチン（弱毒型ワクチンやDNAワクチンなど）、抗菌薬（ベータラクタム系、セフェム系、マクロライド系ならびにキノロン系など）ならびに各種消毒薬などについて学ぶ。【実践能力】	
到達目標	ウイルス感染制御法、抗ウイルス薬、ワクチン、抗菌薬ならびに各種消毒薬などの基盤知識・技術を修得する。	
成績評価方法・基準	討論・演習内容(50%)ならびに当該科目の理解度(50%)から総合的に評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前配布資料等を予習すること。必要学習時間は1時間程度。	
教科書	配布資料等を用いて講義・討論・演習を行う。	
参考書	配布資料等を用いて講義・討論・演習を行う。	
オフィス・アワー	各講義前後に担当教員が口頭にて質問を受け付ける（木村博一：h-kimura@paz.ac.jp；富田治芳：tomitaha@gunma-u.ac.jp）。	
履修条件・履修上の注意	授業中、携帯電話使用不可	
ナンバリング	ZSH-517	